

第13図 IV3群土器分類図

IV 4群(第14図) 主にST01捨て場49～61層で出土した土器と、それに類似する土器群。なお、該当層からは状態の良好な台付皿が2点(324-3、324-4)出土しているが、口縁部の突起の様相などから、IV 5～6群に属すると考えられるため、本群には含めていない。

〔器種・器形〕

深鉢： IV E～IV J類が存在する。他群と比較して形態が多様である。IV G～IV I類は本群のみで認められる器形である。精製は各類が存在するが、粗製はIV G類が主体である。IV I類は台付深鉢で主に認められる。

鉢： IV F～IV H類が存在する。精製はIV G・IV H類、粗製はIV F・IV G類が主体である。IV F類はIV 5群にも存在するが、出土層位により本群と認められるもののほか、底面に圧痕が残るものも本群に含めた。

壺： 大形はIV C・IV D類、小形はIV G・IV I・IV J類が存在する。本群はIV 2・IV 3群と比較して大形の比率が少ない。大形はすべて粗製である。小形はIV I・IV J類が主体で、IV G類が少量含まれる。本群のIV I類は胴部の最大幅が胴部中位にあり、強く湾曲する傾向がある。

注口： IV A類が存在する。306-6や306-7は加曾利B 1式に属するものと考えられる。

台付： 形態は深鉢IV G・IV I類、鉢IV E・IV F・IV G類、壺IV J類が存在する。各器種とも台が付かないものに比べ、底径が小さい。台部は直線的に開く例(320-6など)が主流である。

片口： 深鉢・鉢・壺IV J類が存在する。深鉢は片口にのみ存在する器形のため、該当する器形分類はない。鉢はIV E類(512-2)のほかに器形分類に該当しない一群(324-6など)がある。

壺形はIV 3群に比較して出土例が少ない。壺形の片口部の形状はIV 3群と同様である。深鉢形(326-12)は口縁部の平面形が三角形を呈する特殊な器形である。鉢形は、IV E類が1点、器形分類に該当しない一群が4点であり、後者が主流である。後者の器形は底部が筒状に深く、胴部は直線的に開き、口縁部は内傾する。片口部は筒形で、口縁部から連続せず、胴部に穿孔し取り付ける。器面は黒色を帯び、丁寧なミガキ調整が施される。本群のみに認められる器形である。

單孔： 形態は壺であるが、壺とは形態が異なり、大振りの長胴形である。

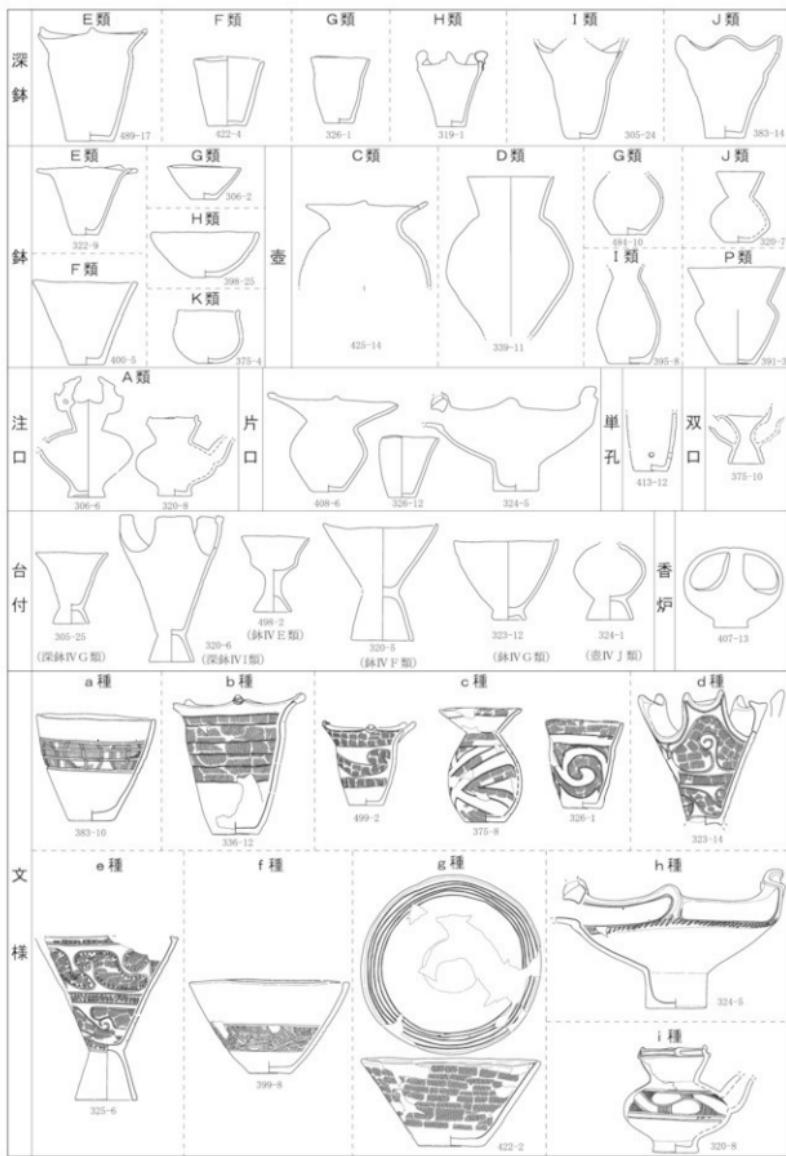
香炉： やや扁平な球形で、胴部上半4か所が大きく開くため、十字の持ち手状を呈する。底部が筒状に深い特徴が本群の注口A類に類似することから、本群に含めた。

双口： ドーナツ状の胴部に2か所の口が付く。底部には台が付く。施文技法が324-2に類似することから、本群に含めた。

小型： 深鉢、壺、台付鉢がある。

〔文様〕 本群では口縁部に装飾性の強い突起をもつ例が特徴的に認められる。また、ほかの群と比較して器面が黒みを帯び、丁寧に磨かれるものが目立つ。精製・粗製とともに口唇部には縄文を施文する例が多い。底面には製作時の圧痕を残すものも少量認められる。粗製土器では口縁部が無文で、胴部のみに縄文が施される例が一定量認められる。文様はa～i種に細分した。

a種： 多重平行沈線文を施すもの。沈線間には継位の蛇行文やノの字文を施す。口縁部と胴部上半の2か所、もしくは胴部上半のみに施文される。鉢では胴部下半に施文される例(400-5)も認められる。文様内には縄文を施す。深鉢や鉢に施文されるが、特に深鉢IV H・IV J類に多い。



第14図 IV群土器分類図

b種：平行沈線文を施すもの。縦位の沈線は施文されない。頭部に数条施文される例(407~5など)と、胴部に主文様として施文される例(336~12など)がある。深鉢IV E・IV G類、鉢IV G・IV H類、壺IV I類などに認められる。

c種：幅広い沈線間に充填繩文を施し、帯状の入組文や渦文、菱形文などを表出するもの。胴部上位～中下位まで施文されるものが多いが、口縁部にも施文する例(305~24)もある。各器種に認められ、本群の中では最も類例が多い。

d種：幅広い沈線間に充填繩文を施し、肥大した曲線文を表出するもののうち、刺突列を伴わないもの。口縁部～胴部全面に施文される。主に台付深鉢に認められる。

e種：幅広い沈線間に充填繩文を施し、肥大した曲線文を表出するもののうち、内側に刺突列を沿わせるもの。口縁部～胴部全面に施文される。主に台付深鉢に認められる。

f種：幅広い平行沈線間に斜行する沈線を交互に充填するもの。主に鉢IV G類に施文される。

g種：内面上位に数条の平行沈線を施文するもの。鉢IV F類に見られる。加曾利B 1式の系統と考えられる。

h種：隆線文の両脇に沈線を施すもの。片口鉢や注口など特殊な器種の口縁部に施文される。器面は丁寧に磨かれる。

i種：丁寧に磨かれた無文地に沈線で施文されるもの。注口の胴部上半に施文される。2条1対の沈線で施文され、文様の接点には円形の刺突が施されるもの(306~6など)と、単独の沈線を組み合わせたもの(320~8)がある。前者は加曾利B 1式の系統と考えられる。

〔特徴〕器種組成が多様であるほか、深鉢や鉢の形態や文様も多様性に富む。口唇部はやや厚みがあり、角状のものが主流である。また、口縁部に装飾性の強い突起をもつ例が一定量存在する。底部はIV 2～3群に比較して径が小さく、注口では筒状に深い。深鉢・壺とも胴部の最大幅部分の渦曲は強く、頭部が屈曲する例が多い。深鉢や鉢の胴部、壺の口縁部などは直線的に開く傾向がある。片口はIV 3群に比べて器種や片口部の形状が多様化する。いずれの器種も器面が黒みを帯び、丁寧にミガキ調整を施す例が特徴的に認められる。また、注口や鉢などでは加曾利B 1式に属すると捉えられる例が確認できる。

IV 5群(第15図) 主にST01捨て場39~41層、ST101捨て場47・65・73・89・112層で出土した土器と、それに類似する土器群。

〔器種・器形〕

深鉢：IV J～IV M類が存在する。精製はIV J・IV M類が主体で、IV K・IV L類が一定量含まれる。粗製はIV L類が主体である。IV M類はIV 6群にも認められるが、本群におけるIV M類は波状口縁の波頂部が丸みを帯びるもの(388~11など)が多い。IV K・IV L類は本群のみに認められる形態である。

鉢：IV F～IV M類が存在する。精製はIV M類が主体でIV G～IV L類が一定量認められる。粗製はIV H・IV L類が主体である。本群における精製の鉢は器壁が全体的に丸みを帯びる傾向がある。

皿：底部から胴部にかけて直線的もしくはやや内湾して開く。底径は口径の1/3以下と小さく、底部から胴部の立ち上がりはやや反るか低い高台が付く。口径が10cm前後の小形に限られる。

壺：大形はIVF類、小形はIVJ～IVN類が存在する。IV 2～3群と比較して大形は少ない。小形はIVK類が主体であり、IVJ、IVL～IVN類は少量含まれる。鉢と同様に全体的に器壁が丸みを帯び、底部は小さいか胴部と一緒に丸みを帯びる傾向がある。

注口：IVB～IVE・IVK類が存在する。IVC・IVD類が主体であり、IVB・IVE・IVF・IVK類が少量含まれる。鉢や壺と同様に全体的に器壁が丸みを帯び、底部が小さいか胴部と一緒に丸みを帯びる傾向がある。IVK類は鉢形と台付鉢形がある。IVB～IVE類は本群のみに見られる器形である。

台付：形態は鉢IVH・IVJ類、皿が存在する。鉢IVH類の台部は胴部の1/2～2/3程度の高さのものが一般的だが、IVJ類(386-3)は極めて小さい。台付皿の内面には縄文が施され、摩滅や敲打痕が顕著に認められる。

異形台付：口縁部のほかに両側面が開口する。3点出土している。

単孔：いずれも内湾する独立した頭部を持つ。胴部は細身で壺とは明らかに形態が異なる。口縁形態は平縁と波状が認められる。単孔付近にアスファルト状の付着物が認められるものが2点(393-4、399-16)ある。

香炉：胴部は扁平で、上面から見ると方形を呈する。方形の各頂点が接着し、ほかは開口する。口縁部は垂直に立ち上がる。底部には台が付く。

小型：形態は鉢、壺が存在する。

〔文様〕各器種とも口縁部から胴部下半にかけて文様が施される。ただし、深鉢K類のみは胴部は無文である。本群は刻み列を多用することが特徴である。また壺形の注口の多くには、胴部に4単位の貼瘤が付く。壺や単孔の一部にも同様の貼瘤が見受けられる。縄文は多条縄文、羽状縄文が特徴的に用いられる。縄文が深く施文されることも本群の特徴である。文様はa～f種に分類した。

a種：多重平行沈線文を施すもの。沈線間には縦位の蛇行文やノの字文を施す。刻み列が併用される。深鉢、鉢などに認められる。IV 4群の文様a種と同種である。

b種：幅広い沈線間に充填縄文を施し、肥大した入組文やクランク文などを表すもの。各器種に認められ、本群の中では最も類例が多い。

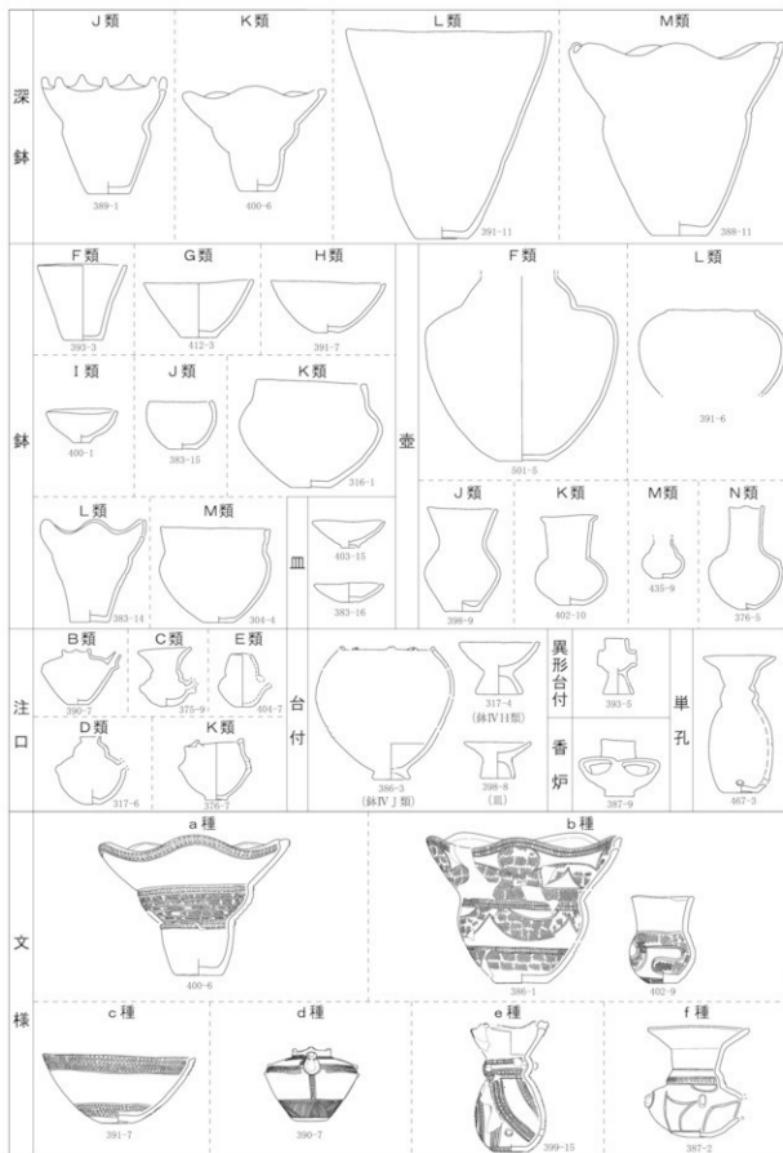
c種：2～5条の平行沈線文内に刻み列を充填する文様を主文様とするもの。鉢や台付鉢などに認められる。

d種：斜行する沈線を交互に施すもの。IV 4類の文様f種と同種である。

e種：微隆起線文を施すもの。1例のみ認められる。

f種：浮彫状の文様を施すもの。器面は丁寧に磨かれる。注口IVD類に認められる。

〔特徴〕他群と比較していずれの器種も器壁が厚く、重量感がある。口唇部は厚く、口縁内側の肥厚が顕著な例(400-6など)が認められる。口唇部は角状が主流である。深鉢の底面形態は平坦なものが多いが、鉢や壺、壺形の注口では底部が小さい傾向があり、上げ底状に反るもの(467-11)や小さな窪みで作出されるもの(402-3など)、丸みを帯びて底面が明瞭でないものの(386-4)も特徴的に認められる。鉢・壺・注口では器壁が球胴状に丸みを帯びる傾向がある。また壺や注口では、内湾する独立した頭部を持つ例が特徴的に見受けられる。器種組成には本群のみに認められる異形台付土器のほか、台付皿や香炉も含まれる。



第15図 IV5群土器分類図

IV 6群(第16図) ST01捨て場21~40層から主に出土する土器と、それに類似する土器群。

〔器種・器形〕

深鉢：IVM・IVO類が存在する。精製はIVM類、粗製はIVO類である。本群におけるIVM類は波頂部が尖る傾向がある。IVO類はIV 7・IV 8群にも認められるが、本群のIVO類は、底部の立ち上がり部分が丸みを帯びる特徴が認められる。ただし、IV 7群の傾向が不明のため、ST01捨て場21~32・40層以外の出土例はIV 6・7群とした。

鉢：IVH・IVM・IVO類が存在する。またIVJ類も本群に含まれる可能性がある。精製はIVM類が主体で、IVH・IVO類が若干認められる。粗製はIVO類が主体である。粗製のIVO類はIV 7・IV 8群にも認められる可能性があるため、ST01捨て場21~32・40層出土例のみ本群に該当させた。

壺：IVE・IVH・IVK~IVN・IVP類が存在する。大形は精製の壺E類が若干量認められるほか、IVD類が本群に含まれる可能性がある。小形はIVH・IVK~IVN類がそれぞれ一定量出土している。

注口：IVF~IVH・IVK類が存在する。IVF類が主体であり、IVG・IVH・IVK類が少量含まれる。各類とも胴部に4単位の貼瘤が付き、口縁部には4~6単位の突起が付く例が多い。IVH類はIVF・G類に比較して大形の傾向がある。

单孔：胴部は細身で壺とは明らかに形態が異なる。口縁部は残存していない。

台付：形態は深鉢IVM類、鉢IVG・IVH・IVM・IVO類、皿である。台部はやや内湾して聞くものが主流である。台部が極めて低い例(467-10)も認められる。台付皿はIV 5群と同様に内面に繩文が施され、摩滅や敲打痕が顕著に認められる。

香炉：いずれも台が付く。胴上半が欠損するものが多い。

多孔底：底面に多数の孔が設けられる。IV 7群と同形態のため分別は不可能である。出土層位で特定できるものののみ本群に含めた。

蓋：蓋と推定される土器が2点出土している。

小型：鉢、壺、注口、香炉、多孔底がある。

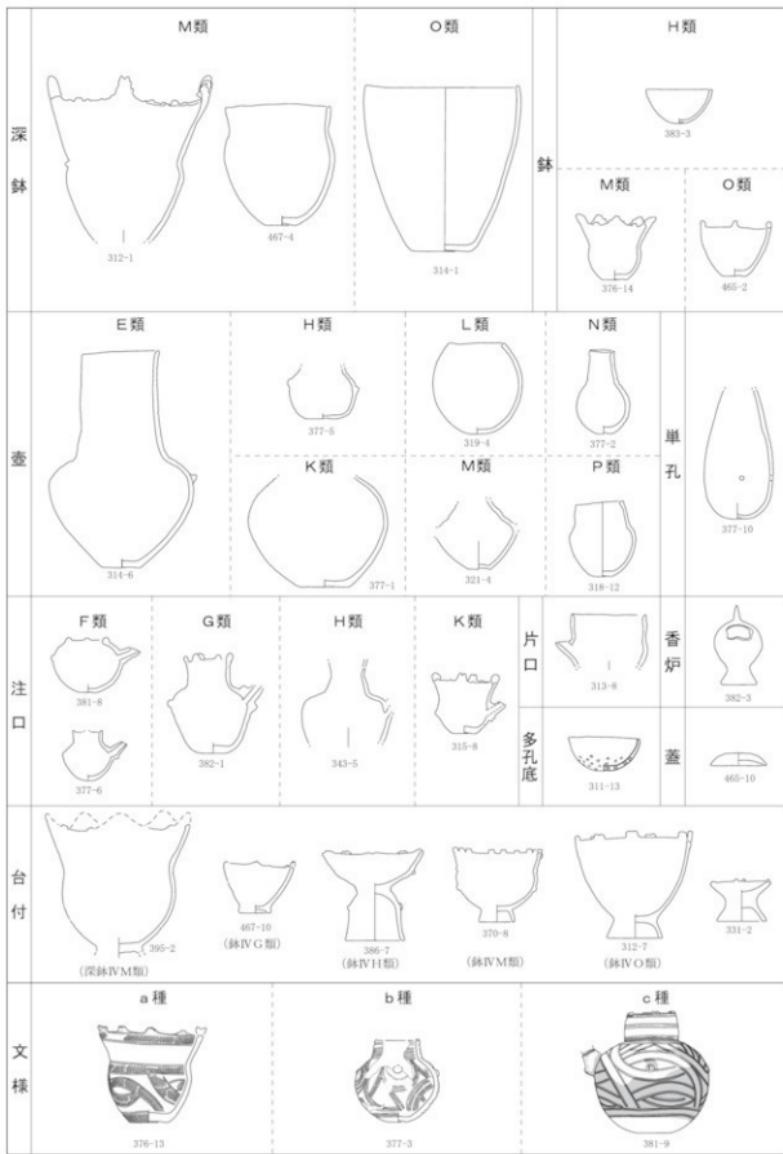
〔文様〕 各器種とも口縁部から胴部下半にかけて文様が施文される。注口のはかに、深鉢や鉢の一部にも貼瘤が付く。粗製深鉢や鉢では、繩文のほかに無文や条痕も多く見受けられる。繩文では細身の繩による羽状繩文(382-5など)が若干認められる。無文ではケズリ調整が施されるものが多い。文様はa~c種に分類した。

a種：幅広い沈線間に充填繩文を施し、帶状の文様を表出するもの。特に揃掛文が多用される。各器種に認められ、本群の中では最も類例が多い。

b種：無文地に沈線で文様を施すもの。香炉の文様はすべて本種である。

c種：微隆起線文を施すもの。微隆起線の両脇には沈線を伴う。注口のみに認められる。

〔特徴〕 口縁部内側の肥厚は深鉢IVM類や鉢IVM類の一部で認められるのみである。口唇部はやや厚く内削状もしくは角状が主流である。いずれの器種も底部径は比較的小さく、深鉢や鉢では平坦もしくはやや上げ底状に反る。壺や注口では小さな突みで作出するもの(343-1)、丸みを帯び底面が明瞭でないもの(370-10)が主流である。器種組成には多孔底と蓋が含まれる。壺が比較的少なく、注口が目立つ。小型土器には香炉や多孔底があり、器種組成を反映した構成となっている。



第16図 IV6群土器分類図

IV 7群(第17図) 6～19層から主に出土する土器のうちIV 8群に含まれないものと、それに類似する土器群。本群が依拠する層位はIV 7・8群が出土するため、該当層位から出土した粗製土器などはIV 7・8群としている。

〔器種・器形〕

深鉢：IVN・IVO類が存在する。精製はIVN類、粗製はIVO類である。IVO類は底部の立ち上がりの形態で、IV 6群に類似するものか、IV 8群に類似するものかを区別し、前者はIV 6・7群、後者はIV 7・8群としている。

鉢：IVM・IVO類が存在する。IVN類も本群に含まれる可能性がある。資料数が少なく、器形の特徴を抽出することができないため、文様がないものはIV 6・8群との区別はできない。

壺：本群に明確に伴う壺は抽出できなかった。

注口：IVH～IVK類が存在する。有文のものはIVH類が主流であり、IVI・IVJ類が一定量認められる。文様を持たないものはIVI・IVJ類があり、いずれも外面に丁寧なミガキが施される。文様を持たないものはIV 8群との区別が困難であるが、底部が小さい高台状のものはIV 8群と考えられる。

香炉：いずれも台が付く。形状は多様である。

多孔底：底部に多数の孔が設けられる。IV 6群と同形態のため分別は不可能である。出土層位で特定できるものののみ本群に含めた。

小型：壺・注口、脚付皿がある。小型の多孔底はIV 6群と区別が付かないが、本群に属する可能性もある。

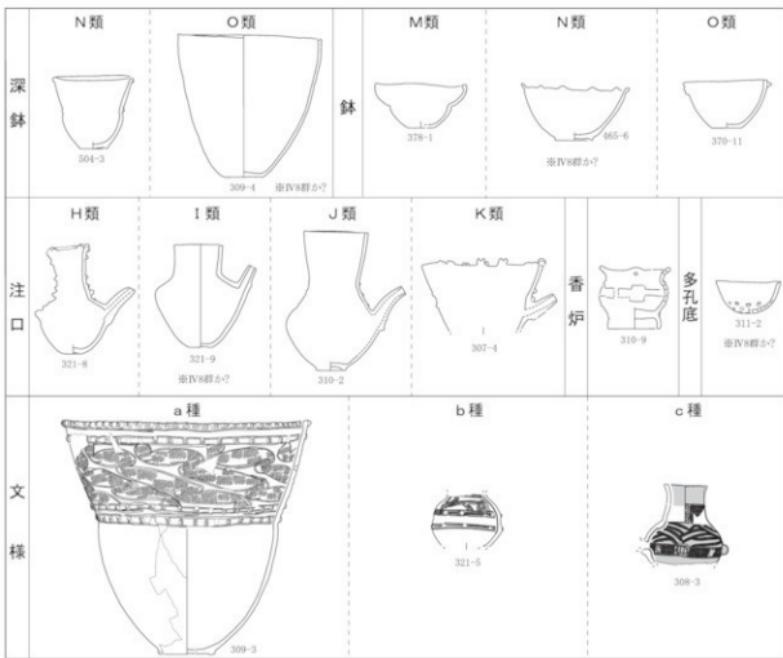
〔文様〕 本群は貼瘤を多用することを特徴とする。文様は深鉢では口縁部のみに、壺や注口では口縁部から胴部上半に施文される。粗製土器は時期比定が難しく、特徴を抽出することが困難であるが、概ねIV 6群と同様と推定される。壺や注口は無文が多く、ミガキ調整が施される。文様はa～c種に分類した。

a種：やや狭い沈線間に充填繩文を施し、帯状の文様を表出するもの。特に入組帶状文が多用される。

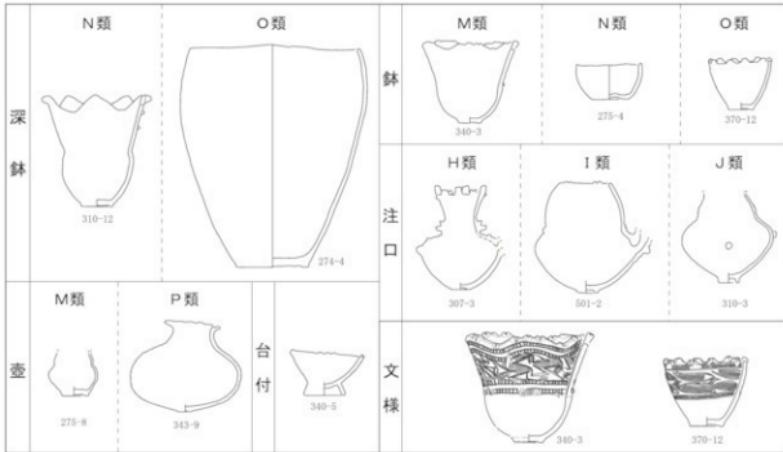
b種：無文地に沈線で文様を施すもの。

c種：微隆起線文を施すもの。微隆起線の両脇には沈線を伴う。微隆起線上に刺突列を施すものもある。

〔特徴〕 他群に比較して器壁が薄い。器高が30cm前後の大型の深鉢においても器壁は薄く、軽い。口縁部の形態は、内削状もしくは角状が主流である。底面は平坦もしくは上げ底状に反るものほかに、低い高台状を呈するもの(309-3など)や小さな窪みで作出するもの(321-8など)がある。器種組成では、IV 6群と同様に壺が極めて少なく、注口が多い。本群では貼瘤を多用する一方、注口などではミガキ調整の無文も目立つ。



第17図 IV7群土器分類図



第18図 IV8群土器分類図

IV 8群(第18図) SX07出土土器とそれに類似する土器群。

〔器種・器形〕

深鉢：IVN・IVO類が存在する。IVN類は精製、IVO類は精製と粗製がある。IVO類はIV 6・7群にも認められるが、本群のIVO類は、底部が低い高台状を呈することが特徴である。ただし、IV 7群の傾向が不明のため、SX07以外の出土例はIV 7・8群とした。

鉢：IVM～IVO類が存在する。資料数が少なく、器形の特徴を抽出することができない。底部には高台を伴う例が多い。

壺：IVM・IVO・IVP類が存在する。資料数が少なく、器形の特徴を抽出することができないため、文様がないものはIV 7群との区別はできない。

注口：IVH～IVJ類が存在する。IVI・IVJ類が主体であり、IVH類は1点が認められるのみである。外面に丁寧なミガキが施されるものが多く、文様が施文されるものは極めて少ない。底部が小さい高台状のものは本群と考えられるが、底部が欠損する場合はIV 7群と区別できない。

台付：形態は鉢IVO類である。1点のみ出土した。

〔文様〕 資料数が少ないため細分はしていない。

深鉢の文様は口縁部のみに施され、胴部は無文である。壺や注口は頸部のみに施文されるもの(501-4)と、頸部から胴部に施文されるもの(308-7など)がある。

刻みが多用され、貼瘤が要所に用いられる。ボタン状(501-4)や隆線状(310-3)の貼瘤も認められる。細い入組帶状文や弧線文が施文され、初現の三爻文が認められるもの(370-12など)もある。深鉢IVO類の精製土器には刻みや貼瘤を持たない例(271-3など)も認められる。粗製土器は時期比定が難しく、特徴を抽出することが困難であるが、概ねIV 6群と同様と推定される。注口や壺は無文が多く、ミガキ調整が施される。

〔特徴〕 IV 7群と同様に、他群に比較して器壁が薄い。器高が30cm前後の大形の深鉢においても器壁は薄く、軽い。口唇部の形態は、内削状もしくは角状が主流である。底部形態は、深鉢や鉢では低い高台状を呈するものが一般的であり、注口では径の小さい高台状を呈する。鉢・台付鉢・壺・注口は出土例が少ないと、IV 7群との明確な特徴差は抽出できなかった。文様は刻み列が多用され、多様な貼瘤が要所に付される。IV 7群と同様に、壺や注口では文様が施文されず、ミガキ調整の無文が主流である。

V群 弥生時代に属する土器

ST202捨て場から器形が明らかな深鉢が2点と、遺構内から土器片1点が出土した。そのほか、各捨て場及び遺構外から土器破片が20点程度出土している。胴部は内湾して立ち上がり、頸部で括れ口縁部は聞く。口縁形態は低い波状である。文様帶は胴部上位で、いずれも変形工字文が施される。口唇部には刻みか繩文が施文される。口縁部内側には沈線が巡る例(468-14)がある。繩文の施文方向は斜位である。

2 石器・石製品

(1) 整理・掲載基準概要

《整理・掲載方法》 遺構内出土石器は出土層位や帰属時期に関わらず可能な限り掲載することとした。縮尺は器種に応じて異なるため、各図ごとに縮尺を記載した。捨て場・遺構外出土石器の整理・掲載方法は「第4章第3節5捨て場」に詳細を記載しているため、そちらを参照いただきたい。掲載した石器の法量などは遺構内出土石器は第15表に、捨て場・遺構外出土石器は第20表に記載した。未掲載の石器についても捨て場と遺構外から出土した石器はすべて番号を振り、分類を行った。それらの詳細は第76~81表にすべて記載している。また、各器種における分類ごとの出土点数は第68表に記載した。

《石器計測表について》

第15~20表に掲載した法量値は、図面上で計測した値である。遺物を正位置の状態で、上端と下端の平行線間の距離を「長さ」とし、それに直交する軸における遺物の最大幅を「幅」とした。

(2) 分類

個体の持つ形態や技法上の特徴から、大分類（アルファベット大文字）と小分類（アルファベット小文字）を行ったが、形態・技法上で特に大きな分類項目を必要とする場合やこれら以外の分類要素がある場合は、ローマ数字を用いた。石錐から礫器を石器、線刻礫以降を石製品と捉え、石製品は第4分冊に集成図を掲載した。分類ごとの実例は図版192~219に掲載した。なお、折損しているものは器種不明としたが、その中には石匙などの製品が多数含まれているものと考えられる。

石錐(図版192~195)

多くは、扁平な三角形状か木葉状を呈する石器で、全面に調整を施したもののがほとんどである。石槍と区別するのに、7cm未満のものを対象にした。

A類 器体が三角形状で、茎部が作出されないもの(無茎)。

a 類：基部が凹状のもの(凹基)。

b 類：基部がほぼ水平のもの(平基)。

c 類：基部が凸状のもの(凸基)。

B類 器体が三角形状で、茎部が作出されるもの(有茎)。器体の側縁は直線的なものが主流であるが、やや括れるもの(452-9など)も認められる。

a 類：器体が左右対称で、基部が凹状のもの(凹基)。

b 類：器体が左右対称で、基部がほぼ水平のもの(平基)。

c 類：器体が左右対称で、基部が凸状のもの(凸基)。

d 類：左右非対称のもの。

C類 器体が木葉形状のもの。茎部は作出される。

a 類：器体が左右対称のもの。

b 類：器体が非対称のもの。

D類 茎部の基端が幅広なもの。基端の形状は凸状のもの(凸基)と二股のものがある。

石槍(図版197)

扁平で両端もしくは一端が尖り、最大幅部断面が菱形状を呈する石器である。石鎌と区別するのに、7cm以上のものを対象にした。

A類 刃部と基部の境が不明瞭なもののうち、木葉状を呈し、長軸中央に最大幅があるもの。

a類：刃部先端が尖るもの。基部末端は弧状である。

b類：刃部先端が弧状のもの。基部末端には一次面を残す。

B類 刃部と基部の境が明瞭なもの。刃部は三角形状を呈し、基部は長方形である。

C類 刃部と基部の境が不明瞭なもののうち、滴状を呈し、長軸下方に最大幅があるもの。

石錐(図版195・196)

断面が菱形や三角形状の尖頭部を持つ石器である。

A類 基部と錐部の境が明瞭なもののうち、丁寧な調整により基部が作出されるもの。基部の長軸より錐部が長く、錐部は先細りの棒状である。

a類：基部が左右対称で、基部上端が平坦なもの。

b類：基部が左右対称で、基部上端が凹状のもの。

c類：基部が左右対称で、基部上端が凸状のもの。

d類：基部が非左右対称のもの。

B類 基部と錐部の境が不明瞭なもの。

a類：基部の全面に調整を施す。

b類：基部の一部に調整を施す。

c類：基部に調整を施さない。

C類 基部と錐部の境が明瞭なもののうち、基部の調整が粗雑もしくは調整を加えないもの。

D類 両端が細く尖るもの。中央部は大きく膨らむ。

棒状尖頭器(図版198)

尖った先端を持つ細長い棒状の石器である。

A類 両端が尖頭状を呈するもの。

a類：中央部の断面形が菱形状を呈する。

b類：中央部の断面形が凸レンズ状を呈する。

c類：中央部の断面形が三角形状もしくは台形状を呈する。

d類：中央部の断面形が平坦な六角形状を呈する。

B類 一端が尖頭状を呈するもの。

a類：中央部の断面形が菱形状を呈する。

b類：中央部の断面形が凸レンズ状を呈する。

c類：中央部の断面形が三角形状もしくは台形状を呈する。

有撮石器(図版202)

全面に調整を施した扁平な細身の形態で、一端につまみが付き対極が尖っている石器である。

石匙(図版199~201)

つまみ部を持つ石器である。

A類 つまみ部を縦にした場合、器体の長軸が縦位方向のもの。

a 類：先端が円刃状を呈する。

b 類：先端が尖る。

c 類：先端が直刃状を呈する。

d 類：先端が抉入状を呈する。

B類 つまみ部を縦にした場合、器体の長軸が横位方向のもの。

a 類：左右の先端が円刃状を呈する。

b 類：左右の先端は一方が円刃状で他方が尖る。

c 類：左右の先端が尖る。

d 類：左右の先端は一方が円刃状で他方が直刃状を呈する。

e 類：左右の先端が直刃状を呈する。

C類 つまみ部を縦にした場合、器体の長軸が斜位方向のもの。

a 類：先端が円刃状を呈する。

b 類：先端が尖る。

c 類：先端が直刃状を呈する。

d 類：先端が抉入状を呈する。

D類 つまみ部を縦にした場合、器体の長軸方向が定まらないもの。

a 類：先端が円刃状を呈する。

b 類：先端が尖る。

c 類：先端が直刃状を呈する。

E類 つまみ部を作り出しが、器体の側縁に明瞭な調整がないもの。

a 類：器体の長軸が縦位方向のもの。

b 類：器体の長軸が横位方向のもの。

c 類：器体の長軸が斜位方向のもの。

d 類：器体の長軸が定まらないもの。

F類 上記分類に当てはまらないものを一括した。

トランシェ様石器(図版197·202)

刃部に剥皮面もしくは一次剥離面を残す撥形状の石器である。剥片を素材にしている。

A類 刃部と基部に一次面が残存する。

B類 刃部だけに一次面が残存する。

石箒(図版197·202·203)

撥形あるいは長方形状のいわゆるヘラ状を呈した石器である。剥片を素材にしている。

A類 刃部が円刃状を呈するもの。

a 類：最大幅は刃部で、基部にかけてほぼ同様な幅で推移し、基部は円刃状に調整を施す。

b 類：最大幅は刃部で、基部にかけて徐々に窄まり、基部は小さな円刃状を呈する。

c 類：最大幅は刃部で、基部にかけて窄まり、基部は尖頭状を呈する。

d 類：最大幅は刃部で、基部にかけて窄まり、基部は粗い作り。

e 類：最大幅は長軸中央部で、基部も円刃状を呈する。

f 類：上記の分類に当てはまらないもの。

B類 刃部が直刃状を呈するもの。

- a類：最大幅は刃部で、基部にかけてほぼ同様な幅で推移し、基部も直刃状を呈する。
- b類：最大幅は刃部で、基部にかけて窄まり、基部は尖頭状を呈する。
- c類：最大幅が刃部で、基部にかけて窄まり、基部は粗い作りである。
- d類：最大幅は長軸中央部で、基部は粗い作りである。

スクレイパー(図版204~206)

剥片の側縁に二次調整による刃部を持つ石器である。I類は、剥片の打点と対極の縁辺を調整し、刃部として利用したもの。II類はその特徴をもたないものである。

I A類 素材が縦長剥片のもの。

- a類：円刃状の刃部を作出する。
- b類：尖頭状の刃部を作出する。

I B類 素材が横長剥片のもの。

- a類：長軸端部のいすれかに調整を施す。
- b類：長軸端部に調整を施さない。

II A類 定型的なもののうち、円形もしくは楕円形を呈するもの。

- a類：全周に調整を施す。

- b類：部分的あるいは一部を除いて調整を施す。

II B類 定型的なもののうち、木葉形を呈する。

- a類：両側縁に調整を施すもの。

- b類：両側縁に部分的あるいは一部を除いて調整を施す。

II C類 定型的でないもののうち、主として長軸の一端が先細りの三角形のもの。

- a類：三辺に調整を施す。

- b類：二側縁に調整を施す。

- c類：一側縁に調整を施す。

II D類 定型的でないもののうち、主として長軸のある四辺で構成するもの。

- a類：全辺に調整を施す。

- b類：一端と二側縁に調整を施す。

- c類：一端と一側縁に調整を施す。

- d類：二側縁に調整を施す。

- e類：一側縁に調整を施す。

II E類 定型的なもののうち、円形・楕円形・木葉形以外の形態のもの。

F類 上記分類に当てはまらないもの。

柄付きスクレイパー(図版201・206)

スクレイパーの主要な刃部と対極に、細長い柄の付く石器である。

A類 器体が不整円形もしくは半円形のもののうち、柄が直線状もしくは先端が僅かに広がるもの。

- a類：柄を縱にした場合に器体が縦長のもの。

- b類：柄を縦にした場合に器体が横長のもの。

- c類：柄を縦にした場合に器体の縱横が不明瞭なもの。

B類 器体が不整円形もしくは半円形のもののうち、柄の先端が二股に分かれるもの。

C類 器体が不整形のもの。

抉入スクレイパー(図版206)

剥片の側縁に二次調整による抉りを持つ石器である。

鋸歯縁石器

側縁に凹凸のある小さな剥離が連続する石器である。

楔形石器

剥片の上下端部が、平行になるように調整された石器である。

異形石器(第615図、図版207)

器種が限定できない石器のうち、丁寧な調整を全面的に施し意図的な形に作られた石器である。

A類 長軸を縱にした場合、左右の突出部がほぼ対称をなすもの。

B類 長軸を縱にした場合、左右の突出部が対をなすもの。

C類 嘴形を呈するもの。

D類 不整形を呈するもの。

E類 上記の分類に当てはまらないもの。

三脚石器(第615図、図版207)

等間隔の3つの脚と台部で構成され、脚を平坦面に接地した場合、台部上面が平坦面になる石器である。分割礫を素材にしたと考えられる。

打製石斧(図版210)

甲高で、撥形あるいは長方形状を呈した斧形のうち、完成品が打製の手法による石器である。礫を素材にしている。

A類 長軸中央に最大幅があるもののうち、刃部と基部が円刃状のもの。

B類 長軸中央に最大幅があるもののうち、刃部は円刃状で基部は粗い作りのもの。

C類 刃部に最大幅があり、丁寧に整えた基部に向かって徐々に窄まるもの。

D類 上記の分類に当てはまらないもの。

磨製石斧(図版208)

撥形あるいは長方形状を呈した斧形のうち、完成品が磨製の手法による石器である。殆どが基端部を除き磨かれており、刃部は両刃の円刃で、側縁が平坦な石器である。大きさにより機能の違いが想定され、長軸長と重量の関係を検討した結果、長軸7cmほどで重さ50g代の空白領域を除いて大小の連続性が認められた。よって、50g以上をI類それ以下をII類に分類した。

I A類 刃部と側縁の境に最大幅があり、基部にかけて徐々に窄まるもの。

I B類 刃部と側縁の境よりやや基部よりに最大幅があり、基部にかけて徐々に窄まるもの。

I C類 最大幅が中央辺りにあり、基部にかけて緩く窄まるもの。

- II A類 刃部と側縁の境に最大幅があり、基部にかけて徐々に窄まるもの。
- II B類 刃部と側縁の境よりやや基部よりに最大幅があり、基部にかけて徐々に窄まるもの。基部周辺に磨きが施されない例(507-4)がある。
- II C類 最大幅が中央辺りにあり、基部にかけて緩く窄まるもの。
- II D類 素材は刃部とほぼ同じ幅で細長く、基部で短く窄まり、全面に磨きがあり基部は刃部状の薄い作りのもの。
- II E類 両端にはほぼ同じ幅の刃部があり、素材は刃部とほぼ同じ幅で細長く、両側縁を磨いていないもの。

石核

剥片素材を得るための母材のうち、最終段階を示す石器である。礫を素材にしている。

- A類 扁平な自然礫の側縁から、全周するように両面から剥片を得ており、残核は両面体状を呈する。
- B類 やや厚手の剥片を素材に、主に側縁を全周するように剥片を得ており、残核は薄い円錐状もしくは皿状を呈する。
- C類 刃部状を呈する側縁の反対側に細長い平坦面を形成し、平坦面では垂直方向もしくは水平方向に、刃部状の側縁では両面から打撃を加えて剥片を得ており、残核は舟形状を呈する。
- D類 分厚い椀形の分割素材を基に、縁辺を全周するように分割面中央へまた分割面の垂直方向へそれぞれ打撃を加えて剥片を得ており、残核は椀形状や皿形状を呈する。
- E類 分厚い椀形の分割素材を基に、縁辺を全周するように分割面の垂直方向へ打撃を加えて剥片を得ており、残核は厚い円錐状を呈する。
- F類 自然礫もしくは分割礫を素材に三面以上の面を利用して、打面を変えながら剥片を得ており、残核は多面体のブロック状を呈する。
- G類 上記分類に当てはまらないもの。

扁平打製石器(図版209)

横軸が縦軸と同じかそれよりも長い扁平な碟で、下辺(底縁)に刃部があり両側縁に調整を持つ石器である。礫を素材にしている。

- A類 上辺が弧状で、両側縁辺に弧状の調整があるもの。
- B類 上辺が弧状で、両側縁辺に弧状と直線状の調整があるもの。
- C類 上辺が弧状で、両側縁辺に弧状と窪み状の調整があるもの。
- D類 上辺が弧状で、両側縁辺に窪み状の調整があるもの。
- E類 上辺が直線状で、両側縁辺に直線状の調整があるもの。
- F類 上辺が直線状で、両側縁辺に直線状と窪み状の調整があるもの。
- G類 上辺が直線状で、両側縁辺に窪み状の調整があるもの。
- H類 上記の分類に当てはまらないもの。

石鍤(図版210)

扁平な礫に紐を回すための窪みや刻みを持ったり、紐の痕跡が確認できる石器である。

- A類 長軸方向の両端中央に粗い窪み部があるもの。
- B類 長軸方向の両側縁中央に粗い窪み部があるもの。
- C類 長軸方向の両端と両側縁中央に、粗い窪み部があるもの。
- D類 長軸方向の両端中央に細い刻み目があるもの。
- E類 長軸方向の両側縁中央に紐を回した痕跡があるもの。
- F類 上記分類に当てはまらないもの。

敲石

礫の端部や側縁に敲打痕のある石器である。

- A類 扁平な礫を素材とするもの。

- a類：長軸の一端に敲打痕がある。 b類：長軸の両端に敲打痕がある。
- c類：短軸の一側縁に敲打痕がある。 d類：短軸の二側縁に敲打痕がある。
- e類：短軸端と長軸端に敲打痕がある。
- B類 細長い棒状礫を素材とするもの。
 - a類：一端に敲打痕がある。 b類：両端に敲打痕がある。
 - c類：上記分類に当てはまらないもの。

門石

礫の平坦面や側面に、意図的な窪みを持つ石器である。

- A類 扁平な礫を組材にしたもの。

- a類：片面に窪みがある。 b類：両面に窪みがある。
- c類：両面と側縁に窪みがある。
- B類 細長い棒状礫を組材にして側面に窪みがあるもの。
- C類 上記分類に当てはまらないもの。

磨石

礫の一部もしくは大部分に、平坦な磨面を持つ石器である。

- A類 扁平な礫を組材にしたもの。

- a類：片面に磨面がある。 b類：両面に磨面がある。
- c類：扁平な面と側縁に磨面がある。
- B類 細長い棒状礫を組材にして一端と両面に磨面があるもの。
- C類 上記分類に当てはまらないもの。

石皿(図版211)

多くは平坦な礫を用いて幅広の平坦面を形成する石器である。そのうち、加工しない礫に磨面のあ

るものをⅠ類、加工した礫に磨面のあるものをⅡ類とする。明確な縁が認められる場合、それを外縁と呼び側縁と区別して用いる。Ⅰ類には外縁を持つ例はない。

Ⅰ A類 磨面が片側のもの。

a類：磨面が窪むもの。

b類：磨面は平坦なもの。

Ⅰ B類 磨面が両面のもの。

a類：磨面が窪むもの。

b類：磨面は平坦なもの。

Ⅱ A類 磨面が片側のもの。

a類：外縁があるもののうち、磨面と外縁の境が屈折もしくは屈曲するもの。

b類：外縁があるもののうち、磨面と外縁の境が緩やかなもの。

c類：外縁がないもののうち、磨面が窪むもの。

d類：外縁がないもののうち、磨面が平坦もの。

Ⅱ B類 磨面が両側のもの。

a類：両面とも磨面と外縁の境が屈折するもの。

b類：片側は磨面と外縁の境が屈折もしくは屈曲し、反対側は磨面と外縁の境が緩やかなもの。

c類：両面とも磨面と外縁の境が緩やかなもの。

d類：片面は磨面と外縁の境が屈折し、反対側は外縁がなく磨面が窪むもの。

e類：片面は磨面と外縁の境が緩やかで、反対側は外縁がなく磨面が窪むもの。

f類：両面とも外縁がなく磨面が窪むもの。

Ⅱ C類 上記Ⅱ類の分類に当てはまらないものを一括した。

砥石(図版211)

平坦な礫を用いた研磨するための石器である。

A類 平坦な砥面を持つものである。

a類：砥面に線刻状の痕跡がある。

b類：砥面に溝状の痕跡がある。

c類：砥面に線刻状・溝状の痕跡がある。

B類 湾曲する砥面をもつものである。

a類：砥面が1か所のもの。

b類：砥面が複数存在するもの。

C類 上記分類に当てはまらないものを一括した。

岩板

両面や縁を加工した板状を呈する石器である。

礫器(図版212)

礫の一部に調整のある石器である。

A類 長軸の端に調整を持つもの。

a類：礫長軸の一端に粗い調整があるもの。

b類：礫長軸の両端に粗い調整があるもの。

B類 長軸の一側縁に粗い調整があるもの。

- C類 長軸の一端と側縁の一端に粗い調整があるもの。
- D類 長軸の一端と両側縁に粗い調整があるもの。
- E類 上記分類に当てはまらないもの。

線刻礫(集成図第615図、図版213)

礫に線を刻んだ石器である。

- A類 複雑な線刻があるもの。
- B類 一定方向に単調な線刻があるもの。

有孔石製品(集成図第616図、図版214)

礫を磨き、穿孔を施す石器である。孔が貫通するものと盲孔のものがある。石質を基準に分類した。

- I類 装飾品と考えられるもののうち、翡翠や緑閃石岩製などの光沢のある緑色系石材を素材とするもの。
- II類 装飾品と考えられるもののうち、光沢のある褐色系石材を除いたもの。
- III類 装飾品ではないと考えられるもの。

板状石製品(集成図第617図、図版215)

礫を板状に加工したもので、文様は施していない。礫を素材にしている。

- A類 板状で円形を呈するもの。
 - a類：両面と縁辺を磨くもの。
 - b類：縁辺は打ち欠いたままのもの。
- B類 板状で長方形を呈し、両面と縁辺を磨くもの。
- C類 板状で台形もしくは三角形を呈し、両面と縁辺を磨くもの。

有溝石製品(集成図第617図、図版215)

礫に溝状の線刻を施した石器である。

球状石製品(集成図第615図、図版219)

礫の全面を磨いた球体を呈する石製品である。

- A類 球体状のもの。
 - a類：突起が付かない。
 - b類：突起が付く。
- B類 球体状が連結するもの。
 - a類：突起が付かない。
 - b類：突起が付く。

椀形石製品(集成図第616図、図版215)

礫を椀形に削り抜いた石製品である。

石棒(集成図第618図、図版216)

全面的に磨かれた棒状を呈する石製品である。棒状先端に装飾のあるI類とそれがないII類に分類する。礫を素材にしている。

IA類 太く大振りのもの。

a類：独立した亀頭状の単純な装飾を持ち、上面觀は同心円のもの。

b類：独立した亀頭状の単純な装飾を持ち、上面觀は梢円のもの。

c類：先端に僅かな括りがあり、先端に沈線による文様があるもの。上面觀は同心円である。

d類：先端側に区画を示す雑な沈線による文様があるもの。上面觀は同心円である。

IB類 細身のもの。両端あるいは片方に亀頭状の装飾があり、中央部に最大径がある。亀頭部分に精緻な装飾を施す例(447-1など)がある。

IIA類 一端が尖り反対側の先端は尖らない。尖らない先端側に区画を示す沈線がないもの。

IIB類 一端が尖り反対側の先端が尖らない。尖らない先端側に区画を示す沈線があるもの。

IIC類 II A・II B類に含まれないもの。

石劍(集成図第619図、図版217)

握り部のある扁平な細長い形態で、両側縁が鋭角で直線的である。礫を素材にしている。

A類 両面断面が緩い曲線のもの。

B類 片面断面の中央が稜線による緩い角状を呈するもの。

石刀(集成図第619図、図版217)

握り部のある扁平な細長い形態で、側縁の片側が鋭角な内反りを呈する。礫を素材にしている。

A類 柄の先端に沈線の区画を持つもの。

B類 柄の先端に突出部があるもの。刃部は峰の幅が広く、全体の断面は三角形状で分厚いもの。

C類 柄の先端に沈線の区画や突出部がなく、穿孔を施すもの。

D類 上記分類に当てはまらないもの。

青竜刀形石器(集成図第616図、図版218)

棒状の柄と扁平な半月状の刃部縁が連結した形態で、いわゆる中国の青竜刀の形をした石製品である。弧状部分には浅い溝が形成されている。礫を素材にしている。

石冠(集成図第619図、図版218)

底面が長方形で長軸の両端が三角形の三角柱体を呈する形態である。礫を素材にしている。頭部の縦断面が鋭角なものをI類、コの字状のものをII類とする。I・II類とも横断面の両隅は、鋭いものと丸みを持つものがある。礫を素材にしている。

IA類 底面が凸面状を呈するもの。

IB類 底面が平坦なもの。

IC類 底面が凹面状を呈するもの。

IIB類 底面が平坦なもの。

岩偶(集成図第617図、図版219)

礫を偶像化した石器である。礫を素材にしている。

動物形石製品

礫を動物形に象った石器である。礫を素材にしている。

ミニチュア(図版219)

石器の器種を小さく象った石器で、実用には用いない。礫を素材にしている。

第12表 石器・石製品出土点数及び掲載率

種別	通横内				ST01				ST102				ST311				ST404				通横外				
	出土 点数	掲載 率																							
石礫	53	51	96%	250	61	2%	365	95	26%	179	59	33%	103	24	23%	46	18	22%	145	45	31%	1141	345	30%	
石礫の未製品	3	3	100%	8	0	0%	8	0	0%	9	0	0%	2	1	50%	-	-	-	3	0	0%	33	4	12%	
石堆	2	2	100%	10	4	40%	3	2	67%	2	2	100%	3	3	100%	-	-	-	9	9	100%	29	22	76%	
石錐	8	8	100%	64	15	23%	72	31	43%	38	15	39%	28	14	50%	11	4	36%	41	17	41%	262	104	39%	
石錐の未製品	-	-	-	-	-	-	1	0	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0%		
棒状アーチ器	2	2	100%	50	23	46%	63	25	40%	19	5	26%	10	4	40%	6	2	33%	14	11	79%	164	72	44%	
棒状アーチ器の未製品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	50%	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	50%		
有邊石器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	50%		
石鉗	54	50	93%	517	63	12%	269	149	39%	440	147	33%	67	7	10%	119	18	15%	270	39	14%	226	473	21%	
石鉗の未製品	2	2	100%	1	0	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	67%		
トランシエ様	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	29%		
石器	-	-	-	4	1	25%	3	0	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	3	50%	14	4	29%
石錐	11	10	91%	14	3	21%	19	8	42%	9	5	56%	7	2	29%	8	4	50%	42	21	50%	110	53	48%	
スクレーパー	143	108	76%	748	87	12%	604	53	9%	178	20	11%	156	12	8%	248	19	8%	483	39	8%	260	340	13%	
柄付	-	-	-	9	5	56%	17	7	41%	5	2	40%	2	0	0%	8	3	38%	8	0	0%	49	17	39%	
スクレーパー	2	2	100%	5	3	60%	2	1	50%	2	0	0%	3	0	0%	3	0	0%	11	1	9%	28	7	29%	
嵌入	-	-	-	1	1	100%	1	1	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	100%			
スクレーパー	-	-	-	2	2	7%	14	2	14%	-	-	-	1	1	100%	6	0	0%	7	0	0%	55	5	9%	
嵌形石器	2	2	100%	9	6	67%	9	9	100%	6	5	83%	-	-	-	4	4	100%	4	3	75%	34	29	85%	
三開口器	-	-	-	1	0	0%	1	1	100%	-	-	-	1	1	100%	1	1	100%	3	3	100%	7	6	86%	
打製石器	-	-	-	5	4	80%	5	4	80%	1	0	0%	1	0	0%	1	1	100%	3	1	100%	14	10	71%	
磨製石器	9	9	100%	65	14	22%	154	31	20%	31	5	16%	19	2	11%	19	3	16%	56	8	14%	356	72	20%	
磨製石器の未製品	-	-	-	2	0	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0	0%		
石核	75	15	21%	57	3	5%	28	2	7%	7	1	14%	18	1	6%	8	0	0%	44	3	7%	7	23	25%	
扁平打製石器	15	15	100%	2	1	50%	4	0	0%	1	1	100%	3	0	0%	-	-	-	70	9	13%	95	26	27%	
石錐	-	-	-	4	3	72%	8	6	75%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	6	30%	29	15	52%
駒石	44	11	25%	107	11	10%	74	6	8%	5	0	0%	11	0	0%	5	1	20%	62	4	6%	308	31	11%	
凹石	47	34	72%	221	6	3%	266	13	5%	3	0	0%	15	0	0%	12	1	8%	135	0	0%	696	54	8%	
穿孔石器	164	20	15%	114	4	4%	117	5	4%	2	0	0%	7	1	14%	5	1	20%	83	2	2%	492	37	8%	
石皿	35	31	84%	43	11	26%	124	29	36%	3	1	33%	17	2	12%	15	6	40%	63	5	8%	303	26	25%	
皿の未製品	-	-	-	1	0	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0	0%		
砾石	1	1	100%	13	4	31%	38	2	5%	-	-	-	6	0	0%	4	0	0%	34	1	3%	96	8	8%	
砂岩	-	-	-	2	1	50%	1	0	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	67%	6	3	50%
礫	1	0	0%	6	1	17%	7	4	57%	1	1	100%	1	0	0%	1	0	0%	21	3	14%	38	9	24%	
砾利卵	1	1	100%	4	1	25%	4	4	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	5	56%	19	11	58%
有孔石製品	9	9	100%	14	14	100%	32	27	84%	2	1	100%	5	4	80%	5	5	100%	31	2	67%	70	62	89%	
板状石製品	5	4	80%	20	9	45%	14	11	79%	3	2	67%	5	3	60%	9	5	56%	18	6	33%	74	40	54%	
有翼石製品	3	3	100%	-	-	-	1	1	100%	-	-	-	2	2	100%	1	1	100%	-	-	-	5	5	100%	
球狀石製品	-	-	-	4	1	25%	2	1	50%	7	2	29%	1	1	100%	1	1	100%	31	3	100%	18	9	50%	
柄状石製品	1	1	100%	1	1	100%	1	1	100%	-	-	-	-	-	-	1	1	100%	3	2	67%	7	6	86%	
砂神	3	3	100%	5	4	80%	20	18	90%	36	16	100%	3	2	67%	3	2	67%	9	8	89%	99	53	90%	
石剣	-	-	-	-	-	-	1	1	100%	3	1	100%	-	-	-	1	1	100%	3	1	100%	4	4	100%	
石剣の未製品	-	-	-	-	-	-	2	2	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	100%			
石刀	1	1	100%	4	3	75%	4	4	100%	-	-	-	2	2	100%	-	-	-	3	1	100%	12	11	92%	
石刀の未製品	-	-	-	-	-	-	1	1	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	100%			
青黒万形石器	-	-	-	1	1	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	100%			
石冠	-	-	-	2	2	100%	5	5	100%	1	1	100%	1	1	100%	-	-	-	2	1	50%	11	10	91%	
岩漬	-	-	-	-	-	-	1	1	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	100%			
動物形石製品	-	-	-	-	-	-	1	1	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	100%			
ミニチュア	-	-	-	-	-	-	1	1	100%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	100%			
石製品	1	0	0%	12	7	58%	7	4	57%	1	0	0%	1	1	100%	2	1	50%	3	1	33%	27	14	52%	
石製品の未製品	-	-	-	1	0	0%	1	0	0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0	0%			
脊椎不明	1	1	100%	273	0	0%	138	0	0%	47	0	0%	46	0	0%	72	0	0%	175	0	0%	757	1	0%	
計	696	401	58%	2700	280	14%	3015	563	19%	1021	260	29%	547	91	17%	633	96	17%	1868	268	14%	10480	2092	20%	

3 土製品

遺構内から21点、捨て場・遺構外からは736点の土製品が出土した。種別ごとの数量は、円盤状土製品が274点と最も多く、統いて土偶155点、環状土製品103点、鐸形土製品70点、耳飾り58点、垂飾形土製品14点、分銅形土製品11点、スタンプ形土製品9点である。ほかにキノコ形土製品・球状土製品・土版・動物形土製品などがそれぞれ少量出土した。出土地点別の出土点数及び掲載率は第13表の通りである。掲載遺物の詳細は第22~27表に記載した。種別ごとの集成図は第620~630図に掲載した。

なお、ここで記載した点数は、接合したものは複数の捨て場から出土したものでも1点と数え、出土地点は最も大きい破片に属させた。同一個体でも接合しない場合は、それぞれを1点として計上した。

土偶(集成図第620・621図、第22表、図版220~222)

遺構内4点を含む155点が出土した。形態は立体が多数を占め、板状は破片数11点のみである。実測可能なものはすべて実測し、掲載した。

板状土偶は後期初頭に典型的に認められる体部が逆三角形を呈するものである。その内1点(371-15)には腕の表現が認められる。破片数11点のうちST404出土の頭部(502-2)と胸部(504-13)が同一個体と推定できることから、板状土偶の個体数は10点である。頭部が3点、体部が8点で、全形が残存するものはない。体部の残存率はすべて1/2以下と、破損が著しい。出土地点は、ST311を除いた各捨て場、及び遺構外であり、それぞれ1~3個体と遺跡全体から散出している。

立体の土偶は137点である。頭部・腕部など単独部位のみが残存するものが多く、総数で100点を超える。立像と屈折像に分類でき、立像は33点、屈折像もしくは屈折像と推定できるものは16点、ほかは破片のため不明である。

屈折像としたもののうち胴から足が残存しており、明らかに屈折像とわかるものは3点(380-1、412-8、416-5)のみである。これらはいずれも10cm以下の小形の土偶である。ほかは単独部位のみが残存する。腕を十字に組んでいるものが5点(322-1-(1)ほか・341-1・341-2・371-23・未掲載)、合掌しているもの1点(416-6)、腕の形状は不明であるが腕を膝に乗せているもの2点(328-5・412-7)が確認できる。なお、腕を十字に組むものは、すべて左腕を立て、右腕を水平に置く。

立体の土偶の大きさは、推定値ではあるが、30cm前後のもの(大形)、15~20cm前後のもの(中形)、10cm未満(小形)のものに分類できる。大きさが推定できる61点のうち、30cm前後が7点、15~20cmが37点、10cm未満は17点であり、中形が最も多い。成形技法は317-12を除きすべて中実である。317-12は上半身は中空、下半身は中実で成形される。

表面に赤色顔料が付着する例は8点あるものの、僅かに確認できる例が大半であり、全面に塗布が認められる例は343-20と371-16のみである。ほかに黒色付着物が斑状に認められる例が2点(371-16、422-14)ある。2点とも残存状態が良く、全身に斑状の付着物が認められる。欠損部にアスファルトが付着する例は13点確認できる。

環状土製品(集成図第622図、第23表、図版223・224)

遺構内出土5点を含む個体数103点が出土した。文様や胎土が酷似するものが2個体存在する例が4例あることから(341-9と380-11、415-8と416-7、P1027※未掲載と220-7、502-16と502-17)、同一

個体とみなした破片でも2個体である可能性があるため、個体数は増加する可能性がある。遺構内出土は全点、捨て場及び遺構外出土は残存状況が良好なものを選出し、46点を掲載した。

形態は環状で、器壁が厚く重量がある。上下端は平坦なものが主流であるが、上端に低い突起が付くものもある(483-5など)。上下端とも平坦なものは、どちらか一方がより平坦に調整される傾向が看取できることから、より平坦な側を下と捉えた。調整はすべて内外面ともナデ調整である。外面は平滑であるが、内面には比較的凹凸が認められる。内面には擦痕などの明確な使用痕は認められない。

平面形態は、円形と梢円形の2種類があり、円形56点、梢円形8点、不明25点である。梢円形のもの(341-10など)は、長軸方向に縦位の隆線が施され、隆線上には刻み列もしくは刺突列が施される。文様は沈線文で、表裏面に同じ文様が描かれる。無文のものはない。円形のものは、無文が9点、有文が47点である。文様は平行沈線で描かれ、縄文が充填されるもの(485-9など)もある。文様モチーフは連続する波状文、連続する巴文、梢円形文、三角形文などである。刺突が施されるもの(380-11など)もある。文様単位は2~7単位で、3、4単位が最も多い。ほかに上下端に刺突列を施すもの(333-7など)も3点認められる。

赤色付着物が確認できる例は認められないが、環状の黒色付着物が全面に付着する例が1点(485-10)認められる。時期は文様要素から、IV 2期(後期前葉)に限定的に作られたものと考えられる。

耳飾り(集成図第624図、第25表、図版225)

耳飾りは遺構内出土2点を含む58点が出土した。形態は耳栓が46点、環状を呈するものが12点である。耳栓は各捨て場とも半数前後、環状は残存状況の良いものを掲載した。

耳栓は径10~20mmの鼓形で、表裏はほぼ同じ大きさである。15mm前後が最も多い。形態は規格性が強いが、398-20は中心が突起し、特異な形態を呈する。全体の75%(31点)には赤彩が施される。中心孔があるものは23点である。出土地点はST01が11点、ST101が21点、ST202が1点、ST311が7点、遺構外出土が3点で、ST404からは出土していない。

環状は径8cm前後で外径の中央が括れるものである。残存状況が良いものは3点で、ほかは残存率1/2以下である。赤彩が施されるものは1点である。出土地点はST01が6点、ST202が2点、ST01に続く北側斜面が3点である。

鐸形土製品(集成図第623図、第24表、図版225・226)

鐸形土製品は遺構内出土1点を合わせて70点が出土した。そのうち残存状態が良いものを掲載した。断面の形状は円形・梢円形・隅丸三角形の3種類がある。円形が44点と最も多く、梢円形が15点、隅丸三角形は3点である。また、つまみ部の形状は、独立したつまみが作り出されるもので、上端が平坦もしくは二股に分かれるもの(I)、独立したつまみが作り出されるもので、上端が円錐状のもの(II)つまみは独立せず、つまみが胴部と一体となっているもの(III)、の3種類に分類が可能である。Iは9点、IIは25点、IIIは21点である。つまみにはほとんどに穿孔が施されるが、IIタイプでは1点、IIIタイプでは3点、穿孔が施されないものがある。

文様は無文が23点、縄文が1点、有文が46点である。無文のものはすべてナデ調整である。無文のものは断面は円形がほとんどで、1点のみ梢円形である。縄文が施されるものは断面梢円形である。

文様は沈線で描かれ、沈線間に刺突列が施されるものもある。断面形状が楕円形もしくは隅丸三角形のものは、それぞれの頂点にあたる側面に鱗状の貼付隆線が施される。文様モチーフは、巴文・渦文・蛇行文などで、連続する波状文は認められない。文様単位は断面が楕円形のものは2単位、隅丸三角形のものは3単位と器形に規制される。断面が円形のものは2~5単位の文様が施文される。外面に赤色顔料が付着するものが、ST101から2点出土している。内面には全体の約8割(44点)に、煤状の黒色付着物が認められる。使用時の痕跡の可能性が考えられる。

時期は文様から、IV 2(後期前葉)に限定的に作られたものと考えられる。環状土製品とほぼ同時期であり、鱗状貼付隆線が施されるなど器形や文様に関連性が窺われる。しかしその一方で、環状土製品に多く施される連続する波状文がないことや、錐形土製品に一定量ある沈線間の刺突列が環状土製品には施されないなど、差異も認められる。

スタンプ形土製品(集成図第624図、第27表、図版227)

粘土板につまみを付けた形状である。9点が出土し、8点を掲載した。ここでは本土製品をスタンプとして使用した場合に印面にあたる部分について、便宜的に「印面」と呼称するが、本土製品の機能を示すものではない。

粘土板の形状は円形、楕円形のほかにS字状を呈するものが1点(343-25)ある。粘土板の大きさは、円形では径2cm前後、楕円形やS字状では短軸2cm程度の小形が主体であるが、短軸が4cm以上の大形のものも2点(372-10、399-5)認められる。小形と大形ではつまみ部分の形状が大きく異なる。小形のつまみ部分は、粘土塊を貼り付けるか、粘土板と一体で作り出され、1点(343-25)を除き穿孔が施される。一方、大形では粘土紐を橋状に貼り付けて作出される。印面には、沈線で文様が描かれる。小形の中には刺突が施されるもの(341-13)もある。スタンプ状に使用した場合の磨滅痕などは認められない。出土地点はST01から2点、ST101が6点、ST202が1点である。大形は2点ともST101から出土した。

分鋼形土製品(集成図第624図、第27表、図版227)

瓢箪状を呈するものである。11点が出土し、すべて掲載した。つまみ部分は円柱状もしくは楕円柱状である。無文や縄文のほかに、沈線文で文様が描かれるものがあり、上端が二股に分かれるなど装飾性の強いものも認められる。また、穿孔が施される例は8点ある。下部は球状もしくは扁平面を下にした半球状で、無文もしくは縄文が施されるのみである。下面にはすべて磨滅痕、もしくは敲打痕が認められる。また、つまみ部分にも磨滅が認められるものがあることから、つまみ部を持って磨ったり敲いたりする使用状況が復元できる。なお、下面が球状を呈するものでも、自立可能な安定面があることから、使用時に面が形成されるような力が加わったと考えられる。時期は、羽状縄文が施される例が一定数あることから、後期中葉~後葉と考えられる。出土地点はST01が3点、ST101が6点、ST202に隣接するグリッドが1点である。ST311とST404からは出土していないが、これは両捨て場の主体時期が後期前葉であることに起因すると推定される。

キノコ形土製品(集成図第624図、第27表、図版226~228)

7点が出土し、すべて掲載した。粗雑な成形のものが多く、調整はすべてナデ調整である。傘の部分は扁平な円形が多く、内溝するものは1点のみである。また、軸部分が残存するものについてはすべて直線である。軸の中心に貫通しない空隙をもつものが1点(324-12)あり、成形時に串状の軸を用いていた可能性も考えられる。出土地点はST01が1点、ST101が2点、ST311が2点、ST404が2点である。資料数が少ないため概には言えないが、ST311とST404で過半数を占めるることは、ほかの土製品にはない特徴であり、キノコ形土製品が廃棄された時期と両捨て場の機能時期が合致した結果と考えられる。

垂飾形土製品(集成図第626図、第27表、図版225・227・228)

ベンダント状に使用することが可能な14点を垂飾形土製品とし、全点を掲載した。形状は様々であるなかで、類似する法量、文様のものが4点(380-23、403-14、433-13、485-14)出土した。いずれも赤色顔料が施される。また、ST404からは酷似する2点の遺物(503-8、503-9)が同じ出土地点から見つかっている。精巧に作られており、一般的な形状でないことを考え合わせると、製作から廃棄までセットで扱われていた可能性が考えられる。そのほかに錐状、渦巻き状、ヒトデ状、鉢状などの形状がある。

腕輪形土製品(集成図第626図、第27表、図版228)

5点出土したが、いずれも残存状況が悪く、残存率はいずれも1/4以下である。2点を掲載した。沈線で文様が描かれるものが2点、無文が2点、縄文が1点である。赤色顔料が塗布される例は認められない。

土版(集成図第626図、第27表、図版227・228)

4点が出土し、全点を掲載した。大きさはいずれも4cm程度である。円形が3点(343-26、380-20、398-21)、三角形が1点(504-11)である。円形土版のうち2点(343-26、380-20)は粘土紐を渦状に巻いたもので、成形は粗雑である。1点(398-21)は円形の粘土板の表裏面に渦状の沈線を施す。ST01とST101から出土した。三角形土版は、調整はナデ調整であるが、成形は精緻である。表面に刺突で文様が描かれ、裏面は平滑である。ST404から出土した。

球状土製品(集成図第626図、第27表、図版228)

4点が出土し、全点を掲載した。大きさは2~4cmである。いずれも表面が平滑に仕上げられている。2点(382-18、466-8)には穿孔が施される。

動物形土製品(集成図第624図、第27表、卷頭図版12)

ST404から1点が出土し、掲載した。胴部は中空、足部は中実で成形される。4つ足で、胴部は比較的扁平である。腹部には粘土塊が3か所に貼り付けられており、乳房と胸を表したものと考えられる。顎部と足部3か所は欠損し、胴部も破損が著しい。胴部には沈線と充填のLR縄文で文様が施さ

れ、縄文が施されない部分は丁寧にミガキ調整が施されている。形態は抽象的であるが、乳房の表現が2か所であることから熊の可能性が高い。

鍾状土製品(集成図第626図、第27表、図版228)

5点出土し、全点掲載した。いずれも側縁に沈線状の溝を持ち、2点(372-13、380-21)は短軸方向にも溝が施される。短軸方向の溝を持たない1点(400-11)は、短軸方向に穿孔が施される。調整はいずれもナデ調整で、器面は平滑である。遺構内2点、ST101から3点出土した。

焼成粘土塊(集成図第626図、第27表)

出土点数は極めて少なく2点のみ出土し、ともに掲載した。大きさは4cm前後で、ST01とST101から出土した。

円盤状土製品(集成図第625図、第26表、図版229)

278点が出土した。土器片を成形して作られている。形状は円形である。やや楕円形を呈するものも認められるが、明確に楕円形を意図したと考えられるものは確認できない。使用される部位は胴部が主体であるが、底部が使用されたものが10点前後、口縁部が使用されたものが5点程度見受けられる。周辺は、全周を丹念に磨いたもの17点、ほぼ全周磨いたもの29点、一部磨いたもの72点、打ち欠いただけのもの153点である。沈線など文様のあるものもあるが、縄文のみが81点であり、有文のものに有意性はない。法量は径24~45mm、重さは3~19gの範囲でまとまる。最も小さいものは径18mm重さ2g、最大のものは径90mm、重さ80gである。

その他の土製品(集成図第626図、第27表、図版228)

上記以外にも定型的でないが、形状が明瞭な土製品が20点出土している。卷貝形土製品と三角形土製品を除き、全点掲載した。

311-6と408-9は高さ2cm前後の土製品で、植木鉢を逆さにしたような形態を呈する。無文でナデ調整が施されるが、器面は平滑である。1点(398-22)は上面に、もう1点(311-6)は側面に穿孔が施される。垂飾として使用された可能性も考えられる。413-8と435-22は棒状の土製品である。無文でナデ調整が施されるが、器面は平滑である。どちらも長軸方向に穿孔が施されることから、垂飾として使用された可能性も考えられる。305-21、390-11、398-23は傘状の土製品である。305-21と398-23は尖底土器の底部の可能性もあるが、胎土や調整から後期に属すると判断し、土製品とした。端部はいずれも同様に欠損し、3点とも同形態を呈する。325-1は皿状の土製品である。4本の足が貼り付けられていたと復元できることから、動物を模した可能性が考えられる。372-11は鼻状、513-29は獸足状を呈するものである。香炉の把手の可能性もある。483-10は成形は粗雑であるが、形状から卷貝を模した可能性も考えられる。

卷貝形土製品は2点出土している。どちらも小片であるが、径が円ではなく、渦状であることから卷貝形土製品と推定した。三角形土製品も2点出土した。土器片を打ち欠いて成形したものである。

第13表 土製品出土点数及び掲載率

種別	遺構内		ST01		ST101		ST202		ST311		ST404		遺構外		総数		
	出土 点数	掲載 率															
土塊	4	4 100%	40	34 85%	51	47 92%	8	7 88%	7	7 100%	23	23 100%	22	18 82%	155	140 90%	
團状	5	5 100%	19	8 40%	46	18 38%	4	0 0%	12	8 67%	21	10 48%	5	2 40%	103	51 50%	
耳飾り	2	2 100%	19	13 68%	21	10 48%	3	2 67%	7	4 57%	-	-	6	3 50%	58	34 59%	
蝶形	1	1 100%	13	11 85%	28	25 89%	3	0 0%	13	10 77%	10	7 70%	2	1 50%	70	55 79%	
スタンプ形	-	-	2	2 100%	6	5 83%	1	1 100%	-	-	-	-	-	-	9	8 89%	
分鋼形	-	-	4	4 100%	6	6 100%	-	-	-	-	-	-	1	1 100%	11	11 100%	
キノコ形	-	-	1	1 100%	2	2 100%	-	-	2	2 100%	2	2 100%	-	-	7	7 100%	
垂鉢形	1	1 100%	1	1 100%	6	6 100%	-	-	2	2 100%	3	3 100%	1	1 100%	14	14 100%	
輪輪形	-	-	2	1 50%	-	-	-	-	-	-	1	0 0%	2	1 50%	5	5 40%	
土版	-	-	1	1 100%	2	2 100%	-	-	-	-	1	1 100%	-	-	4	4 100%	
球状	-	-	-	-	3	3 100%	1	1 100%	-	-	-	-	-	-	4	4 100%	
動物形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1 100%	-	-	1	1 100%	
鍾状	2	2 100%	-	-	3	3 100%	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5 100%	
焼成粘土塊	-	-	1	1 100%	1	1 100%	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2 100%	
三角形	-	-	-	-	1	0 0%	-	-	1	0 0%	-	-	-	-	2	0 0%	
巻貝形	-	-	1	0 0%	-	-	1	0 0%	-	-	-	-	-	-	2	0 0%	
土製品	3	3 100%	8	4 50%	9	8 89%	6	2 33%	1	1 100%	-	-	-	2	2 100%	30	21 70%
円錐状	4	4 100%	59	12 20%	119	21 18%	25	0 0%	12	3 25%	39	8 21%	20	7 35%	278	55 20%	
総計	22	22 100%	103	81 79%	186	136 73%	27	13 48%	45	34 70%	62	47 62%	41	29 71%	760	413 54%	

4 漆・アスファルト関連遺物

本遺跡からは、漆やアスファルトに関する多種多様な遺物が出土した。製品としては赤色塗彩が施された土器・土製品のほかに、編組製品や糸玉がある。製作工程に関連する遺物としては、漆液容器・アスファルト容器・ベンガラ容器・ベンガラ素材碟・アスファルト塊が出土した。

編組製品(第423-550-551図、巻頭図版16)

ST101捨て場の286層から2点出土した。後述する糸玉と同一層位である。

423-1は発掘調査段階で赤漆膜の広がりが確認できたため、約50cm四方を10cm程度の厚みで土ごと切り取り、(株)吉田生物研究所に保存処理を委託した。赤漆膜は約33cm四方の範囲に広がる。胎は残存していないが、漆膜の凹凸により部分的に纖維の状態が確認できる。纖維は幅約1mmの扁平状で5本1組で用いられる。斜めに交差する1組越え1組潜り1組送りだが、部分的に不整に編み込まれる纖維が認められる。

551-No2は約6.0cm×3.5cmの略方形で、表面は赤漆膜が残存し、裏面は纖維が露出する。残存部分は一部であることから、全体の形状は復元できない。このためここでは長軸方向を横、短軸方向を縦と便宜的に呼ぶ。縦方向の纖維は断面方形で幅約2.5mm、横方向の纖維は幅約0.5mmである。構造は表面側に横方向に並べた纖維の下に縦方向の纖維を並べ、細い糸状の纖維で縦横の纖維を止める構造である。編まれていないことが特徴である。

糸玉(第423-550～555図、巻頭図版16)

ST101捨て場の286層から集中して出土した。発掘調査段階で、纖維状の赤漆膜が検出されたため、まとまりごとに6ブロックにわけて土ごと切り取り、(株)吉田生物研究所にクリーニングと保存処理を委託した。クリーニングの結果、554-No8-1など土塊の中から新たに検出されたものも含め、出土数の合計は10点である。なお、保存処理した土塊の中にさらに複数の糸玉が含まれている可能性もある。

る。

形状は、10点のうち1点（554-No8-1）は放射状に糸を巻き付け、ドーナツ形に整形する。ほかの9点は残存状態が悪いため詳細な形状は定かではないが、複数本の糸を束ねて結んだものと推定される。糸玉の大きさはいずれも1cm前後である。纖維が残存する例はなく、纖維に塗布された赤漆膜が残存するのみである。糸の太さは1mm以下である。赤漆膜が糸状であることから、細い糸状の纖維に赤漆を塗布し、乾燥する前に整形したものと考えられる。

糸玉が出土した286層は捨て場斜面下の低湿地に堆積する。286層は斜面に廃棄された遺物や土砂が流出し、斜面下の低湿地に堆積した二次堆積層と捉えられる。このことから、出土した糸玉は斜面下の低湿地に流出した一部の糸玉が残存したものと考えられ、本来はさらに多くの糸玉が廃棄されたものと推定される。

漆液容器・アスファルト容器(集成図第627・628図、第21表、巻頭図版14・15、図版230～232)

遺跡からは内面に膜状や塊状の付着物が付いた土器が122点出土した。出土地点は遺構内から5点、捨て場・遺構外から117点である。遺構内出土の5点はいずれも破片資料である。捨て場・遺構外出土資料は、約70点は比較的の残存状況がよく、約50点は破片資料である。

土器の内面に付着する膜状や塊状の付着物の成分としては、現時点では漆とアスファルトが知られている。ここではこれらの付着物を、以下の通りの基準で漆とアスファルトに分別した。

まず124点の資料のうち72点は、奈良文化財研究所にてフーリエ変換赤外分光分析を行い、漆を同定した。しかしアスファルトについては同分析では確定できないことから、アスファルトと推定されたもののうち4点について、さらにPy-GC/MS分析を行いアスファルトであることを確定させた(第5章第10節)。これらの科学分析で同定された資料を基準とし、肉眼で漆とアスファルトの可視的な特徴を観察した結果、漆は表面が膜状を呈し、アスファルトは膜状ではないという特徴が認められた。科学分析を行わなかった68点についてはこの特徴により、肉眼観察で漆とアスファルトを分別した。また、科学分析の結果、漆とアスファルトの成分が混在する資料が認められているが、これについては漆とアスファルトの両方の特徴を兼ね備えるものとし、肉眼観察を行った。この結果、漆液容器75点、アスファルト容器39点、漆液とアスファルトが混入する容器が8点認められた。

個々の遺物の詳細な状態は第21表に記載した。ページ数の都合により実測図や写真を掲載できなかつるものについても、概要を第21表に掲載した。

ベンガラ容器(集成図第628図、巻頭図版14)

内側に赤色顔料が付着する土器をベンガラ容器と推定した。ベンガラ容器と考えられる土器は、遺構内から3点(210-28、221-23、231-28)、捨て場・遺構外から6点(333-2、398-17、339-13、421-8、431-4、468-16)が出土した。遺構内出土の3点はいずれも破片資料である。398-17はベンガラが入った状態で出土した(図版171)。

アスファルト塊

16点、229gが出土した。出土地点ごとの点数はST01で5点、ST101で5点、ST202で1点、ST404

で1点、遺構外で4点である。大きさは最大で子供の拳大程度である。土器や布袋などの容器の痕跡は認められないことから、塊状で廃棄されたものと考えられる。出土状況には、集中して出土するなどの特別な要素は認められなかった。なお実測図などは掲載していない。

ベンガラ素材礫(巻頭図版14)

遺構内ではSK10152から15点、約6kgが出土した。土坑内に充填されるように出土していることから、貯蔵されたものと推定される。捨て場・遺構外からは905点、46.12kgが出土した。各地点ごとの出土重量はST01が4.5kg、ST101が5.2kg、ST311が0.02kg、遺構外が36.4kgである。なお、出土したすべてのベンガラ素材礫を計量することができなかつたため、この値は最小値である。出土状況には、集中して出土するなどの特別な要素は認められなかつた。

5 陶磁器(第82表)

陶器が172点、磁器が104点出土し、柱穴様ピットから出土した残存状況のよい3点(297-32・33・34)を掲載した。その他の陶磁器類については、一覧表を第82表に掲載した。時期は16世紀末～19世紀にかけてで、なかでも16世紀末～17世紀前半にまとまつた出土量が認められる。特に高位面南西付近からの出土量が多い。陶器は、産地では各時期とも肥前産が圧倒的に多いものの、大窯期の瀬戸美濃産も若干量認められる。器種は、碗や皿などの食膳具のほかに、貯蔵具が認められる。調理具は出土していない。磁器は肥前産が多数を占めるが、舶載と思われる磁器片も若干出土している。瀬戸産の磁器は1点のみ出土した。

6 金属製品・金属関連製品

鉄製品・銭貨・羽口・鉄滓・坩堝が出土した。羽口・鉄滓・坩堝はST202から、鉄製品と銭貨は遺跡全域から出土した。掲載したものは鉄製品(釘)1点と坩堝1点のみである。

鉄製品は、SN107炉跡及びST202から釘がそれぞれ1点出土しているほか、形状をとどめない鉄製品が約31点出土した。釘は形状から中近世と所産と考えられる。SN107炉跡出土の釘(297-30)を掲載した。形状をとどめない鉄製品はいずれも盛土や表土層付近で出土したことから、近現代まで下る可能性もある。

銭貨は17点出土した。寛永通寶7点、元豊通寶1点、元符通寶1点、至道元寶1点、皇宋通寶1点、判読不明6点である。羽口は6点、鉄滓は63点(1,795g)、坩堝は1点出土した。坩堝の付着金属は鉄である可能性が高いことが指摘されている(第5章第11節)。

7 木材

SA1171柱列跡で、柱と推定される木材が12点出土した。残存状態が悪いため、樹種は切片の観察により同定を行つた4点以外は不明である(第5章第1節参照)。木材は幅約25～40cmの円形断面で、基部は粗く加工され尖る。

秋田県文化財調査報告書第464集
漆下遺跡
—森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXIII—
第1分冊 本文篇

印刷・発行 平成23年1月
編 集 秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地
電話(0187)69-3331 FAX(0187)69-3330
発 行 秋田県教育委員会
〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号
電話(018)860-5193
印 刷 秋田協同印刷株式会社



秋田県文化財調査報告書第464集

漆下遺跡

—森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXIII—

漆下遺跡

第2分冊 遺構図・遺構内出土遺物図篇



第2分冊 遺構図・遺構内出土遺物図篇

2011.1

2011.1

秋田県教育委員会

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市浦田白板（しろざか）遺跡
出土の「石偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

漆下遺跡

—森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 XXIII —

第2分冊 遺構図・遺構内出土遺物図篇



2011・1

秋田県教育委員会



「塗下道跡 - 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 XXIII -」第1~5分冊
第2分冊 遺構図・遺構内出土遺物図篇

本文目次

凡例 i 挿図目次 ii ~ vi 表目次 vi

挿図目次

第19図	遺構配置図区割図	1 (363)
第20図	遺構配置図分割図①	2 (364)
第21図	遺構配置図分割図②	3 (365)
第22図	遺構配置図分割図③	4 (366)
第23図	遺構配置図分割図④	5 (367)
第24図	遺構配置図分割図⑤	6 (368)
第25図	遺構配置図分割図⑥	7 (369)
第26図	遺構配置図分割図⑦	8 (370)
第27図	遺構配置図分割図⑧	9 (371)
第28図	遺構配置図分割図⑨	10 (372)
第29図	遺構配置図分割図⑩	11 (373)
第30図	遺構配置図分割図⑪	12 (374)
第31図	遺構配置図分割図⑫	13 (375)
第32図	遺構配置図分割図⑬	14 (376)
第33図	遺構配置図分割図⑭	15 (377)
第34図	遺構配置図分割図⑯	16 (378)
第35図	遺構配置図分割図⑰	17 (379)
第36図	遺構配置図分割図⑱	18 (380)
第37図	遺構配置図分割図⑲	19 (381)
第38図	遺構配置図分割図⑳	20 (382)
第39図	遺構配置図分割図㉑	21 (383)
第40図	遺構配置図分割図㉒	22 (384)
第41図	遺構配置図分割図㉓	23 (385)
第42図	縄文(前期) 遺構図 1 SI1004堅穴住居跡	24 (386)
第43図	縄文(前期) 遺構図 2 SI1006堅穴住居跡	25 (387)
第44図	縄文(前期) 遺構図 3 SK465-466-494-622-10129-10131土坑	26 (388)
第45図	縄文(前期) 遺構図 4 SK10141-10153土坑、SK702-04ラクスコ狀土坑	27 (389)
第46図	縄文(前期) 遺構図 5 SKP05ラクスコ狀土坑、SK2277集穴造構、SK0425-435堅穴住居跡、SN10026土坑造構	28 (390)
第47図	縄文(中期) 遺構図 1 SK129堅穴住居跡	29 (391)
第48図	縄文(中期) 遺構図 2 SK11-306-524堅穴住居跡	30 (392)
第49図	縄文(中期) 遺構図 3 SU31-1023堅穴住居跡	31 (393)
第50図	縄文(中期) 遺構図 4 SK10011堅穴住居跡	32 (394)
第51図	縄文(中期) 遺構図 5 SK10007堅穴住居跡、SK11-677土坑	33 (395)
第52図	縄文(中期) 遺構図 6 SKT388竪し穴、SKN303土器被設、SN10096土坑造構	34 (396)
第53図	縄文(後期) 遺構図 1 SU17-195-205-226堅穴住居跡	35 (397)
第54図	縄文(後期) 遺構図 2 SU168-169-170-196-204-312堅穴住居跡	36 (398)
第55図	縄文(後期) 遺構図 3 SU168-169-170-196-204-312堅穴住居跡	37 (399)
第56図	縄文(後期) 遺構図 4 SD33-278-313-333堅穴住居跡	38 (400)
第57図	縄文(後期) 遺構図 5 SK330堅穴住居跡	39 (401)
第58図	縄文(後期) 遺構図 6 SK331堅穴住居跡	40 (402)
第59図	縄文(後期) 遺構図 7 SK332堅穴住居跡	41 (403)
第60図	縄文(後期) 遺構図 8 SD35-353-485堅穴住居跡	42 (404)
第61図	縄文(後期) 遺構図 9 SK400堅穴住居跡	43 (405)
第62図	縄文(後期) 遺構図10 SD96-10006堅穴住居跡、SN10005土坑造構	44 (406)
第63図	縄文(後期) 遺構図11 SD75-10013-1009堅穴住居跡	45 (407)
第64図	縄文(後期) 遺構図12 SD48-921-925堅立柱建物跡	46 (408)
第65図	縄文(後期) 遺構図13 SD82-923-927堅立柱建物跡	47 (409)
第66図	縄文(後期) 遺構図14 SD23-926-929-930堅立柱建物跡	48 (410)
第67図	縄文(後期) 遺構図15 SD28-931-932堅立柱建物跡	49 (411)
第68図	縄文(後期) 遺構図16 SD83-937-938-940堅立柱建物跡	50 (412)
第69図	縄文(後期) 遺構図17 SD841-942-943-944堅立柱建物跡	51 (413)
第70図	縄文(後期) 遺構図18 SD45-946-948-949-950堅立柱建物跡	52 (414)
第71図	縄文(後期) 遺構図19 SD847-972-1016堅立柱建物跡	53 (415)
第72図	縄文(後期) 遺構図20 SD1006-1007-1017-1018堅立柱建物跡	54 (416)
第73図	縄文(後期) 遺構図21 SD1010-1027-1036-1037-1040堅立柱建物跡	55 (417)
第74図	縄文(後期) 遺構図22 SD042-1045-1049-1051堅立柱建物跡	56 (418)
第75図	縄文(後期) 遺構図23 SD1054-1069-1105-1106堅立柱建物跡	57 (419)
第76図	縄文(後期) 遺構図24 SD1107-1108-1109堅立柱建物跡	58 (420)
第77図	縄文(後期) 遺構図25 SD1110-1111-1112-1113-1114堅立柱建物跡	59 (421)
第78図	縄文(後期) 遺構図26 SD115-1116-1117-1118-1119-1120堅立柱建物跡	60 (422)
第79図	縄文(後期) 遺構図27 SD1121-1122-1123-1124-1125堅立柱建物跡	61 (423)
第80図	縄文(後期) 遺構図28 SD116-1127-1128-1129堅立柱建物跡	62 (424)
第81図	縄文(後期) 遺構図29 SD1130-1131-1133-1134-1136-1137堅立柱建物跡	63 (425)

第82回	繩文(後期)遺構図30 SB1138-1139-1140-1141-1142-1143灰土柱建物跡64(426)
第83回	繩文(後期)遺構図31 SB1144-1145-1146-1147-1148-1149-1150-1151灰土柱建物跡65(427)
第84回	繩文(後期)遺構図32 SB1155-1156-1157-1158-1159-1160-1161灰土柱建物跡66(428)
第85回	繩文(後期)遺構図33 SB1162-1163-1164-1165-1166-1167-1168灰土柱建物跡67(429)
第86回	繩文(後期)遺構図34 SK12-102-115-120-126-127土坑68(430)
第87回	繩文(後期)遺構図35 SK13-132-134-135-136-140-141-143土坑69(431)
第88回	繩文(後期)遺構図36 SK144-145-150-152-155-157-161-163土坑 SKF1170フラスコ状土坑70(432)
第89回	繩文(後期)遺構図37 SK136-159-175-176-177-178-179-180-181-182-183-184-185-186-187-188-189-190-191-192-197-434-436-471-1169土坑73(435)
第92回	繩文(後期)遺構図40 SK206-207-229-230-234-237-238-467-609土坑 SKF594フラスコ状土坑74(436)
第93回	繩文(後期)遺構図41 SK246-260-325-347-348-356-733-875土坑75(437)
第94回	繩文(後期)遺構図42 SK261-352-357-376-389-826土坑76(438)
第95回	繩文(後期)遺構図43 SK336-338-339-343-382土坑 SKF377フラスコ状土坑77(439)
第96回	繩文(後期)遺構図44 SK358-359-361-362-363-364-365-368-369土坑78(440)
第97回	繩文(後期)遺構図45 SK370-372-373-374-375-426-466土坑79(441)
第98回	繩文(後期)遺構図46 SK380-389-392-394-395-396-417-418-433土坑80(442)
第99回	繩文(後期)遺構図47 SK431-432-437-438-445土坑81(443)
第100回	繩文(後期)遺構図48 SK439-440-441-442-444-449-450-451土坑 SKF377フラスコ状土坑82(444)
第101回	繩文(後期)遺構図49 SK458-459-460-469-472土坑 SKF457フラスコ状土坑 SKQ367石土坑83(445)
第102回	繩文(後期)遺構図50 SK476-484-486-487-491-497-500-507-509土坑84(446)
第103回	繩文(後期)遺構図51 SK477-478-510-520-525-580-633-726土坑 SKF489フラスコ状土坑85(447)
第104回	繩文(後期)遺構図52 SK516-517-523-528-530-533-534-538土坑 SKF515フラスコ状土坑86(448)
第105回	繩文(後期)遺構図53 SK536-541-543-544-545-637-638-910土坑87(449)
第106回	繩文(後期)遺構図54 SK548-556-562-564-565-566-571-584土坑 SKF2417フラスコ状土坑88(450)
第107回	繩文(後期)遺構図55 SK574-579-583-585-586-587-591土坑89(451)
第108回	繩文(後期)遺構図56 SK588-600-602-603-605-606-608土坑 SKF287配石土坑90(452)
第109回	繩文(後期)遺構図57 SK591-612-613-614-618-621-623-627-791-792-793土坑91(453)
第110回	繩文(後期)遺構図58 SK629-631-632-633-634-635-639土坑92(454)
第111回	繩文(後期)遺構図59 SK640-641-642-647-648-676-717土坑93(455)
第112回	繩文(後期)遺構図60 SK649-651-656-657-658-659-668-744-837土坑 SKF607フラスコ状土坑94(456)
第113回	繩文(後期)遺構図60 SK661-662-667-671-674-686-688-690-740-741-861土坑95(457)
第114回	繩文(後期)遺構図62 SK690-701-702-703-704-705-709-1084土坑 SKF707フラスコ状土坑96(458)
第115回	繩文(後期)遺構図63 SK706-710-712-716-718-729-730-734-1087土坑97(459)
第116回	繩文(後期)遺構図64 SK737-739-743-745-746-747-748-805土坑98(460)
第117回	繩文(後期)遺構図65 SK749-753-756-758-759-760-794-1080土坑 SKQ314-7576石土坑99(461)
第118回	繩文(後期)遺構図66 SK766-767-768-773-774-777-778-782-785-811土坑100(462)
第119回	繩文(後期)遺構図67 SK796-799-813-814-823-825-831-834-838土坑101(463)
第120回	繩文(後期)遺構図68 SK836-839-842-844-850-851-859土坑 SKF77707フラスコ状土坑102(464)
第121回	繩文(後期)遺構図69 SK850-860-862-863-869-871-878-886-893土坑 SKF1067フラスコ状土坑103(465)
第122回	繩文(後期)遺構図70 SK894-894-905-908-911-954土坑 SKF561フラスコ状土坑104(466)
第123回	繩文(後期)遺構図71 SK907-916-960-971土坑 SKF790フラスコ状土坑 SG288-289配石遺構 SK846土器類遺物105(467)
第124回	繩文(後期)遺構図72 SK953-956-961-962-968-997土坑 SKQ289-290-974配石土坑106(468)
第125回	繩文(後期)遺構図73 SK963-964-965-966-967-985-990-998土坑 SKF986フラスコ状土坑107(469)
第126回	繩文(後期)遺構図74 SK982-984-999-1002-1033土坑 SKP977-978フラスコ状土坑 SKQ286配石土坑108(470)
第127回	繩文(後期)遺構図75 SKA28-1030-1031-1032-1062-1066-1068-1069-1070-1073土坑109(471)
第128回	繩文(後期)遺構図76 SK1008-1003土坑 SKQ270-271-272-3008-10019-1020-10038-10048-10049-10085配石土坑110(472)
第129回	繩文(後期)遺構図77 SKR045-10059-10094-10111土坑111(473)
第130回	繩文(後期)遺構図78 SK1072-1074-1075-1077-1172-10007-10028土坑 SKQ1070配石土坑112(474)
第131回	繩文(後期)遺構図79 SK10109-10121-10130-10142-10143土坑113(475)
第132回	繩文(後期)遺構図80 SKF03-66-148-178フラスコ状土坑114(476)
第133回	繩文(後期)遺構図81 SKF180-185-186-199フラスコ状土坑115(477)
第134回	繩文(後期)遺構図82 SKF200-236-245-247-249-251フラスコ状土坑116(478)
第135回	繩文(後期)遺構図83 SKF259-290-400-411-413-416-422フラスコ状土坑117(479)

第136回	縄文(後期)遺構図4 SKF430-454-464-470-480-483-498フラスコ状土坑 118(480)	第165回	縄文(後期)遺構図113 SM809G石積階段状遺構 148(510)
第137回	縄文(後期)遺構図5 SKF501-502-508-518-535-540-549-553フラスコ状土坑 119(481)	第166回	縄文(後期)遺構図114 SM800H石積階段状遺構 149(511)
第138回	縄文(後期)遺構図6 SKF509-560-567-599-601フラスコ状土坑 SQ200H配石遺構 120(482)	第167回	縄文(後期)遺構図115 SM322遺跡 150(512)
第139回	縄文(後期)遺構図7 SKF643-663-664-698-699-707-708-713-727フラスコ状土坑 121(483)	第168回	縄文(後期)遺構図116 SM307性別不明遺跡 151(513)
第140回	縄文(後期)遺構図8 SKF730-732-780-784-788-821-822-845フラスコ状土坑 122(484)	第169回	縄文(詳細時期不明)遺構図1 SI355堅穴住居跡, SB954堅立柱建物跡, SK118-123土坑 152(514)
第141回	縄文(後期)遺構図9 SKF834-832-856-880-881-887フラスコ状土坑 123(485)	第170回	縄文(詳細時期不明)遺構図2 SK133-404-414-473-474-503-539-615-807土坑 153(515)
第142回	縄文(後期)遺構図10 SKF887-889-890-895-912-958-981-982フラスコ状土坑, SKQ886堅石土坑 124(486)	第171回	縄文(詳細時期不明)遺構図3 SK866-869-828-980-988-10031土坑 154(516)
第143回	縄文(後期)遺構図11 SKQ110-149-209E石土坑 125(487)	第172回	縄文(詳細時期不明)遺構図4 SK1037-10152土坑, SHQ16配石土坑, SQ334配石遺構, SN250-1089H土堆遺構 155(517)
第144回	縄文(後期)遺構図12 SKQ212-213-214-1006-1025-10127配石土坑 126(488)	第173回	縄文(詳細時期不明)遺構図5 SN424-1000A-10134土堆 156(518)
第145回	縄文(後期)遺構図13 SKQ212-213-214-217-221-2061-10125-10127配石土坑 127(489)	第174回	縄文(前期)遺構内出土遺物図1 SH1004堅穴住居跡 157(519)
第146回	縄文(後期)遺構図14 SKQ215-222配石土坑 128(490)	第175回	縄文(前期)遺構内出土遺物図2 SH1010E堅穴住居跡 158(520)
第147回	縄文(後期)遺構図15 SKQ224-231-232-268-269配石土坑 129(491)	第176回	縄文(前期)遺構内出土遺物図3 SH1010E堅穴住居跡 159(521)
第148回	縄文(後期)遺構図16 SKQ237-274-276-284配石土坑 130(492)	第177回	縄文(前期)遺構内出土遺物図4 SH1010E堅穴住居跡, SK465-466-478 160(522)
第149回	縄文(後期)遺構図17 SKQ283-306-305-308配石土坑 131(493)	第178回	縄文(前期)遺構内出土遺物図5 SK494-622-10131土坑 161(523)
第150回	縄文(後期)遺構図18 SKQ317-318-319-323配石土坑, SQ321配石遺構 132(494)	第179回	縄文(前期)遺構内出土遺物図6 SK1029-10153土坑, SKF02-04-05フラスコ状土坑, SQ277葉石遺構 162(524)
第151回	縄文(後期)遺構図19 SKQ407-451-462-496-506-617-742配石土坑 133(495)	第180回	縄文(前期)遺構内出土遺物図7 SQ277葉石遺構 163(525)
第152回	縄文(後期)遺構図100 SKQ463-769-797-804-819-847配石土坑 134(496)	第181回	縄文(前期)遺構内出土遺物図8 SQ277葉石遺構 164(526)
第153回	縄文(後期)遺構図101 SKQ488-877-884-902-955-960配石土坑 135(497)	第182回	縄文(前期)遺構内出土遺物図9 SQ277葉石遺構, SB245-453土堆設置 165(527)
第154回	縄文(後期)遺構図102 SKQ1022-10023-10024-10027-10031-10040配石土坑 136(498)	第183回	縄文(中期)遺構内出土遺物図1 SI209-211-306-524堅穴住居跡 166(528)
第155回	縄文(後期)遺構図103 SKQ1034-10036-10050-10089-10133配石土坑, SN1089H土堆遺構 137(499)	第184回	縄文(中期)遺構内出土遺物図2 SI331-1011-1047堅穴住居跡 167(529)
第156回	縄文(後期)遺構図104 SKQ128-219-220配石遺構 138(500)	第185回	縄文(中期)遺構内出土遺物図3 SK11-677土坑, SRN930H土堆設置 168(530)
第157回	縄文(後期)遺構図105 SQ225配石遺構 139(501)-140(502)	第186回	縄文(後期)遺構内出土遺物図1 SI68堅穴住居跡 169(531)
第158回	縄文(後期)遺構図106 SQ225配石遺構 141(503)	第187回	縄文(後期)遺構内出土遺物図2 SI69-170堅穴住居跡 170(532)
第159回	縄文(後期)遺構図107 SQ203-294-295-296-297配石遺構 142(504)	第188回	縄文(後期)遺構内出土遺物図3 SI71-195-196堅穴住居跡 171(533)
第160回	縄文(後期)遺構図108 SQ309-315-316-324-340配石遺構 143(505)	第189回	縄文(後期)遺構内出土遺物図4 SI96-206堅穴住居跡 172(534)
第161回	縄文(後期)遺構図109 SQ330-1091-1092-1093-1097-1101-10029-10030-10110配石遺構, SQN595-1022石圓跡 144(506)	第190回	縄文(後期)遺構内出土遺物図5 SI229-265堅穴住居跡 173(535)
第162回	縄文(後期)遺構図110 SI009-172-228-267-1078-10117-10120土堆設置遺構 145(507)	第191回	縄文(後期)遺構内出土遺物図6 SI263-278堅穴住居跡 174(536)
第163回	縄文(後期)遺構図111 SN342-554-1095-1098-1100-1103-10001-10010土堆遺構 146(508)	第192回	縄文(後期)遺構内出土遺物図7 SI312-326堅穴住居跡 175(537)
第164回	縄文(後期)遺構図112 SD310-829-830-876土跡 147(509)	第193回	縄文(後期)遺構内出土遺物図8 SI326-331堅穴住居跡 176(538)

第194回	織文(後期)遺構内出土遺物圖9 SII31-332-333壓穴住居跡	177(539)
第195回	織文(後期)遺構内出土遺物圖10 SII33堅穴住居跡	178(540)
第196回	織文(後期)遺構内出土遺物圖11 SI40堅穴住居跡	179(541)
第197回	織文(後期)遺構内出土遺物圖12 SI485-906-975壓穴住居跡	180(542)
第198回	織文(後期)遺構内出土遺物圖13 SB975-10006-10013堅穴住居跡	181(543)
第199回	織文(後期)遺構内出土遺物圖14 SI918-921-922-923-924堅穴住居跡	182(544)
第200回	織文(後期)遺構内出土遺物圖15 SB925-926-928-929-930-931堅穴住居跡	183(545)
第201回	織文(後期)遺構内出土遺物圖16 SII803-932-933-937-938-939-940-941堅穴住居跡	184(546)
第202回	織文(後期)遺構内出土遺物圖17 SII824-943-944-945-946-947-948-972-10006堅穴住居跡	185(547)
第203回	織文(後期)遺構内出土遺物圖18 SD1007-1016-1017-1018-1019-1027-1036-1037-1040-1042堅穴住居跡	186(548)
第204回	織文(後期)遺構内出土遺物圖19 SD1049-1054堅穴住居跡	187(549)
第205回	織文(後期)遺構内出土遺物圖20 SI0609堅穴住居跡	188(550)
第206回	織文(後期)遺構内出土遺物圖21 SD1060-1109堅穴住居跡	189(551)
第207回	織文(後期)遺構内出土遺物圖22 SI1113-1117-1120-1122-1123-1124-1125-1126堅穴住居跡	190(552)
第208回	織文(後期)遺構内出土遺物圖23 SI1127-1130-1133-1139-1140-1141-1143-1144-1145-1156-1157-1165堅穴住居跡	191(553)
第209回	織文(後期)遺構内出土遺物圖24 SK12-102-115-120土坑	192(554)
第210回	織文(後期)遺構内出土遺物圖25 SK120-127-131-132-134-135-136-137土坑	193(555)
第211回	織文(後期)遺構内出土遺物圖26 SK140-141-143-144-150-151土坑	194(556)
第212回	織文(後期)遺構内出土遺物圖27 SK152-155-157-158土坑	195(557)
第213回	織文(後期)遺構内出土遺物圖28 SK159-161-173-175土坑	196(558)
第214回	織文(後期)遺構内出土遺物圖29 SK176-183-190-191-197-206-207-234-237土坑	197(559)
第215回	織文(後期)遺構内出土遺物圖30 SK261-325-336土坑	198(560)
第216回	織文(後期)遺構内出土遺物圖31 SK338-339-343-347土坑	199(561)
第217回	織文(後期)遺構内出土遺物圖32 SK349-352-357-358-369-361-363土坑	200(562)
第218回	織文(後期)遺構内出土遺物圖33 SK364-368-370-372土坑	201(563)
第219回	織文(後期)遺構内出土遺物圖34 SK373-374-380-389-392-418-426-431土坑	202(564)
第220回	織文(後期)遺構内出土遺物圖35 SK432-433-434-436土坑	203(565)
第221回	織文(後期)遺構内出土遺物圖36 SK439-440-441-445-460-467-469土坑	204(566)
第222回	織文(後期)遺構内出土遺物圖37 SK476-484-486-487-497-500-507-509土坑	205(567)
第223回	織文(後期)遺構内出土遺物圖38 SK513-519-520-521土坑	206(568)
第224回	織文(後期)遺構内出土遺物圖39 SK530-533-536-541-543-545-546-562-571-573土坑	207(569)
第225回	織文(後期)遺構内出土遺物圖40 SK570-577-578-584-588-591-600土坑	208(570)
第226回	織文(後期)遺構内出土遺物圖41 SK602-603-605-606-608-609-611-612-613-614-618土坑	209(571)
第227回	織文(後期)遺構内出土遺物圖42 SK623-627-629-631-632-639-640-647-649-651-653-656-657土坑	210(572)
第228回	織文(後期)遺構内出土遺物圖43 SK659-661-662-671-674-688-690-693-701土坑	211(573)
第229回	織文(後期)遺構内出土遺物圖44 SK705-706-709-710-712-717-718-729-730-733土坑	212(574)
第230回	織文(後期)遺構内出土遺物圖45 SK737-739-740-741-744-746-749-756土坑	213(575)
第231回	織文(後期)遺構内出土遺物圖46 SK758-759-760-766-773-782-785-786土坑	214(576)
第232回	織文(後期)遺構内出土遺物圖47 SK791-790-794-799-814-823土坑	215(577)
第233回	織文(後期)遺構内出土遺物圖48 SK825-826-831-832-839土坑	216(578)
第234回	織文(後期)遺構内出土遺物圖49 SK842-855-859-871-878-893-905-907-908-911-916-933-954-960-962-963-964-966-968-983土坑	217(579)
第235回	織文(後期)遺構内出土遺物圖50 SK956-984-985土坑	218(580)
第236回	織文(後期)遺構内出土遺物圖51 SK999-999-1002-1029-1030-1031-1033-1062土坑	219(581)
第237回	織文(後期)遺構内出土遺物圖52 SK1068-1070-1072-1073-1074-1075-1077-1080土坑	220(582)
第238回	織文(後期)遺構内出土遺物圖53 SK10007-10028-10045-10059-10098土坑	221(583)
第239回	織文(後期)遺構内出土遺物圖54 SK10309-10111-10130-10142-10143土坑	222(584)
第240回	織文(後期)遺構内出土遺物圖55 SKF03-06-148-178-180-184-199-200-236-241-245フラスコ状土坑	223(585)
第241回	織文(後期)遺構内出土遺物圖56 SKF247-251-337フラスコ状土坑	224(586)
第242回	織文(後期)遺構内出土遺物圖57 SKF259-377-400-422フラスコ状土坑	225(587)
第243回	織文(後期)遺構内出土遺物圖58 SKF416-430-454-457-464-470-480フラスコ状土坑	226(588)
第244回	織文(後期)遺構内出土遺物圖59 SKF498-501-502-540フラスコ状土坑	227(589)
第245回	織文(後期)遺構内出土遺物圖60 SKF549-553-559-560-561-567-594-599フラスコ状土坑	228(590)
第246回	織文(後期)遺構内出土遺物圖61 SKF601-663-664-698-699-707-708-713-752-770フラスコ状土坑	229(591)
第247回	織文(後期)遺構内出土遺物圖62 SKF784-788-790-821-822-824フラスコ状土坑	230(592)
第248回	織文(後期)遺構内出土遺物圖63 SKF845-852-856-880-883-890フラスコ状土坑	231(593)

第249回 纂文(後期)遺構内出土遺物図64 SKP942-958-975-981-982-984ラスコ状土坑232(594)	第272回 纂文(後期)遺構内出土遺物図87 SX07性格不明遺構255(617)
第250回 纂文(後期)遺構内出土遺物図65 SKQ110-149-209-213-214C石土坑233(595)	第273回 纂文(後期)遺構内出土遺物図88 SX07性格不明遺構256(618)
第251回 纂文(後期)遺構内出土遺物図66 SKQ215-226石土坑234(596)	第274回 纂文(後期)遺構内出土遺物図89 SX07性格不明遺構257(619)
第252回 纂文(後期)遺構内出土遺物図67 SKQ215-221-222-224-232-268配石土坑235(597)	第275回 纂文(後期)遺構内出土遺物図90 SX07性格不明遺構258(620)
第253回 纂文(後期)遺構内出土遺物図68 SKQ269-270配石土坑236(598)	第276回 纂文(後期)遺構内出土遺物図91 SX07性格不明遺構259(621)
第254回 纂文(後期)遺構内出土遺物図69 SKQ271-272-273-276-284配石土坑237(599)	第277回 纂文(後期)遺構内出土遺物図92 SX07性格不明遺構260(622)
第255回 纂文(後期)遺構内出土遺物図70 SKQ287-288-290配石土坑238(600)	第278回 纂文(後期)遺構内出土遺物図93 SK112土坑261(623)
第256回 纂文(後期)遺構内出土遺物図71 SKQ304-305-308-314-317-319-323-367配石土坑239(601)	第279回 纂文(詳細時期不明)遺構内出土遺物図1 SE35穴柱建物、SK401土坑、SN42-1089便道構262(624)
第257回 纂文(後期)遺構内出土遺物図72 SKQ318-462配石土坑240(602)	第280回 纂文(詳細時期不明)遺構内出土遺物図2 SK101土坑263(625)
第258回 纂文(後期)遺構内出土遺物図73 SKQ496-506配石土坑241(603)	第281回 纂文(詳細時期不明)遺構内出土遺物図3 穴柱ビット①264(626)
第259回 纂文(後期)遺構内出土遺物図74 SKQ617-742-763-769-797-819-847-884-969-1070配石土坑242(604)	第282回 纂文(詳細時期不明)遺構内出土遺物図4 穴柱ビット②(1)265(627)
第260回 纂文(後期)遺構内出土遺物図75 SKQ1001-9-1002-1002-1003-1004-1006-1040-1009-1061-1069-1013配石土坑243(605)	第283回 纂文(詳細時期不明)遺構内出土遺物図5 穴柱ビット②(2)266(628)
第261回 纂文(後期)遺構内出土遺物図76 SKQ219-223配石遺構244(606)	第284回 纂文(詳細時期不明)遺構内出土遺物図6 穴柱ビット③(3)267(629)
第262回 纂文(後期)遺構内出土遺物図77 SKQ223-109-1101便道構245(607)	第285回 弘生以降遺構図1 SK111穴状遺構268(630)
第263回 纂文(後期)遺構内出土遺物図78 SKQ293-289配石遺構246(608)	第286回 弘生以降遺構図2 SD1009-1010便柱建物跡269(631)
第264回 纂文(後期)遺構内出土遺物図79 SKQ321配石遺構247(609)	第287回 弘生以降遺構図3 SD1011-1012-1013洞之柱建物跡270(632)
第265回 纂文(後期)遺構内出土遺物図80 SQN956-1009-1009-228-267上部壁遺構248(610)	第288回 弘生以降遺構図4 SD1014便柱建物跡271(633)
第266回 纂文(後期)遺構内出土遺物図81 SH172-846-1078-1010上部壁遺構249(611)	第289回 弘生以降遺構図5 SD1015便柱建物跡、SA1028柱列跡272(634)
第267回 纂文(後期)遺構内出土遺物図82 SH1017上部壁遺構、SN342-554-1096-1098-1100上部壁遺構250(612)	第290回 弘生以降遺構図6 SA117柱列跡273(635)-274(636)
第268回 纂文(後期)遺構内出土遺物図83 SN1103-10001上部壁遺構、SD1050溝跡、SM809-6横断面状遺構251(613)	第291回 弘生以降遺構図7 SH236-281-354土坑、SN106-107便土遺構275(637)
第269回 纂文(後期)遺構内出土遺物図84 SX07性格不明遺構252(614)	第292回 弘生以降遺構図8 SN103-105便土遺構276(638)
第270回 纂文(後期)遺構内出土遺物図85 SX07性格不明遺構253(615)	第293回 弘生以降遺構図9 SN104便土遺構277(639)
第271回 纂文(後期)遺構内出土遺物図86 SX07性格不明遺構254(616)	第294回 時期不明遺構図1 SD547-589-590-592-593溝跡278(640)

表 目 次

第14表 遺構内出土石器類觀察表1~27282(644)~308(670)	第15表 遺構内出土石器類觀察表1~8309(671)~316(678)
---	--

第2分冊 遺構図・遺構内出土遺物図篇

凡例

- 1 本書に掲載した平面図の方位は日本測地系平面直角座標第X系座標北である。巻末の報告書抄録の経緯度は世界測地系に準拠する。
- 2 頁番号は各分冊ごとに1から付し、総頁番号を()を付けて併記した。
- 3 略記号は以下の通りである。

SI : 壁穴住居跡	SQ : 配石遺構・集石遺構	SM : 遗跡・石積階段状遺構	RP : 土器
SB : 据立柱建物跡	SQN : 石圓炉・立石炉	ST : 捨て場	RQ : 石器
SK : 土坑	SR : 土器埋設炉・土器片圓炉	SA : 柱列跡	S : 繪
SKF : フラスコ状土坑	SRN : 土器埋設炉・土器片圓炉	SKI : 壁穴状遺構	
SKQ : 配石土坑	SN : 焼土遺構・炉跡	SX : 性格不明遺構	
SKT : 陷し穴	SD : 溝跡	SKP : 柱穴様ピット	

*SKF フラスコ状土坑は、上端より壁もししくは下端が広い部分があるものとした。

- 4 遺構図及び遺物図の縮尺は以下の通りである。各図にスケールを付した。

SI : 1/20, 1/40, 1/50	SI炉・SRN・SN : 1/20, 1/40	SB : 1/100	SR : 1/20	SM-SX : 1/80
SK・SKF・SKQ・SQ・SQN・SKT・SKI : 1/40	SD : 1/40, 1/80, 1/160	SA : 1/80, 1/100	ST : 1/60	
土器実測図：遺構内1/3(遺構内)、1/4(捨て場・遺構外)				土製品実測図：1/3、1/4
石器実測図：洞片石器1/2、1/3 繪石器1/3、1/4 石皿1/4、1/6				石製品実測図：1/2、1/3、1/4

- 5 土層は基本層序にローマ数字(I, II, ...,)、遺構堆積土にはアラビア数字(1, 2, ...)を用いた。基本層位は数箇所で観察しており、それぞれにA~Gの識別番号を付した。「AI層」は「基本層序AにおけるI層」を表す。
- 6 土器実測図は、土器断面図の左側に外面図(拓影)、右側に内面図(拓影)を配した。
- 7 遺物番号は挿図ごとに1から付した。実測図を掲載せず写真のみを掲載した遺物は、図版ごとに①から番号を付した。なお写真のみを掲載した遺物についても、各遺物一覧表に基礎情報を記載している。
- 8 遺物番号は、第1図1を1~1、図版1の①を図版1-①のように略述した。遺物写真図版や遺構内遺物出土状況図などの遺物番号は挿図中の遺物番号と一致する。
- 9 表の凡例は、各表の冒頭に記載した。
- 10 遺構平面図の縦に付した番号は第56表に対応する。
- 11 挿図中に用いたスクリーントーン・記号の凡例は以下の通りである。

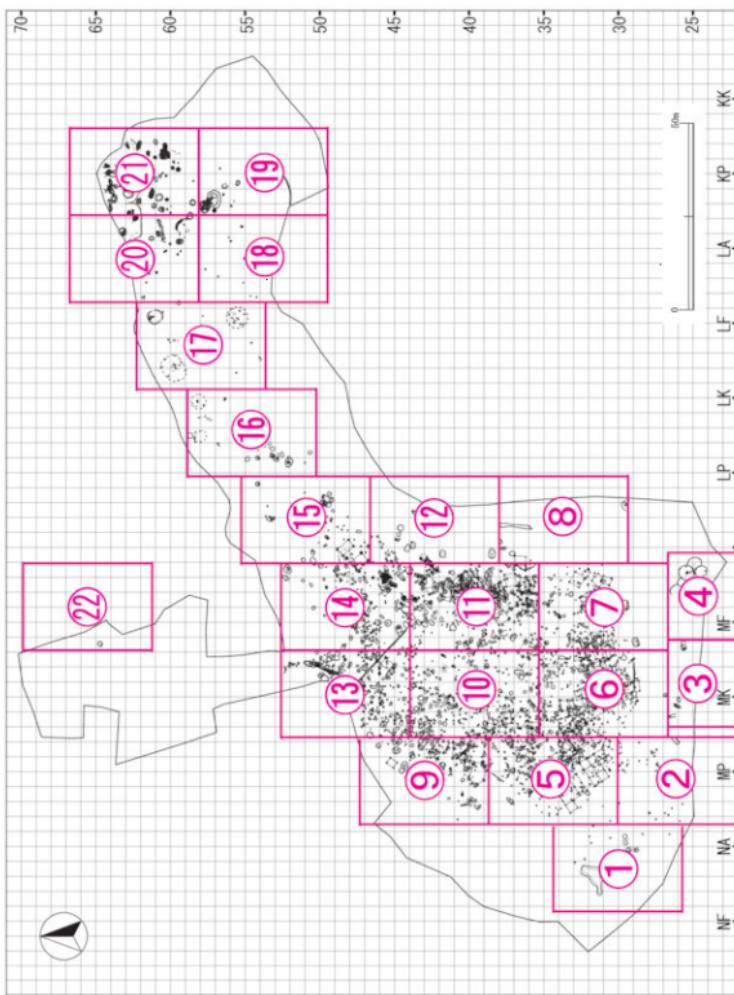
<遺構関連>

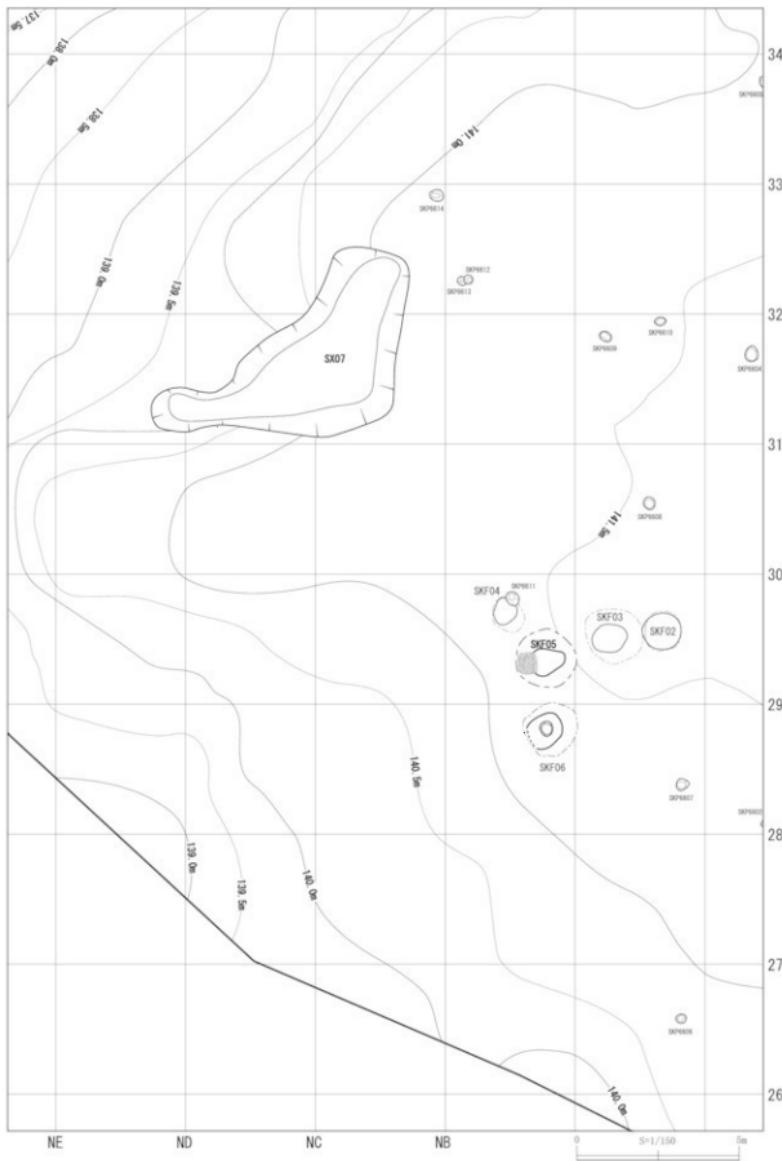


<遺物関連>

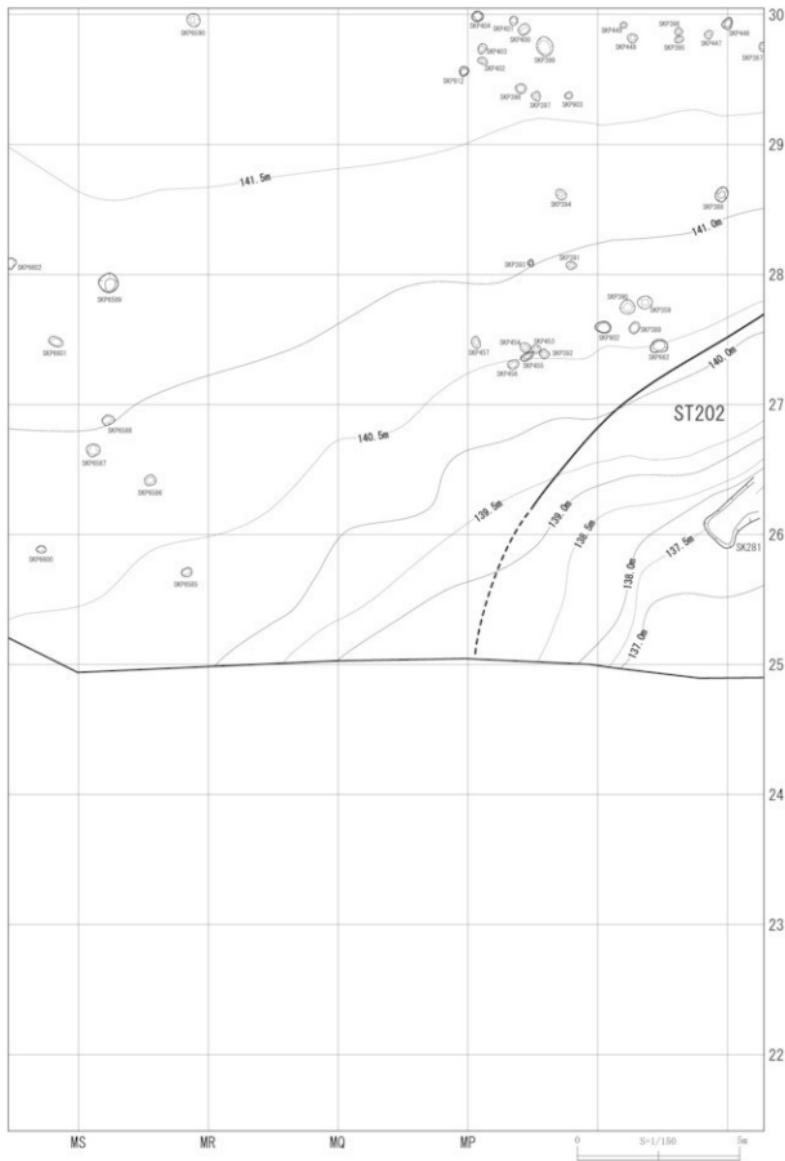


第19図 造構配置図区割図

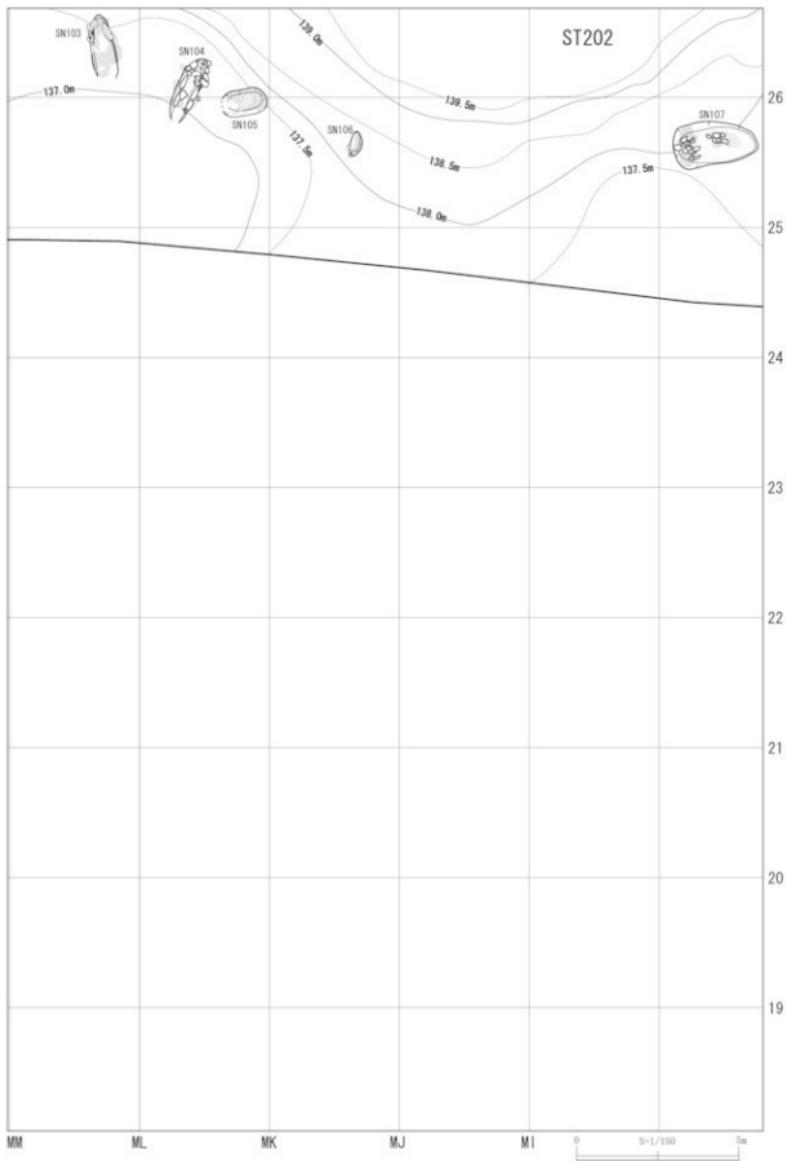




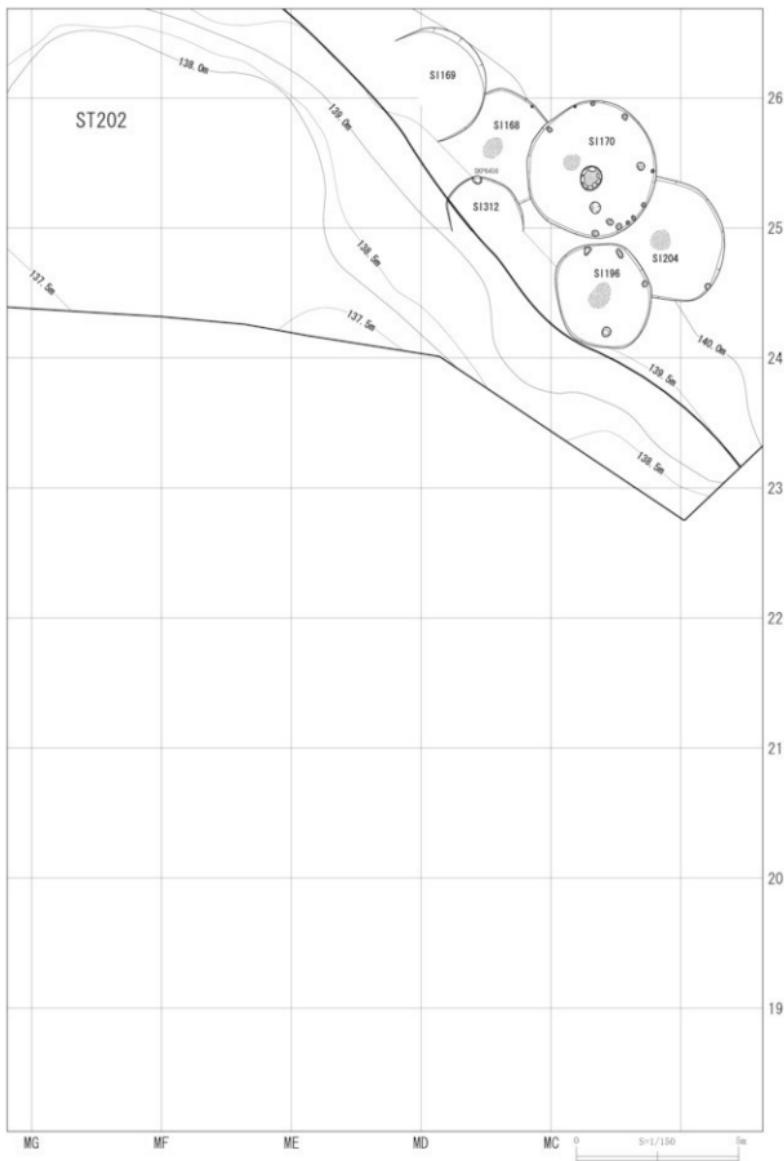
第20図 遺構配置図分割図①



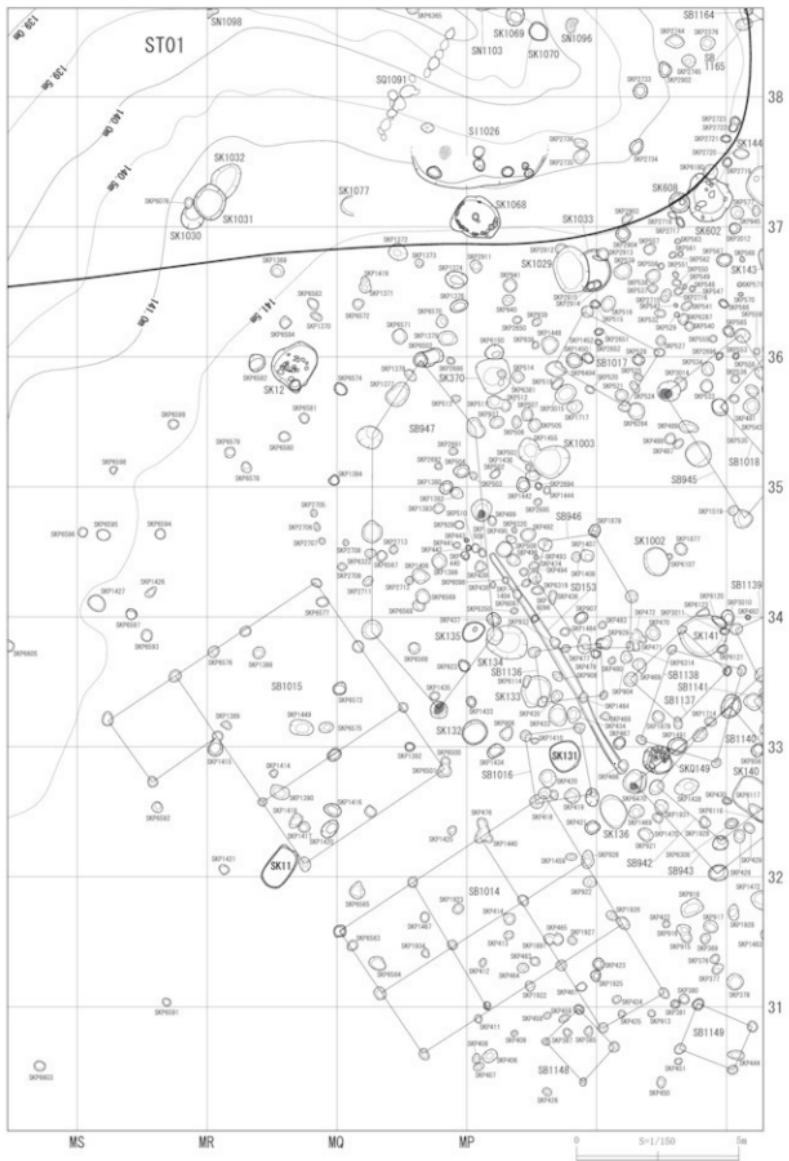
第21図 遺構配置図分割図②



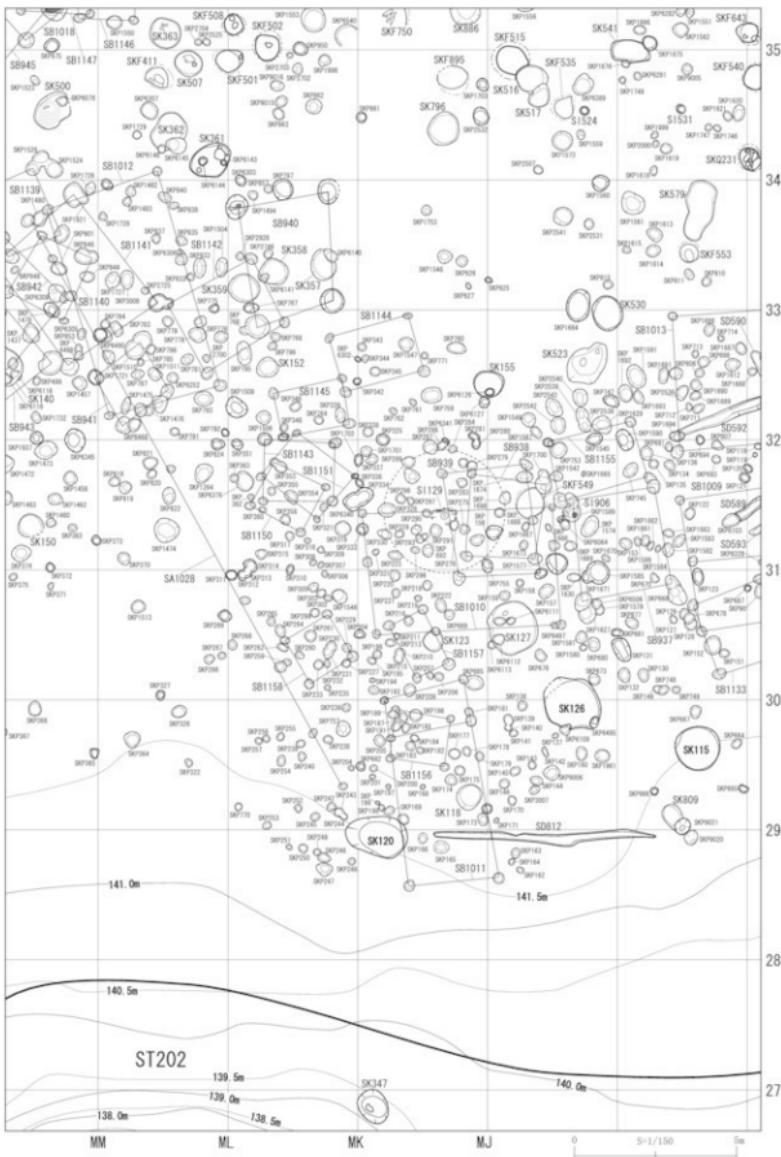
第22図 遺構配置図分割図③



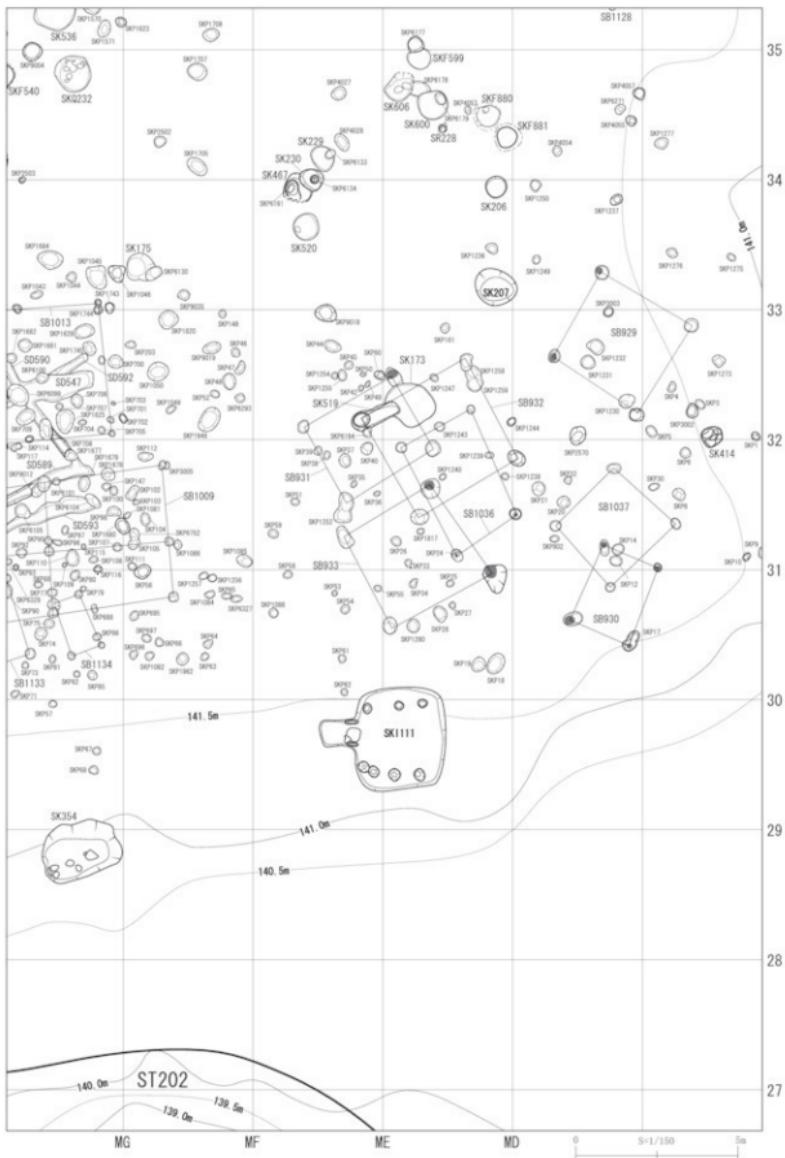
第23図 遺構配置図分割図④



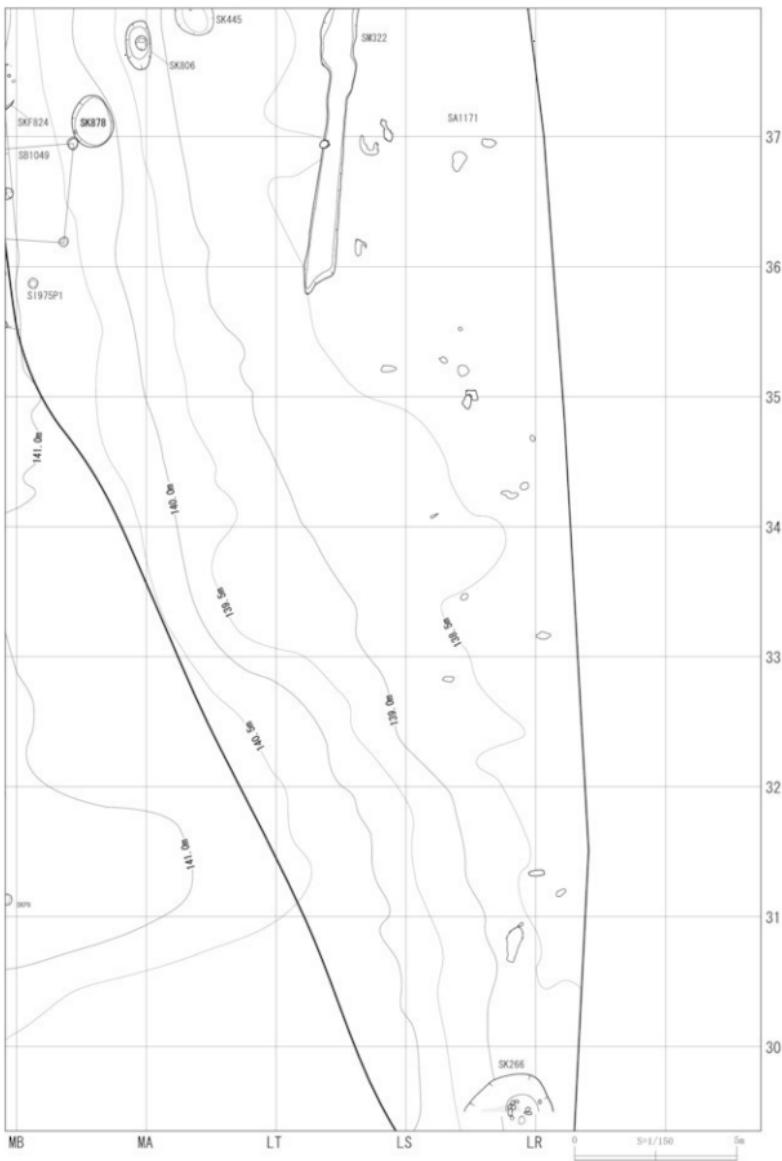
第24図 遺構配置図分割図⑤



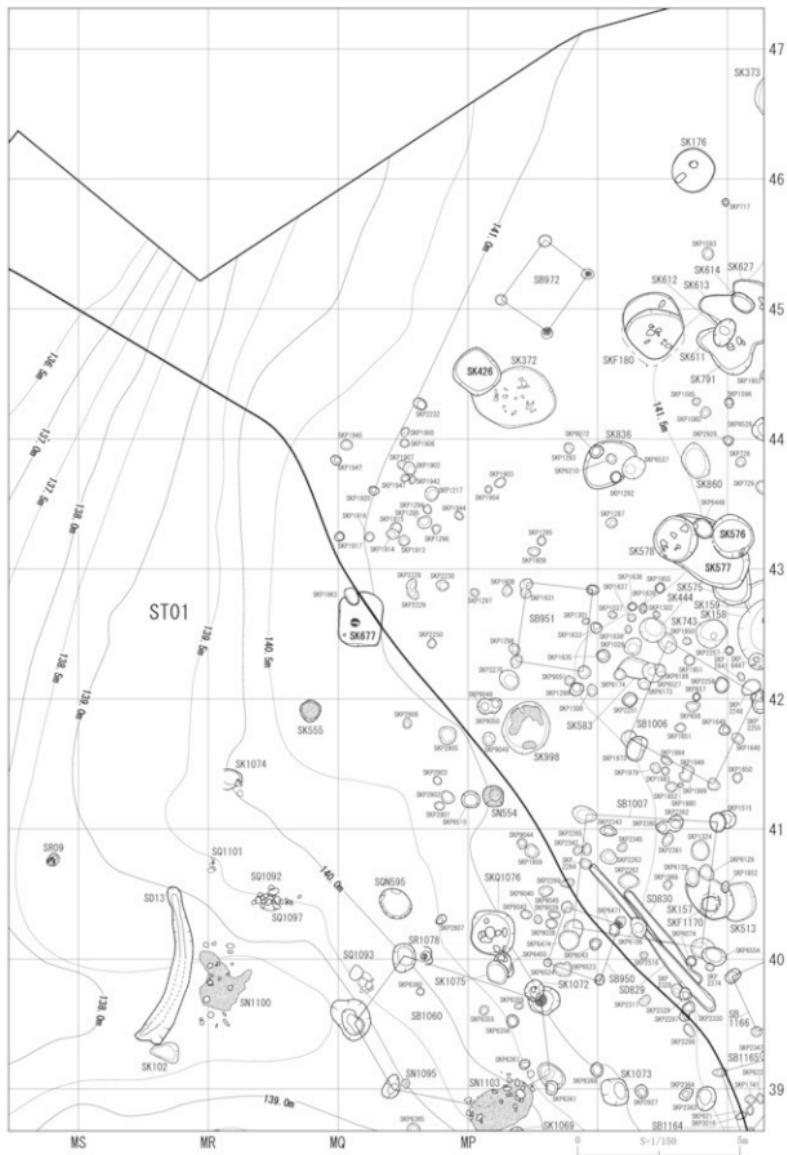
第25図 遺構配置図分割図⑥



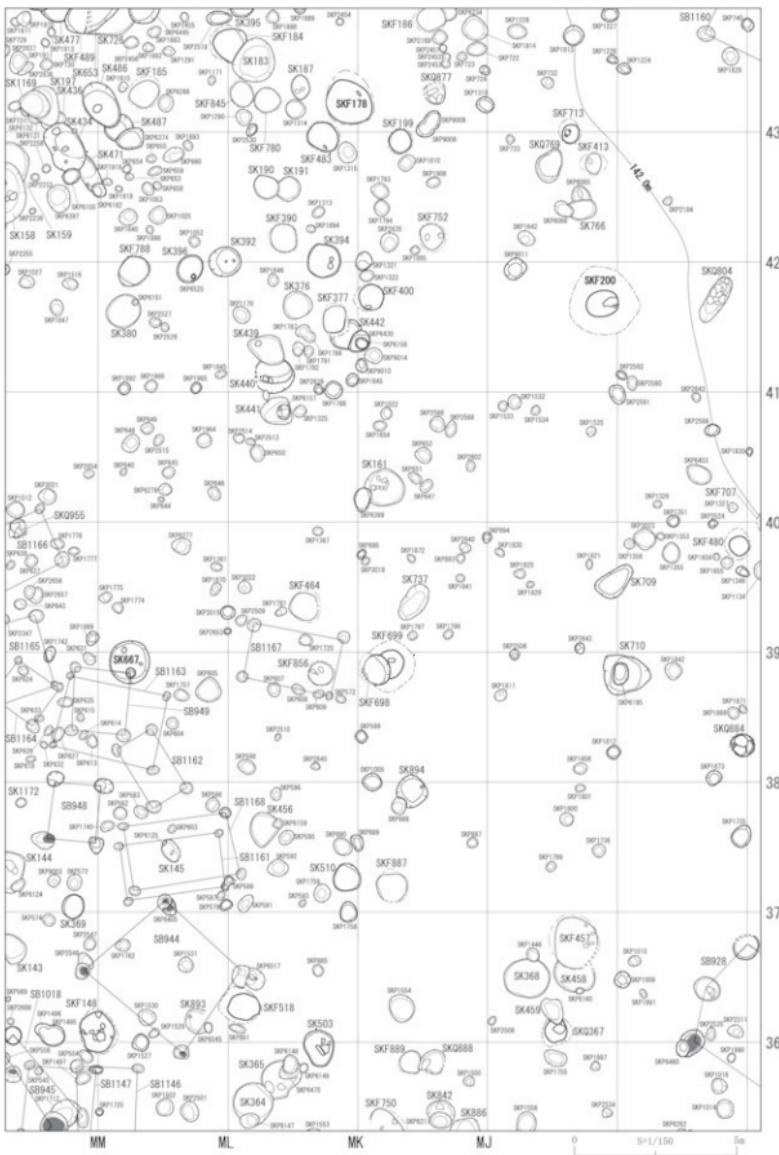
第26図 遺構配置図分割図⑦



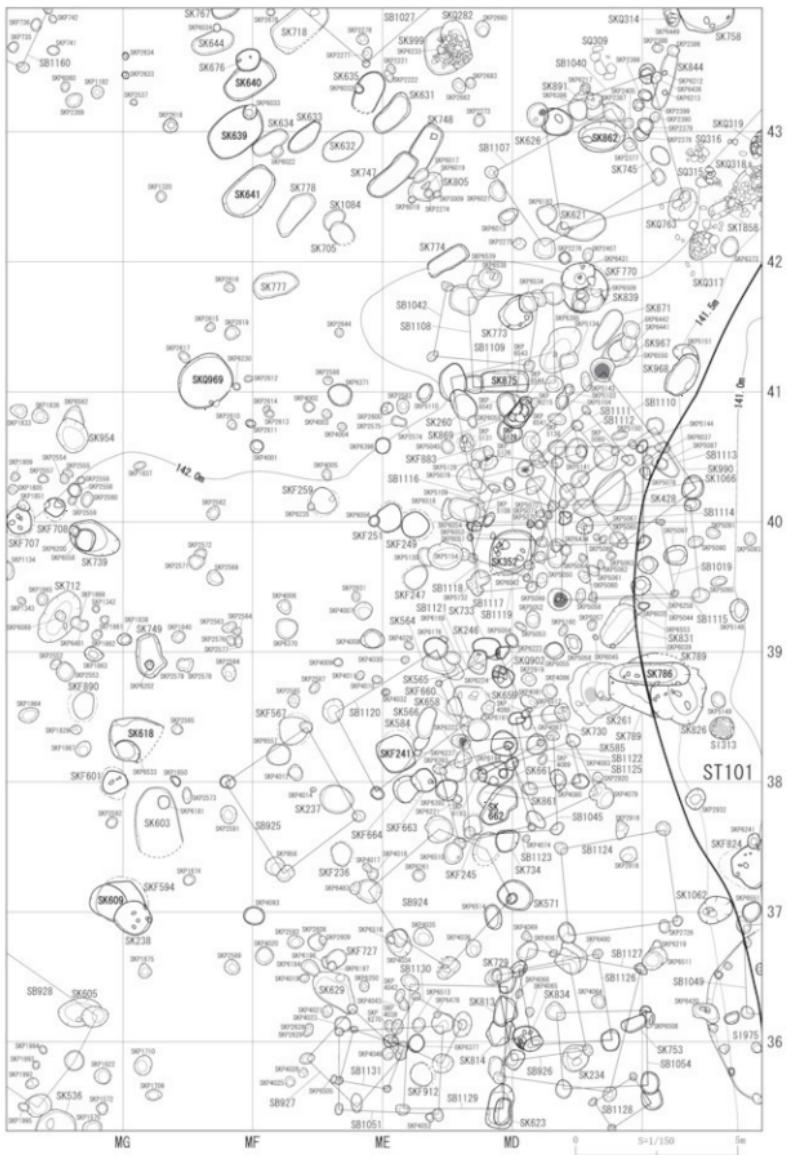
第27図 遺構配置図分割図⑧



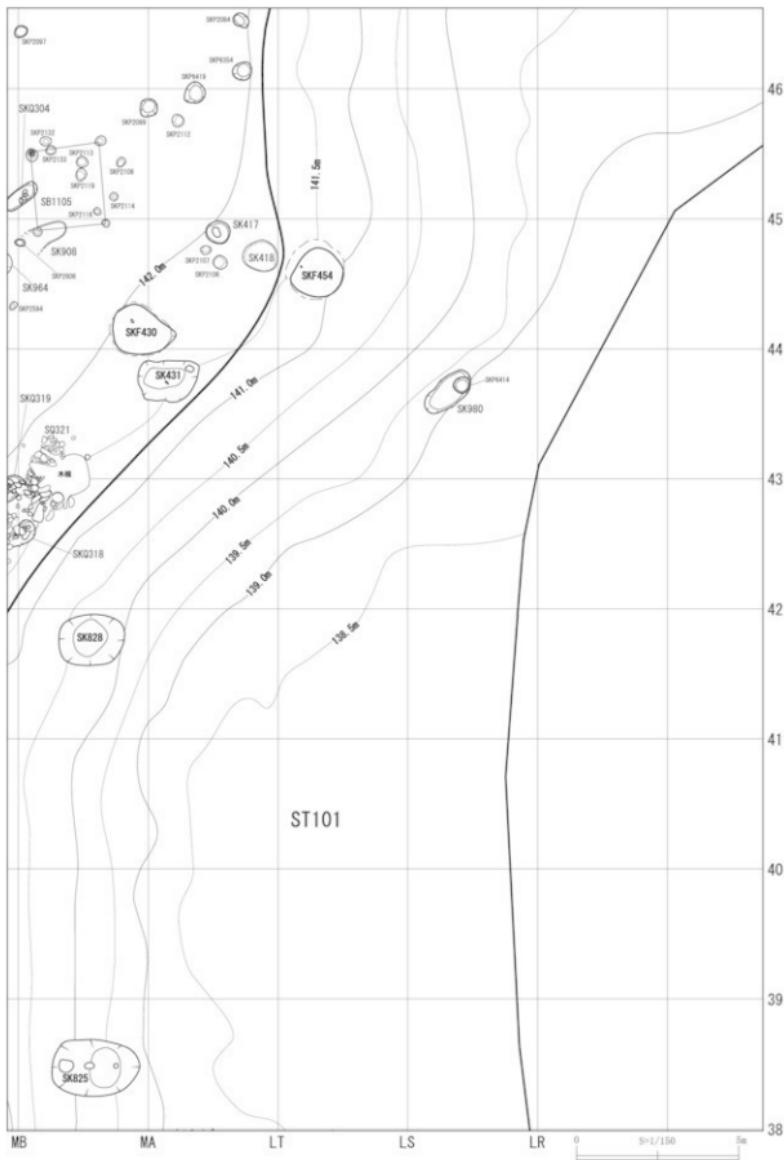
第28図 遺構配置図分割図⑨



第29図 遺構配置図分割図⑩



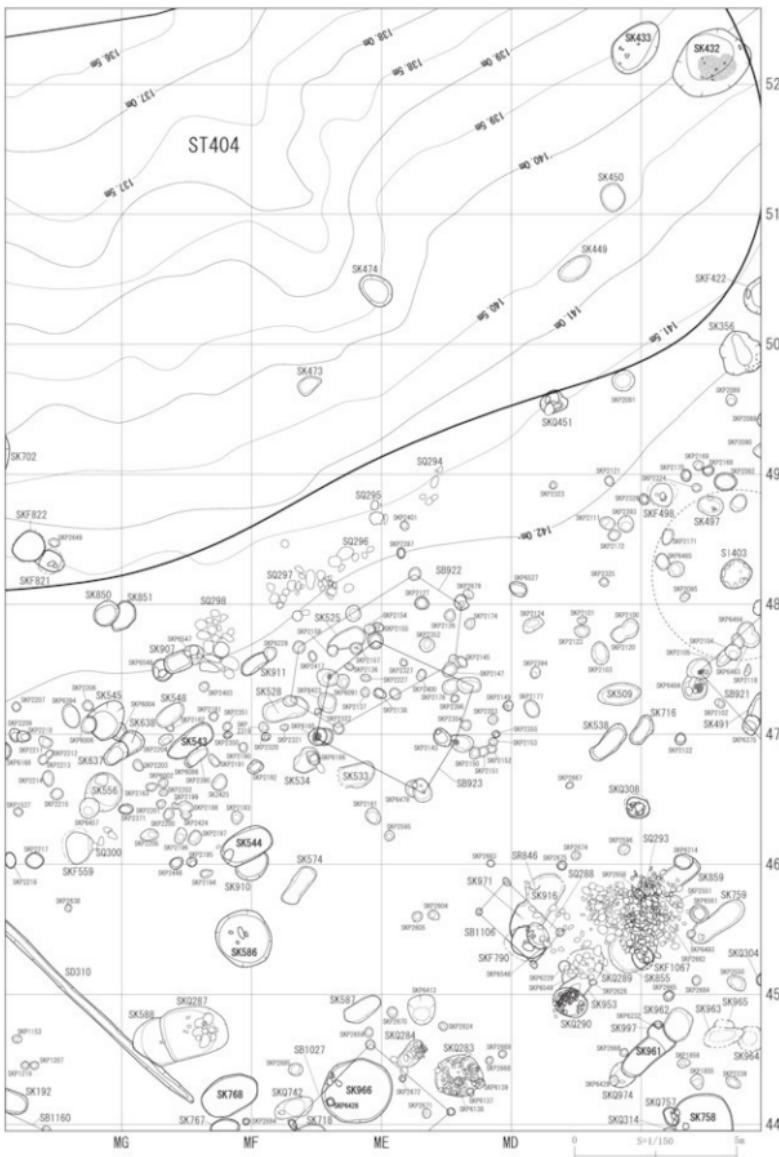
第30図 遺構配置図分割図⑪



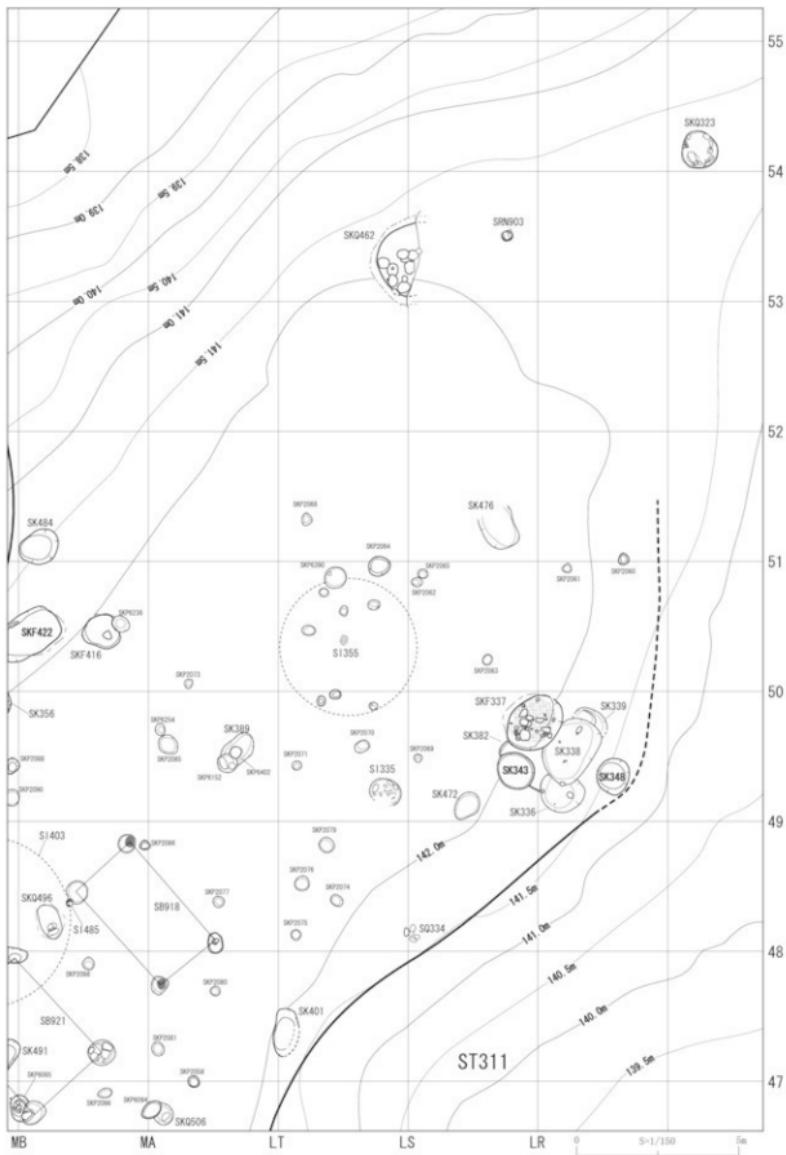
第31図 遺構配置図分割図⑫



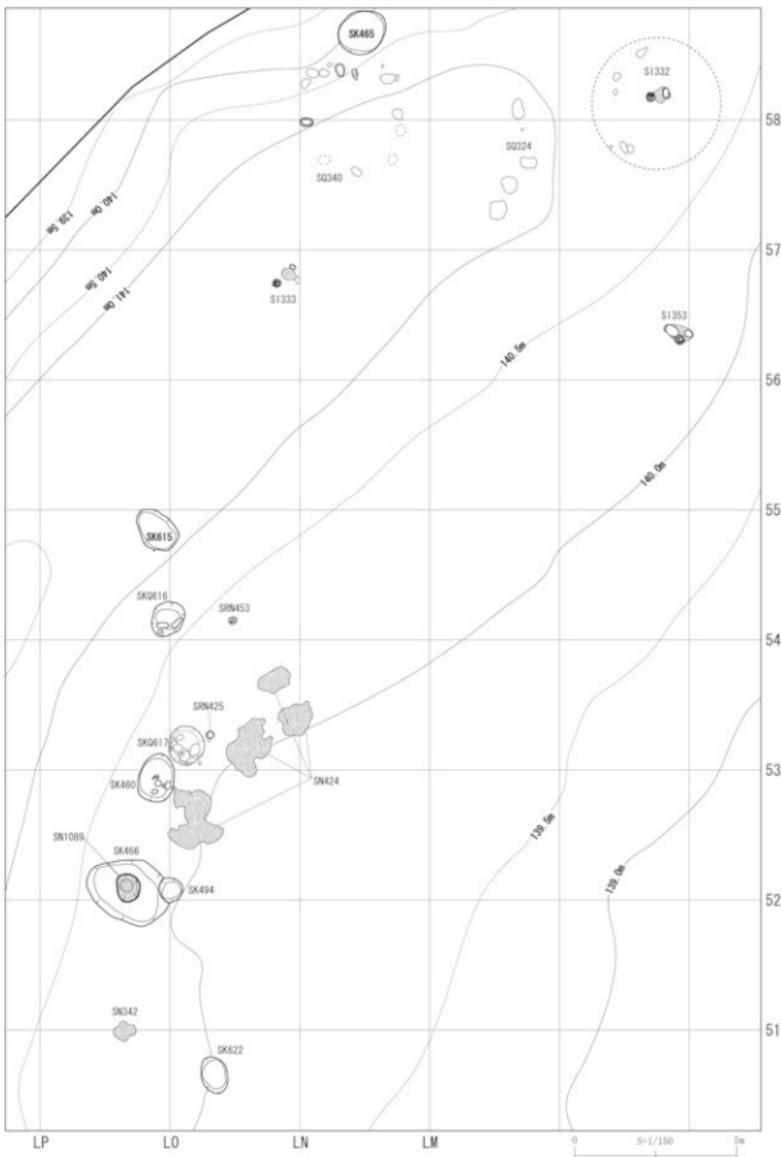
第32図 遺構配置図分割図⑬



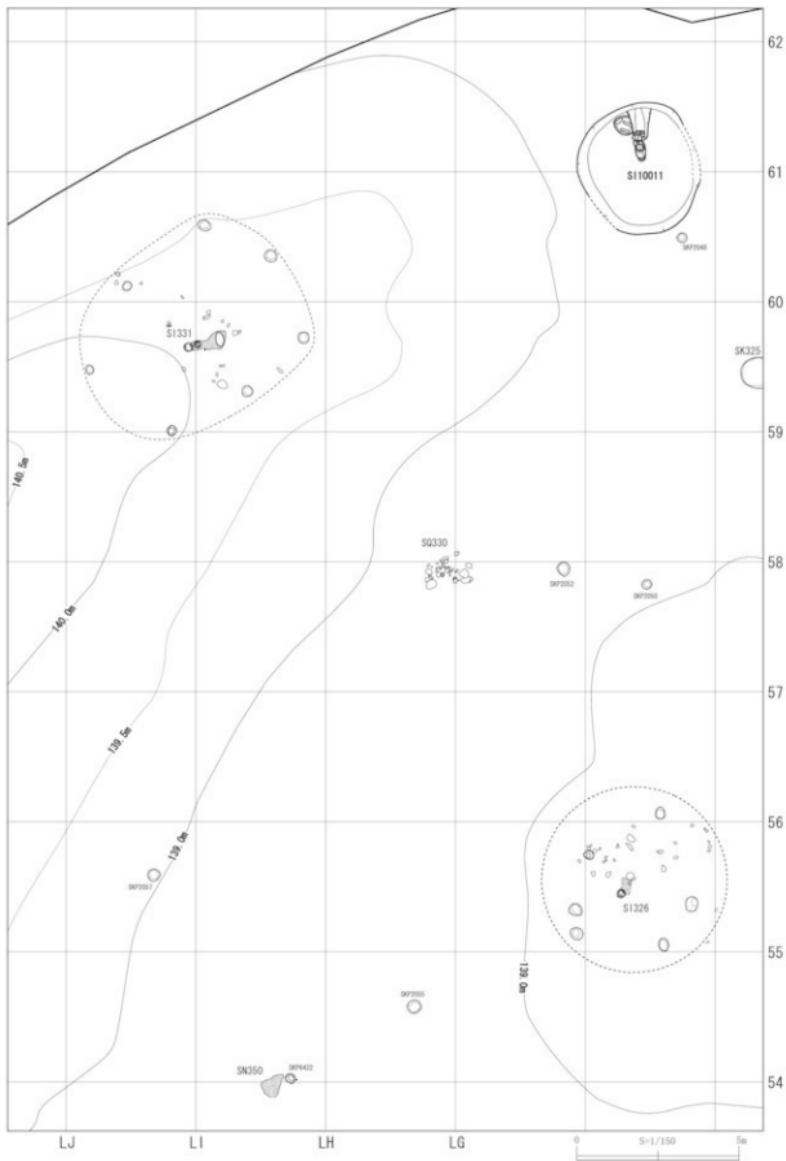
第33図 遺構配置図分割図⑯



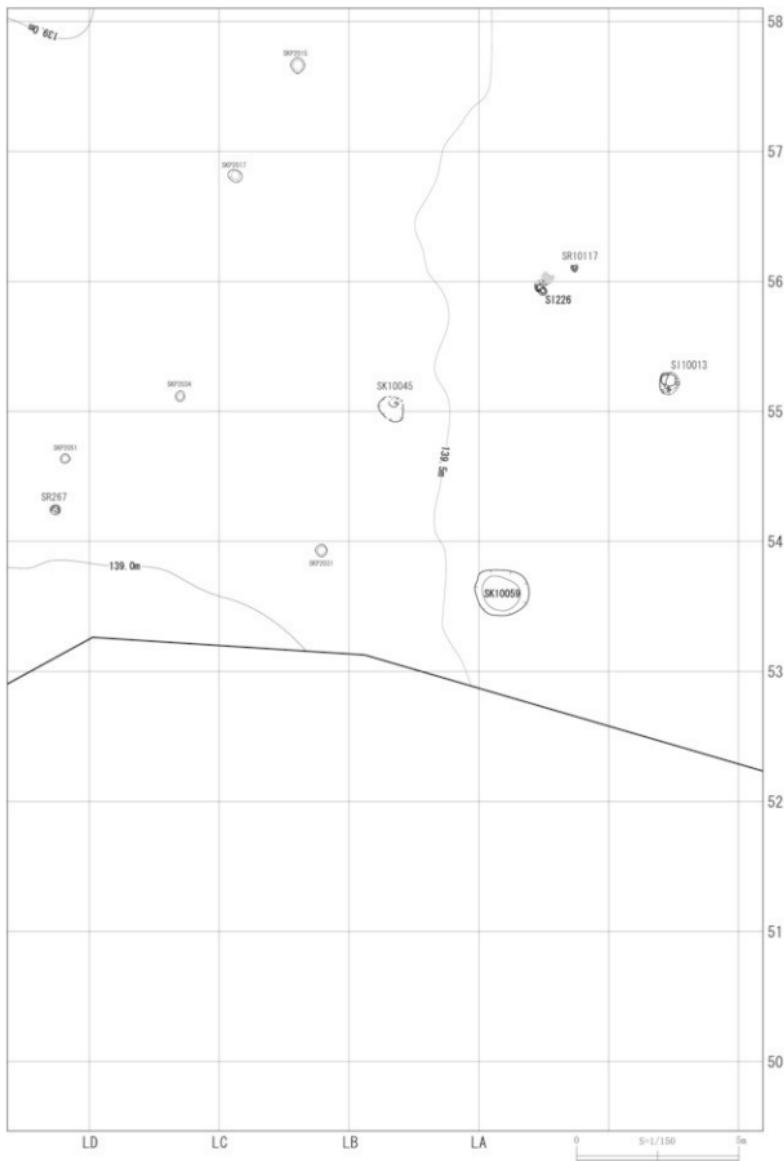
第34図 道構配置図分割図⑯



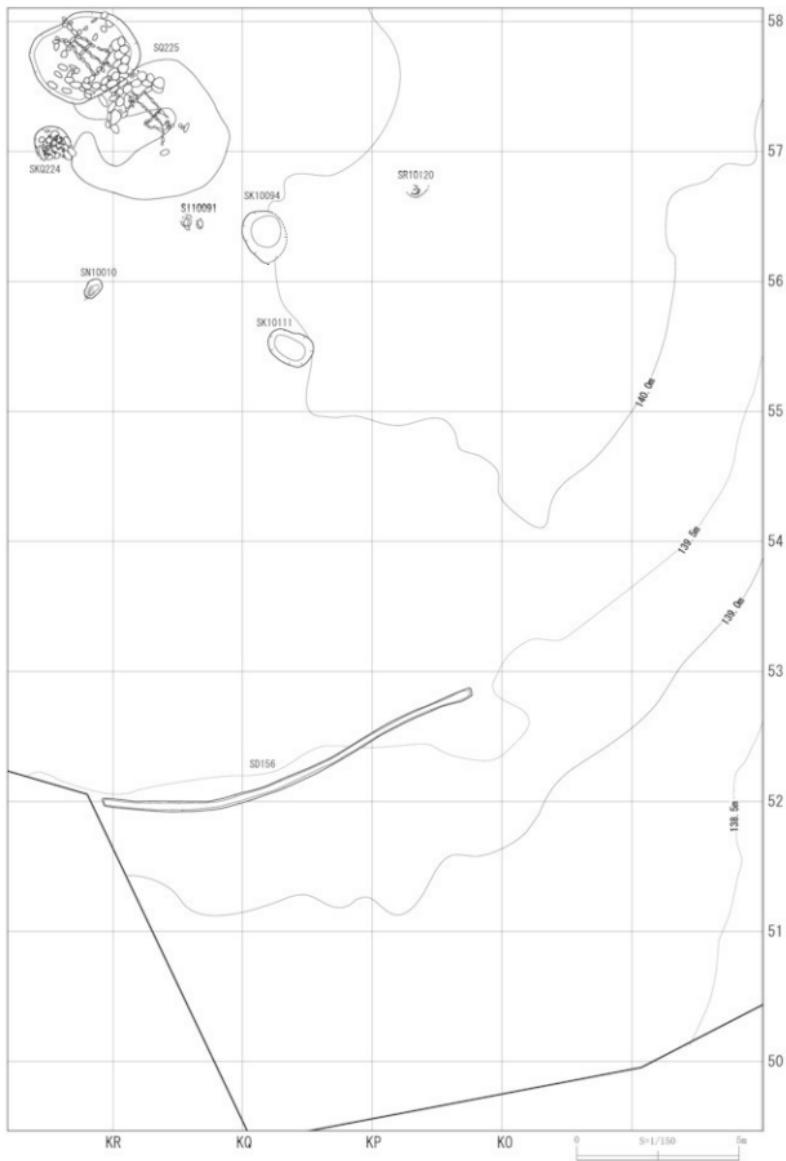
第35図 遺構配置図分割図⑯



第36図 遺構配置図分割図⑯



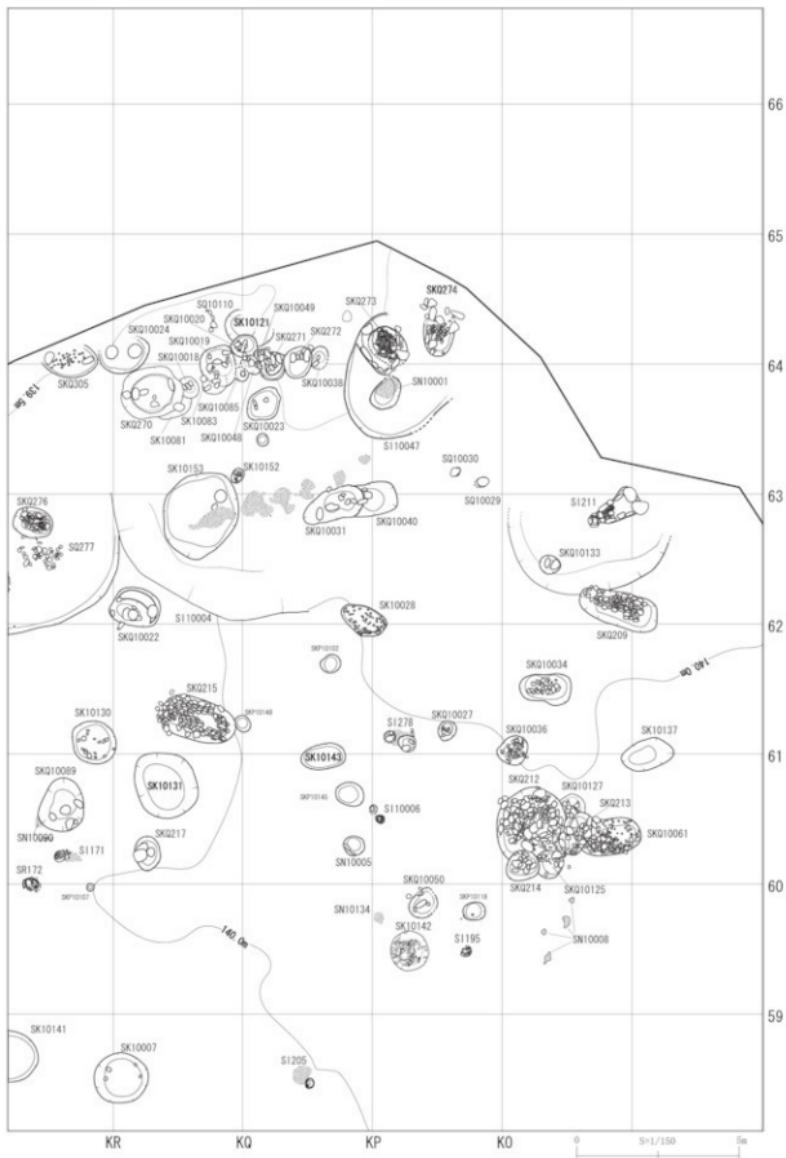
第37図 遺構配置図分割図⑯



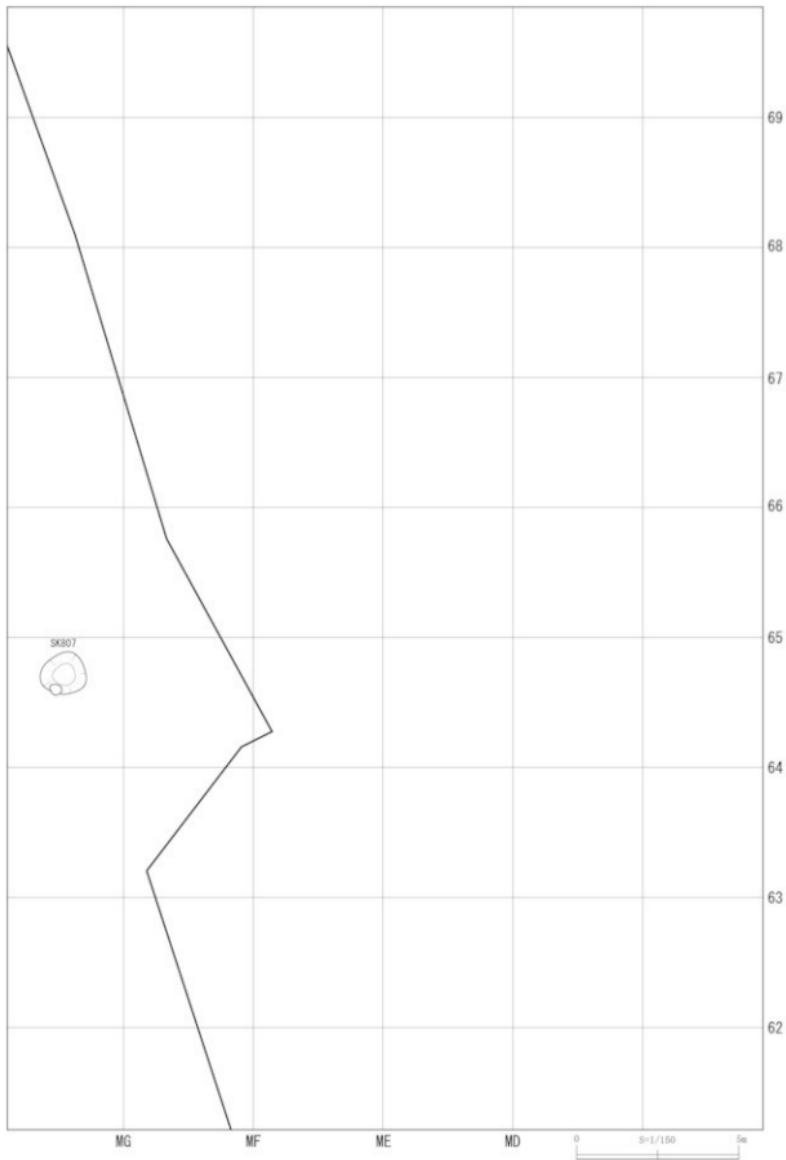
第38図 遺構配置図分割図⑯



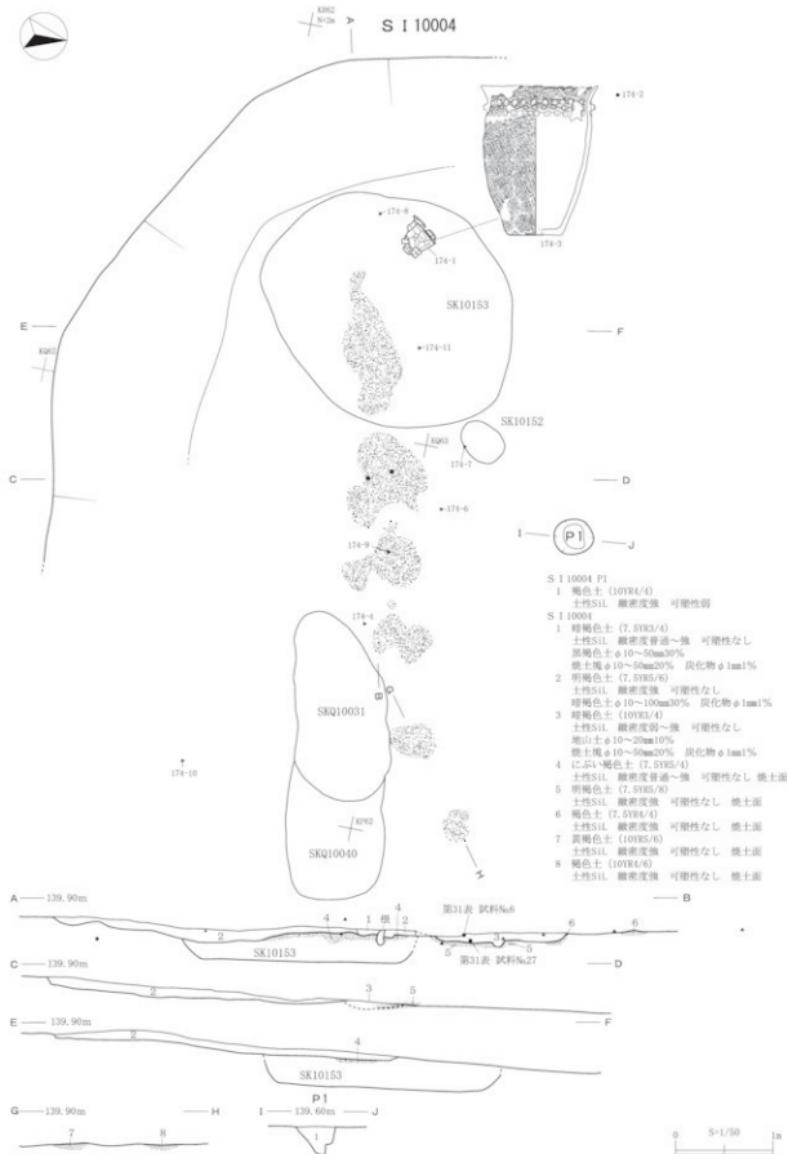
第39図 遺構配置図分割図⑩



第40図 遺構配置図分割図②



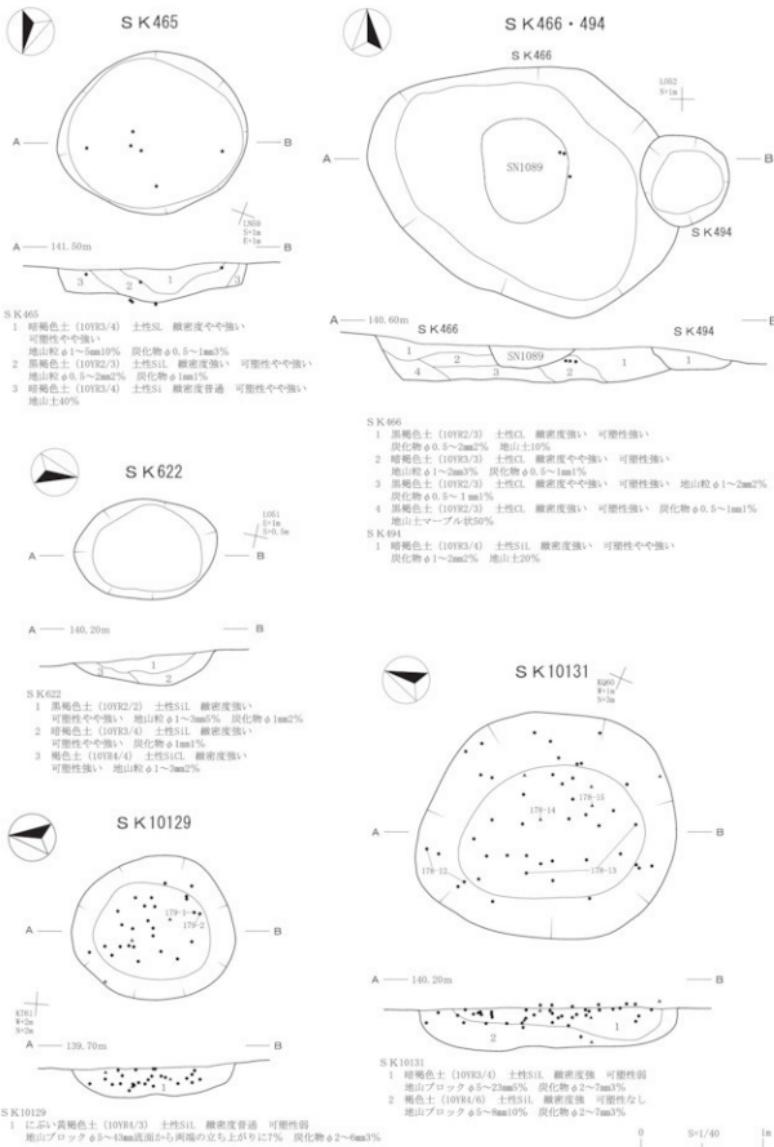
第41図 遺構配置図分割図②



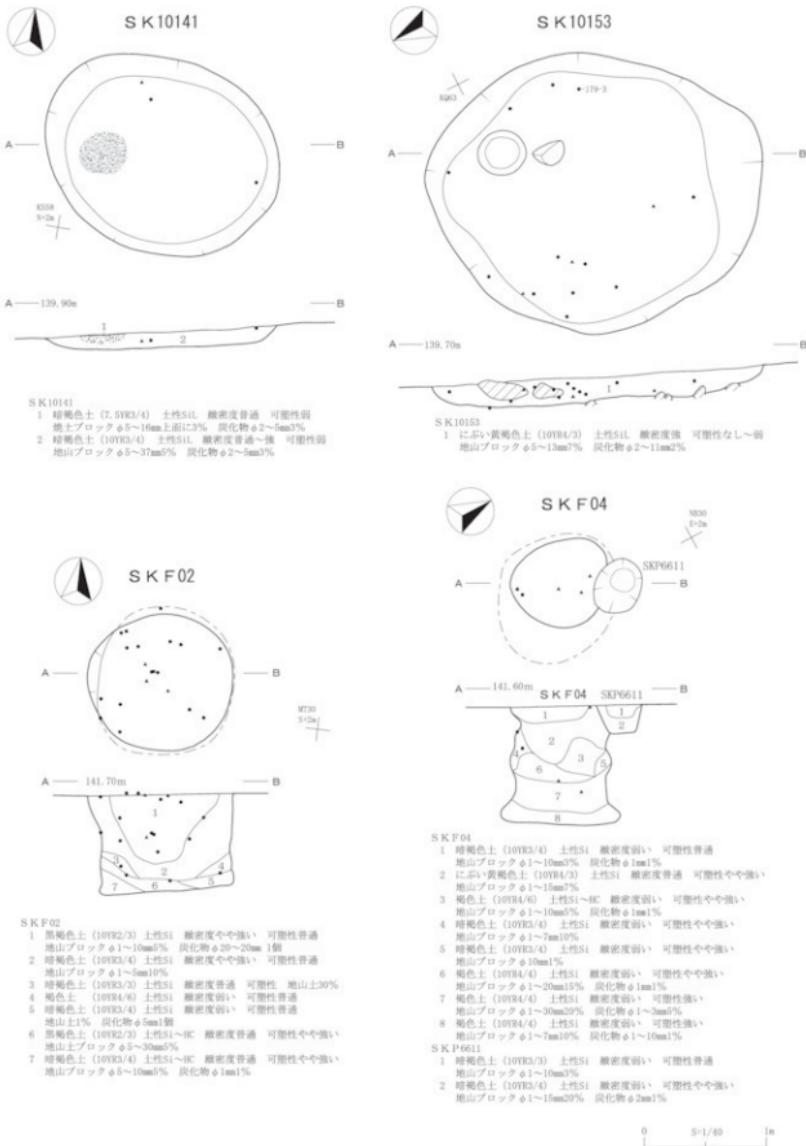
第42図 繩文(前期)遺構図 1
SI10004竪穴住居跡



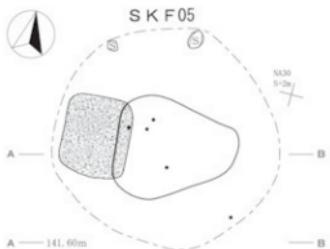
第43図 繩文(前期)遺構図2
SI10106竪穴住居跡



第44図 繩文(前期)遺構図3
SK465・466・494・622・10129・10131土坑

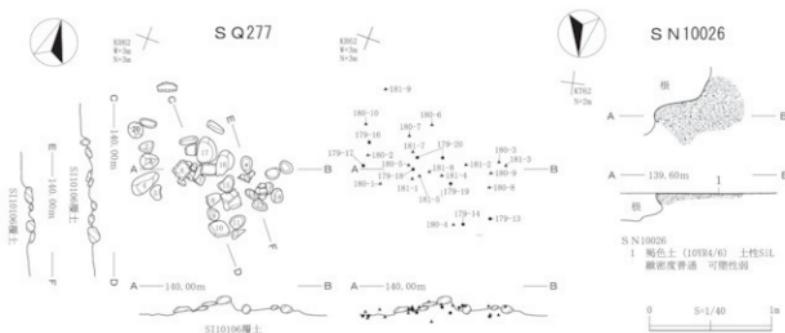


第45図 繩文(前期)遺構図4
SK10141・10153土坑、SKF02・04フラスコ土坑



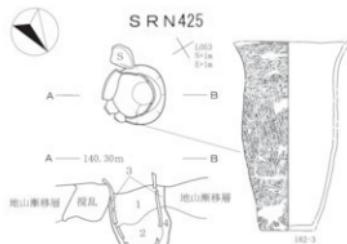
SKF05
1 黒褐色土 (10YR2/3) 土性SIL 粘密度普通 可能性強い

- 地山ブロック $\phi 1\sim15cm$ 10% 固化物 $\phi 1\sim2mm$ 5%
- 暗褐色土 (10YR5/4) 土性SIL 粘密度普通 可能性強い
- 褐色土 (10YR4/4) 土性SIL 粘密度弱い 可能性強い
- 暗褐色土 (10YR3/4) 土性SIL 粘密度弱い 可能性強い
- 地山ブロック $\phi 1\sim20cm$ 20% 固化物 $\phi 1\sim2mm$ 1%
- 地山ブロック $\phi 1\sim30cm$ 5% 固化物 $\phi 1\sim2mm$ 1%
- 黃褐色土 (10YR5/6) 土性SIL ~HK 粘密度普通 可能性強い
- 黃褐色土 (10YR5/6) 土性SIL ~HK 粘密度弱い 可能性強い 剥離色40%
- 褐色土 (10YR4/6) 土性SIL 粘密度弱い 可能性強い 剥離色20%
- 褐色土 (10YR4/6) 土性SIL 粘密度弱い 可能性強い 剥離色10mm 1%
- 褐色土 (7.5YR4/4) 土性SIL 粘密度弱い 可能性強い 剥離色10mm 1%
- 黃褐色土 (10YR5/6) 土性SIL ~HK 粘密度普通 可能性強い
- 褐色土 (7.5YR4/4) 土性SIL 粘密度弱い 可能性強い 剥離色 $\phi 1\sim10mm$ 5%
- 褐色土 (7.5YR4/6) 土性SIL ~HK 粘密度弱い 可能性強い 剥離色 $\phi 1\sim10mm$ 5%
- 褐色土 (10YR4/6) 土性SIL ~HK 粘密度弱い 可能性強い 剥離色 $\phi 1\sim2mm$ 5%
- 褐色土 (10YR4/6) 土性SIL ~HK 粘密度弱い 可能性強い 剥離色 $\phi 1\sim2mm$ 5%
- 褐色土 (10YR3/4) 土性SIL 粘密度弱い 可能性強い 剥離色 $\phi 1\sim10mm$ 1%
- 地山ブロック $\phi 1\sim20cm$ 5% 固化物 $\phi 1\sim3mm$ 1%



SQ277
S N10026

S N10026
1 黒褐色土 (10YR4/6) 土性SIL
粘密度普通 可能性弱い



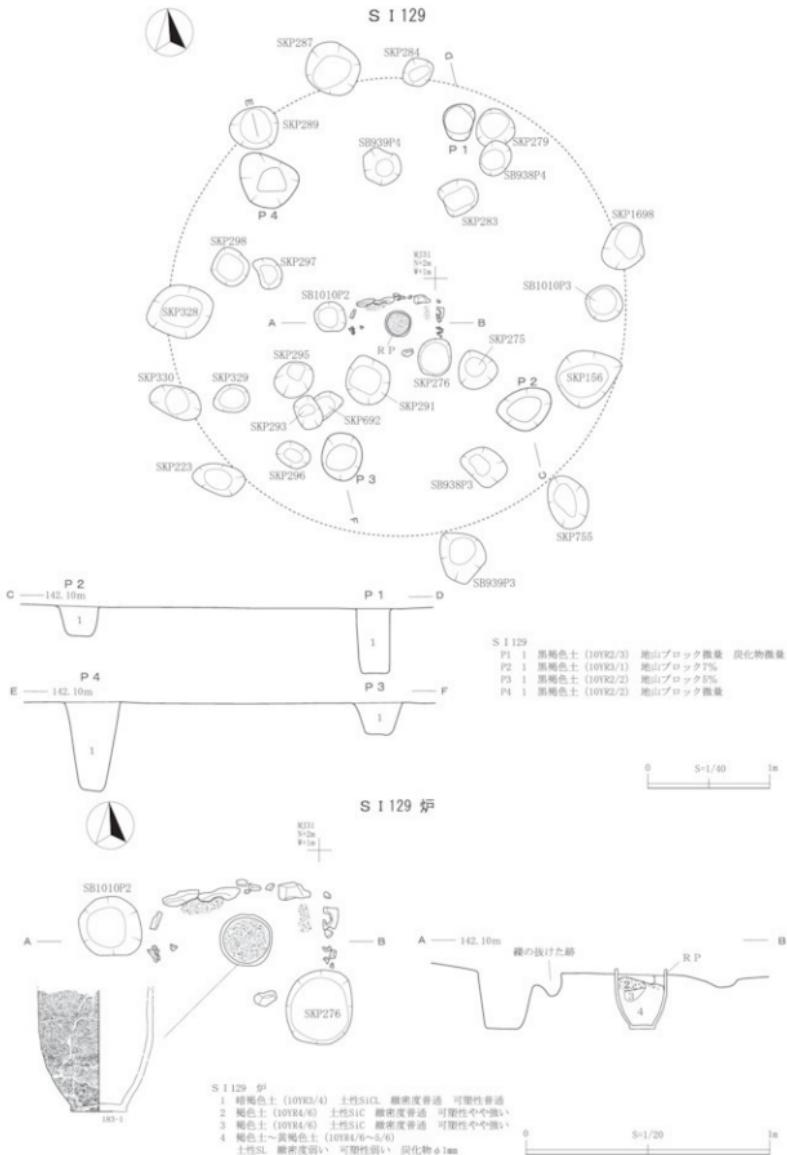
- SRN425
1 黄褐色土 (7.5YR4/4) 土性SIC 粘密度やや弱い
可能性強い 固化物 $\phi 1\sim3mm$ 少量 地山に多量
2 黄褐色土 (10YR5/6) 土性HK 粘密度強い
可能性強い 固化物 $\phi 10mm$ 少量 地山にやや多い
3 绿褐色土 (10YR3/3) 土性SIC 粘密度弱い
可能性弱い 固化物 $\phi 1mm$ 少量
4 黑褐色土 (10YR4/4) 土性SIL 粘密度強い 可能性弱い

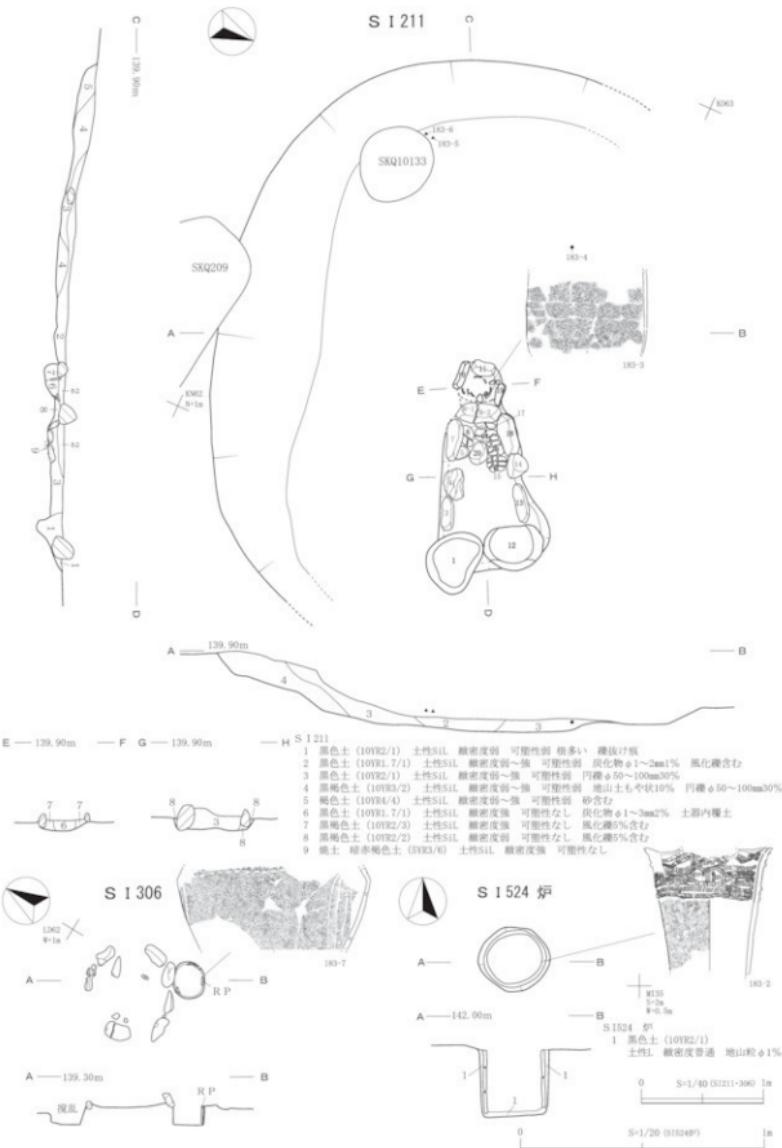


- SRN453
1 黑褐色土 (10YR2/2) 土性SIC
粘密度強い 可能性強い 固化物 $\phi 1mm$ 多量 地山に少量
2 黑褐色土 (10YR3/1) 土性SIC
粘密度強い 可能性強い 地山に $\phi 5mm$ 多量
3 黑褐色土 (10YR3/2) 土性SIC
粘密度やや強い 可能性弱い 地山に $\phi 2mm$
4 黄褐色土 (10YR3/4) 土性SIC
粘密度強い 可能性強い

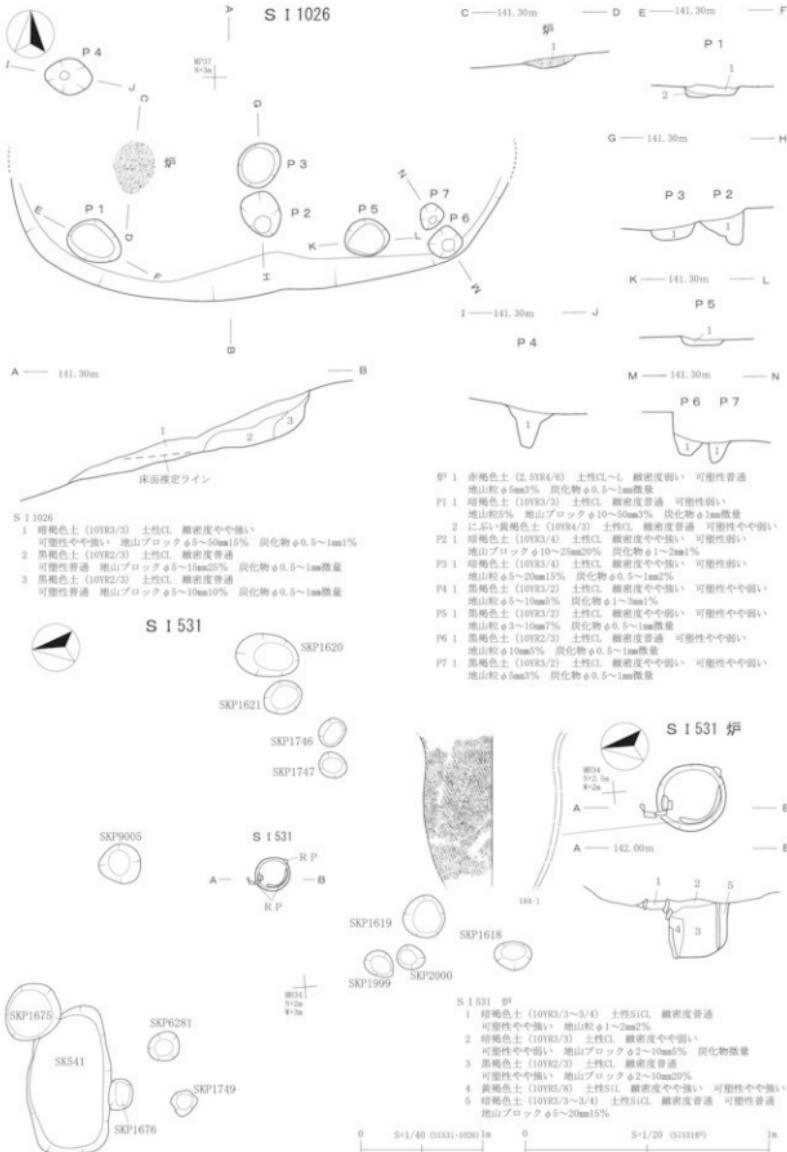
0 S=1/20 1m

第46図 繩文(前期)遺構図5
SKF05フラスコ状土坑、SQ277集石遺構、SRN425・453土器埋設戸、SN10026焼土遺構

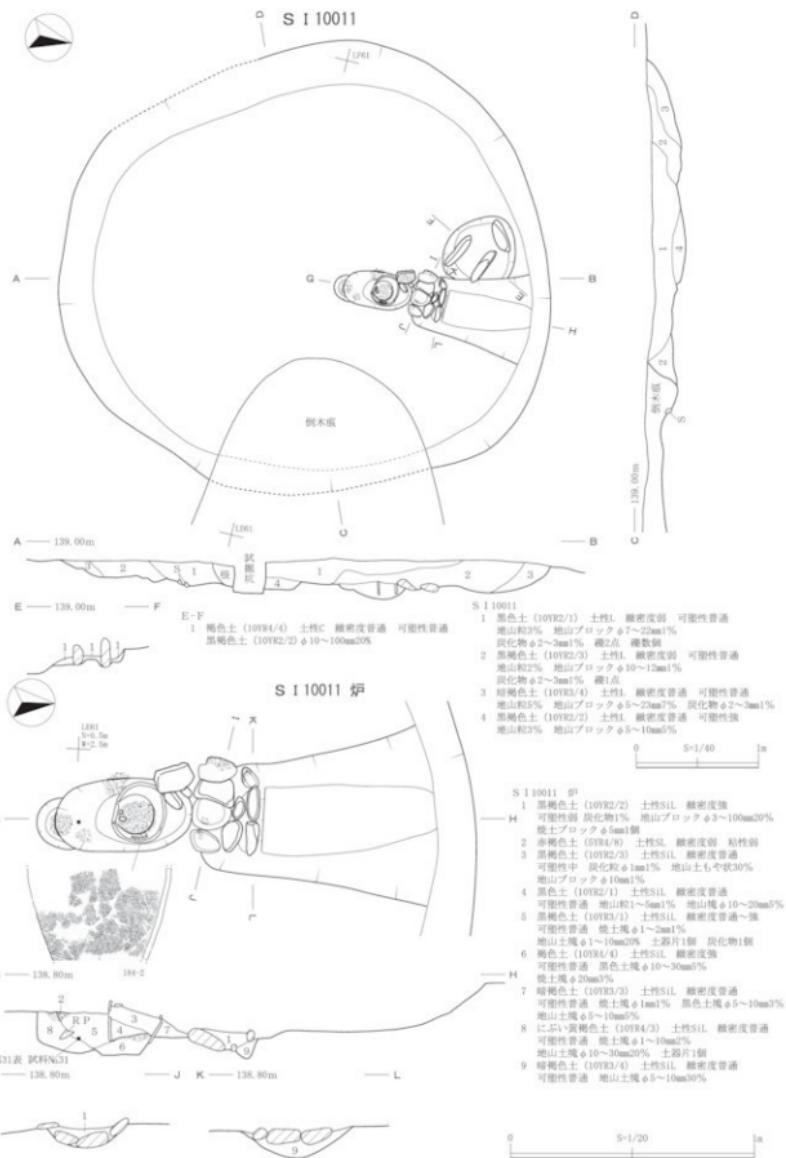




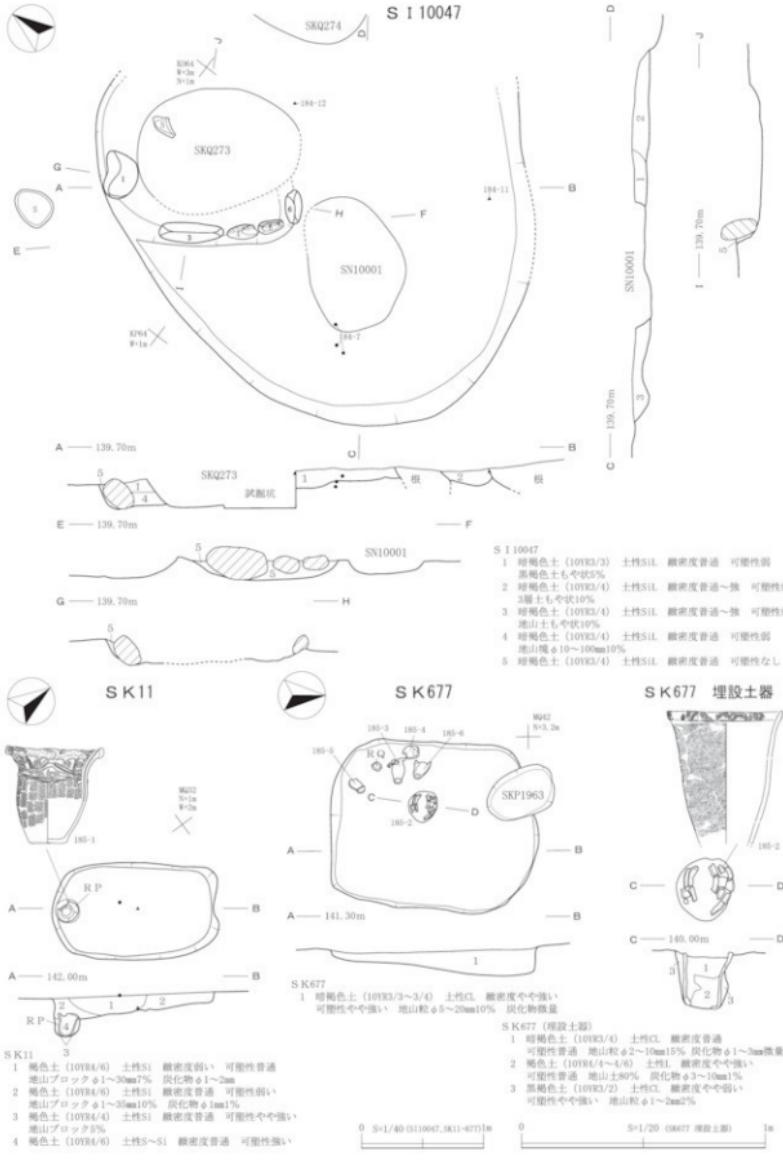
第48図 繩文(中期)遺構図2
S I 211・306・524堅穴住居跡



第49図 繩文(中期)遺構図3
SI 1531・1026縦穴住跡



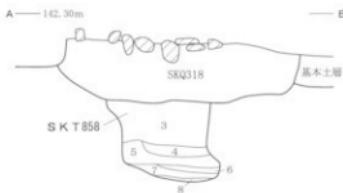
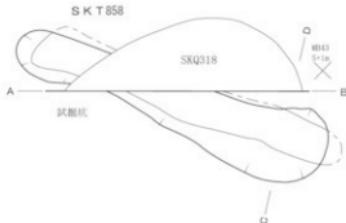
第50図 繩文(中期)遺構図 4
S10011 積穴住居跡



SI10047竖穴住居跡、SK11・677土坑

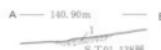


S K T 858



SKT858

- 1 黒鶴山 (10192/2) 土性CL 縦密度や高い 可能性やや強い
地山:砂岩・1~7m厚 岩化度:1~7m厚
 - 2 黒鶴山 (10192/3) 土性CL 縦密度や高い 可能性やや強い
地山:土・10~15m厚 岩化度:1~3m厚
 - 3 黒鶴山 (10193/3) 土性CL 縦密度やや高い 可能性普通
地山:土・10~15m厚 岩化度:1~3m厚
 - 4 黒鶴山 (10192/3) 土性CL 縦密度やや高い 可能性普通
地山:砂岩・1~7m厚 岩化度:1~7m厚
 - 5 黒鶴山 (10192/3) 土性CL 縦密度やや高い 可能性普通
地山:砂岩・1~7m厚 岩化度:1~7m厚
 - 6 黒鶴山 (10192/3) 土性CL 縦密度やや高い 可能性普通
地山:砂岩・1~7m厚 岩化度:1~7m厚
 - 7 黒鶴山 (10192/3) 土性CL 縦密度やや高い 可能性普通
地山:砂岩・1~7m厚 岩化度:1~7m厚
 - 8 黒鶴山 (10192/3) 土性CL 縦密度やや高い 可能性普通
地山:砂岩・1~7m厚 岩化度:1~7m厚

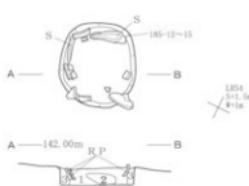


SN 1094

- 褐色土(7.5YR4/4) 土性CL
緻密度大心弱小 可塑性普通
炭化物 ϕ 5mm1% 黑褐色土20%



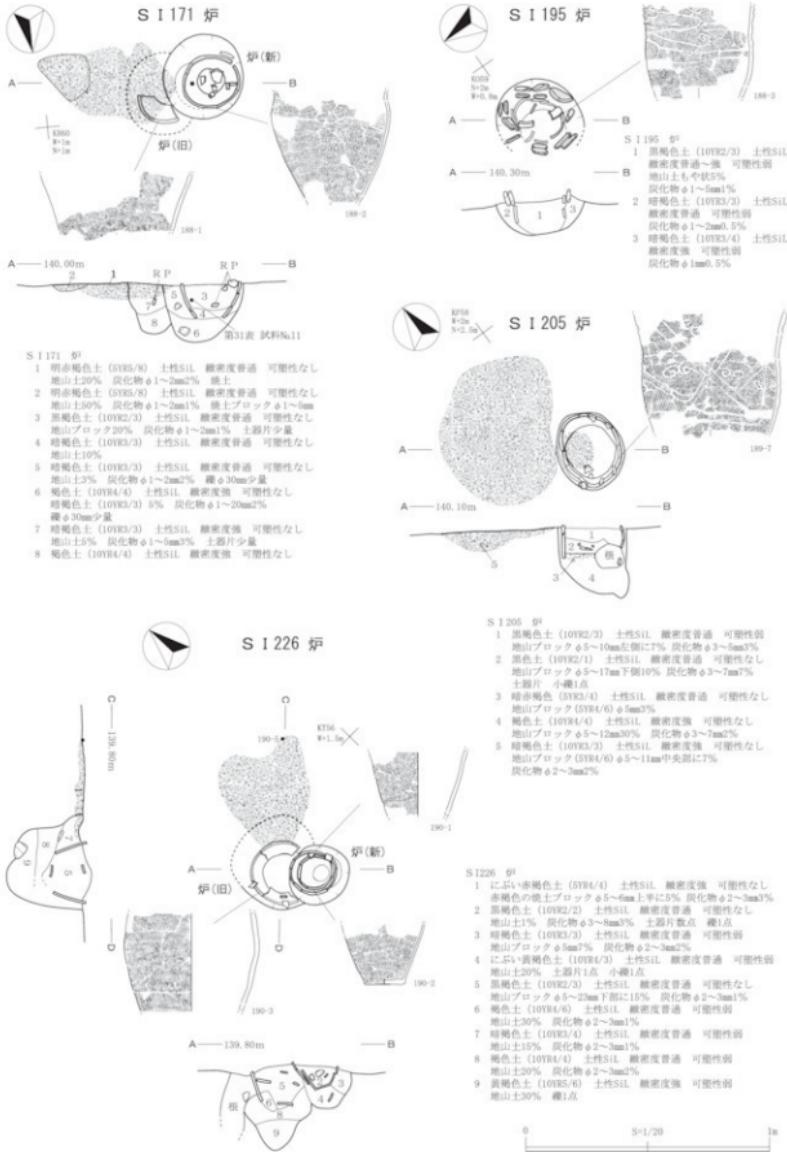
SRN903



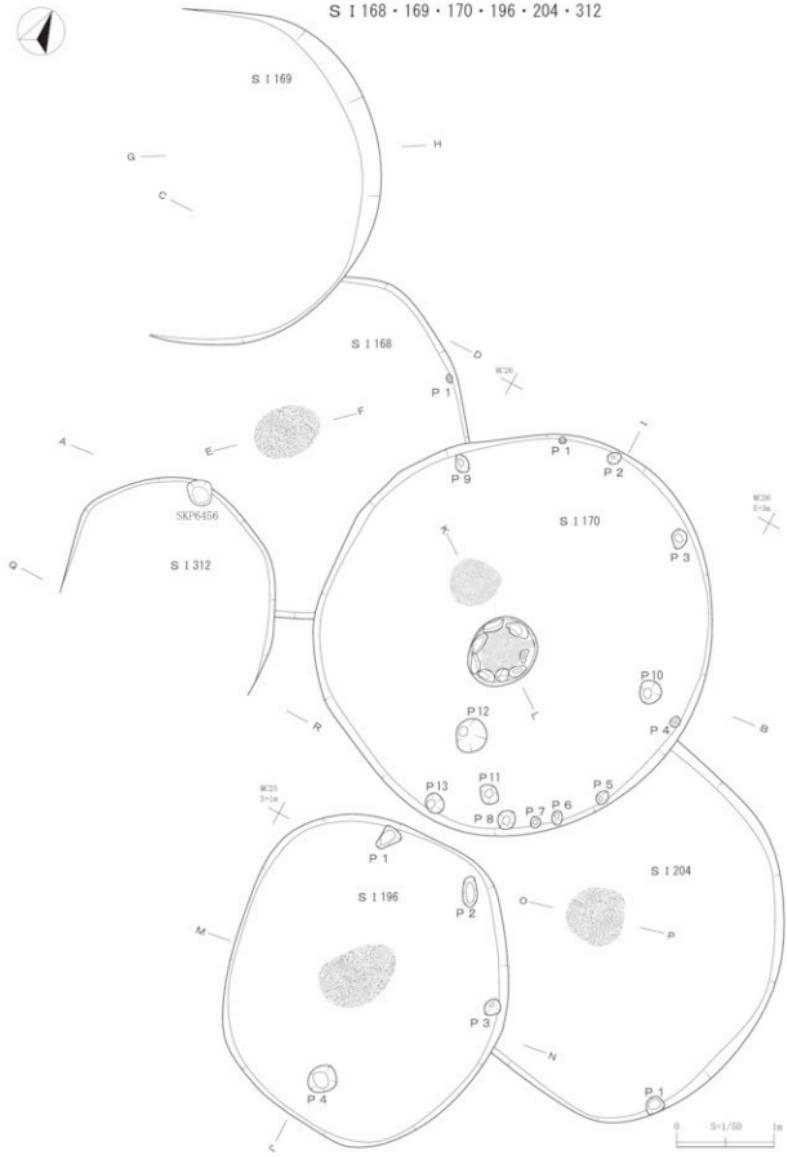
- S-RN903
 1 暗褐色土～黑褐色土 (10YR3/4~4/4)
 土性CL 粘稠度普通 可塑性やや強い
 地山粒 ϕ 5~10mm15% 淡化物 ϕ 2~5mm3%
 烧土粒 ϕ 2~5mm6%
 2 棕色土 (5YR6/6)
 3 黄褐色土～黄褐色土 (10YR4/6~5/6)
 土性SC 粘稠度やや弱い 可塑性普通



第52図 繩文(中期)遺構図6
SKT858陥し穴、SRN903土器埋設炉、SN1096堆土遺構



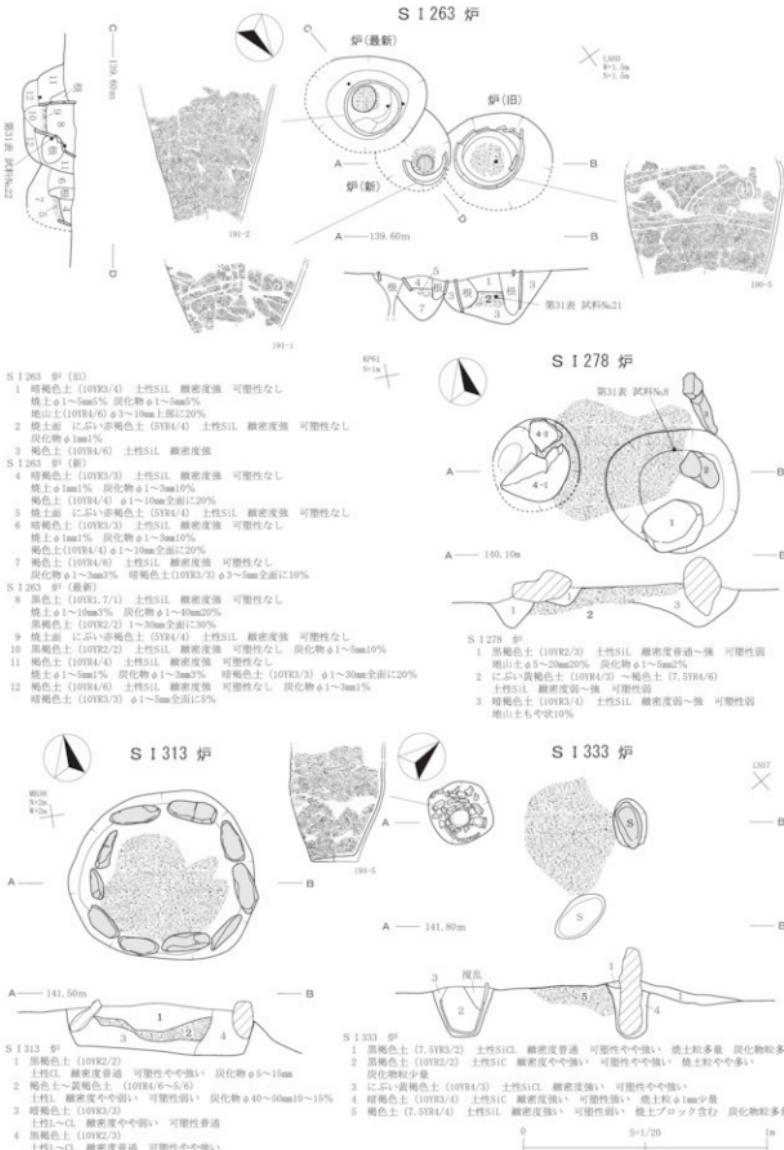
第53図 繩文(後期)遺構図1
S1171・195・205・226竪穴住跡



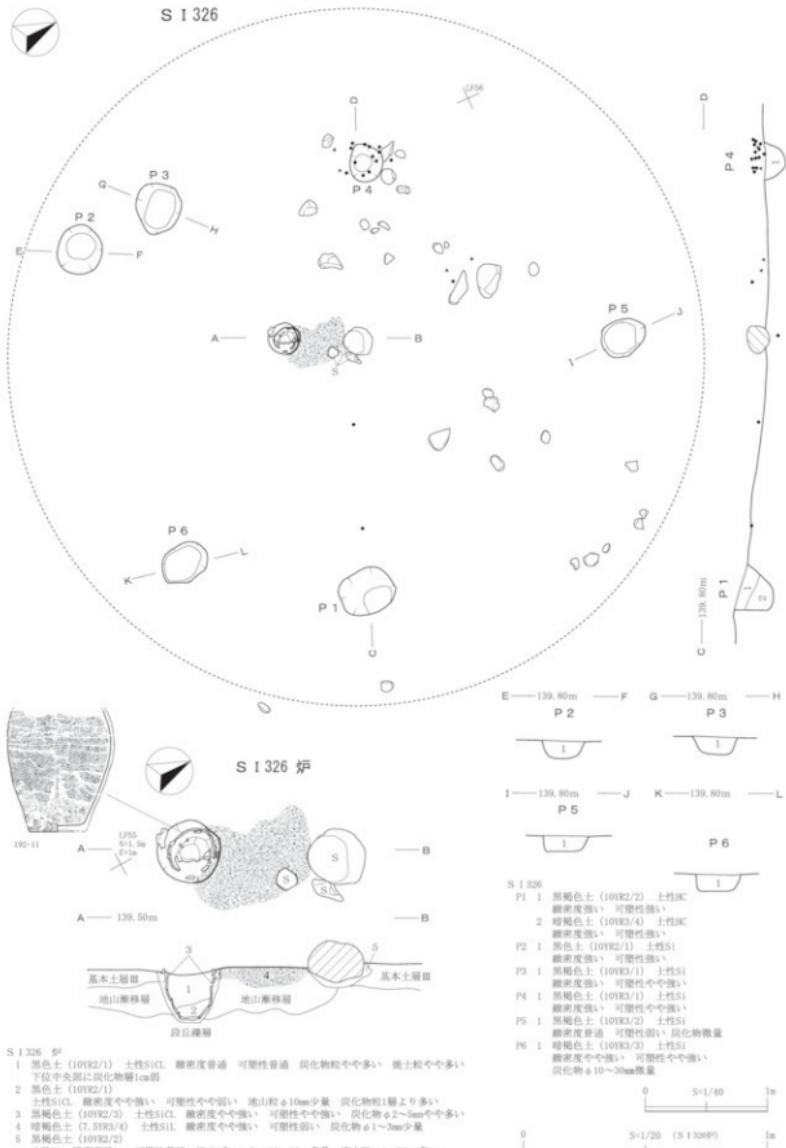
第54図 繩文(後期)遺構図2
S I 168・169・170・196・204・312竪穴住居跡



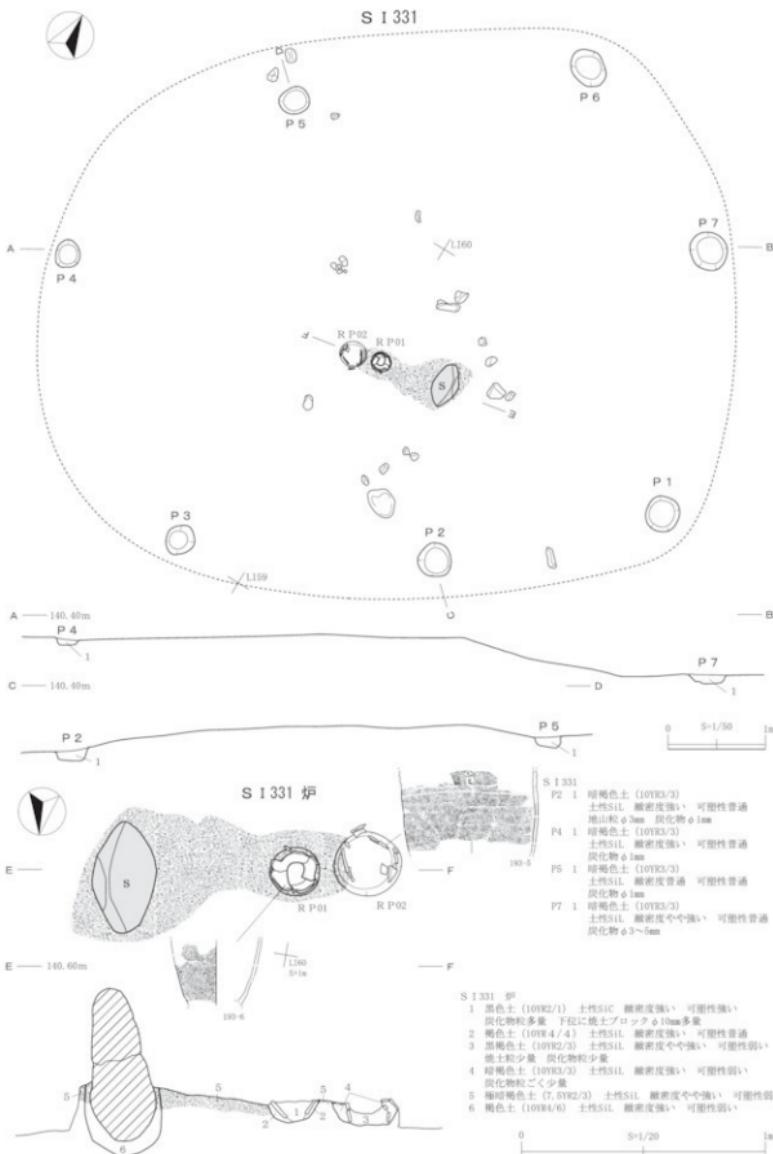
第55図 繩文(後期)遺構図3
S1168・1169・1170・1196・204・312縱穴住居跡



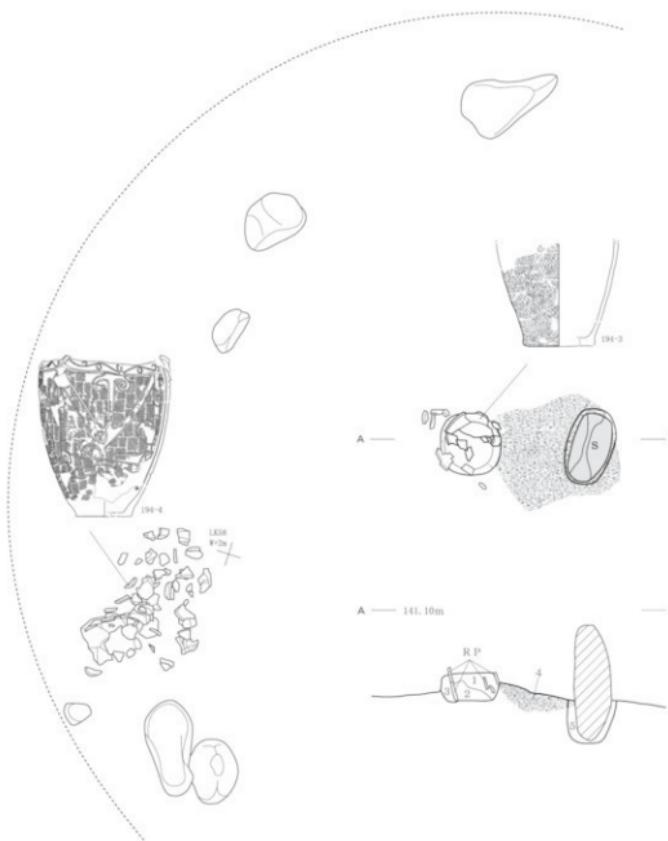
第56図 繩文(後期)遺構図 4
S I 263・278・313・333堅穴住居跡



第57図 繩文(後期)遺構図5
S I 326堅住居跡



第58図 繩文(後期)遺構図6
S1331竪穴住居跡



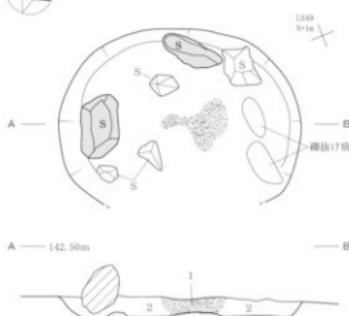
- S I 332
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 土性S1CL 粒密度やや強い 可塑性やや強い 地山ブロック φ20~50mm 炭化物 φ1mm
 - 2 黒褐色土 (10YR2/3) 土性S1L 粒密度やや強い 可塑性弱い 炭化物 φ1~3mm
 - 3 墓褐色土 (10YR3/4) 土性S1CL 粒密度強い 可塑性やや強い 炭化物 φ1mm
 - 4 明赤褐色土 (5YR5/8) 土性 S1CL 粒密度やや強い 可塑性やや強い 炭化物 φ1mm
 - 5 墓褐色土 (10YR3/3) 土性S1CL 粒密度強い 可塑性やや強い

0 5:1/20 1m

第59図 繩文(後期)遺構図7
SI332竪穴住居跡



S I 335 炉

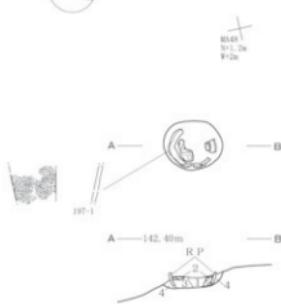


S I 335 炉

- 1 棕褐色土 (7.5YR7/6) 土性SIL 繊密度やや強い 可塑性普通
2 黑褐色土 (10YR3/1) 土性SI 繊密度普通 可塑性普通



S I 485 炉

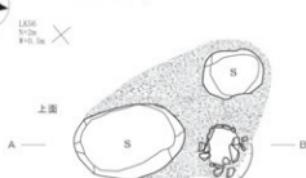


S I 485 炉

- 1 棕褐色土 (10YR3/4)
土性SI 繊密度やや強い 可塑性やや強い
2 棕褐色土 (7.5YR7/6)
土性SI 繊密度さわめて強い 可塑性弱い
3 棕褐色土 (10YR4/2)
土性SI 繊密度やや強い 可塑性強
4 黑褐色土 (10YR4/4)
土性SI 繊密度やや弱い 可塑性やや強い 炭化物 $\phi 0.5\sim1mm$ 1%



S I 353 炉

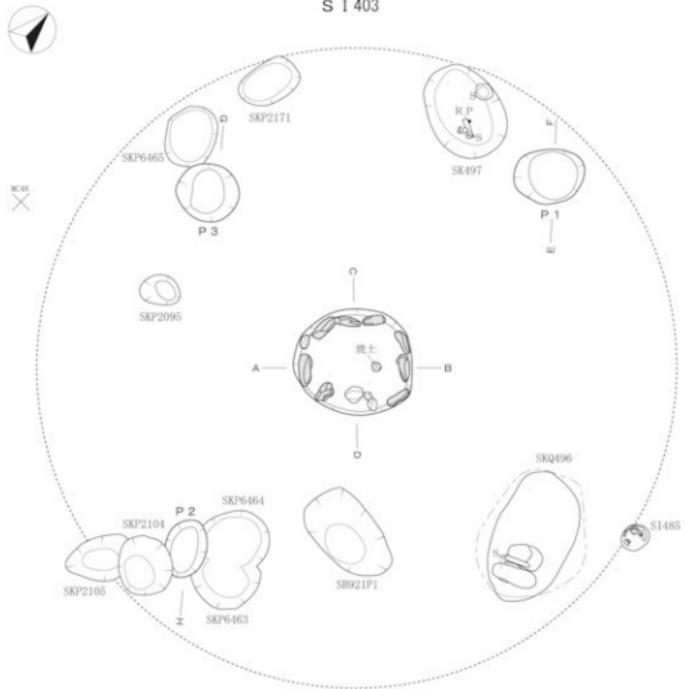


S I 353 炉

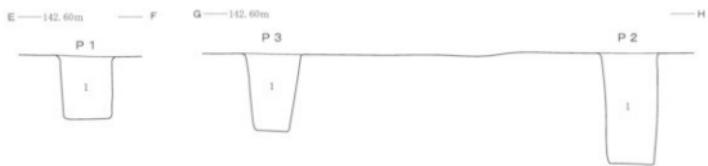
- 1 棕褐色土 (10YR2/2) 土性SIC 繊密度やや強い 可塑性弱い
2 稼働褐色土 (10YR2/2) 土性SIC 繊密度弱い 可塑性強
3 深黄褐色土 (10YR4/2) 土性SCL 繊密度強い 可塑性やや強い
4 に点々 黄褐色土 (10YR4/3) 土性SIL 繊密度弱い 可塑性弱い
5 黑褐色土 (7.5YR2/2) 土性SIL 繊密度やや弱い 可塑性弱い
地山灰 $\phi 2mm$ 炭化物 $\phi 3mm$
6 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 土性SIL 繊密度強い 可塑性弱い 炭化物 $\phi 3mm$
7 黑褐色土 (10YR3/1) 土性SIC 繊密度強い 可塑性弱い
8 棕褐色土 (10YR3/2) 土性SIL 繊密度やや強い 可塑性弱い
地山灰 $\phi 5mm$ 炭化物 $\phi 8mm$

第60図 繩文(後期)遺構図 8
S I 335・353・485竪穴住居跡

S I 403



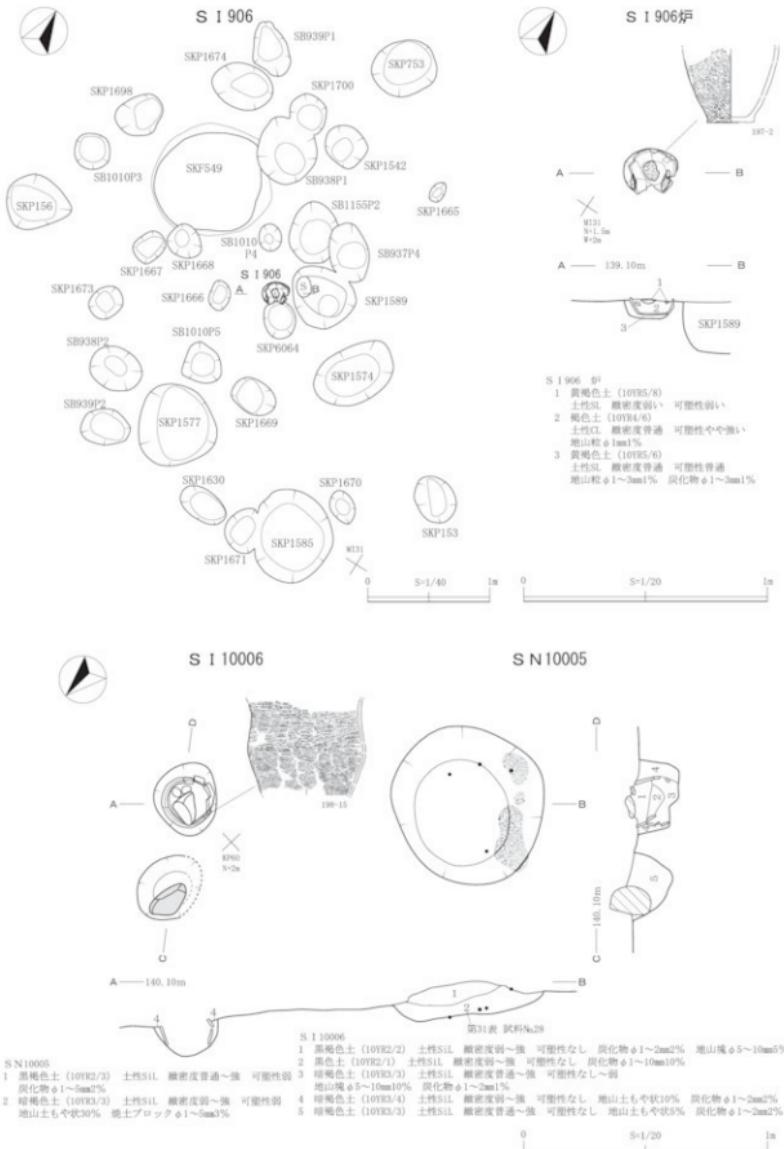
S I 403 ①
1 黒褐色土 (10YR4/4) 土性CL 粗密度弱い
可塑性や強い 地山軟 ϕ 1mm 1%
2 明褐色土 (7.5YR5/8) 土性CL
粗密度普通 可塑性普通



S I 403
P1 1 黒褐色土 (10YR2/2)
P2 1 明褐色土 (7.5YR5/8) 地山土30%
P3 1 明褐色土 (7.5YR3/3) 地山土30%

0 50/140 1m

第61図 繩文(後期)遺構図 9
S I 403堅穴住居跡

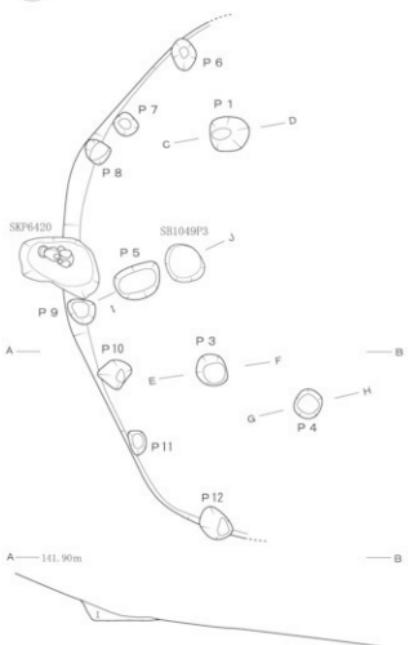


第62図 繩文(後期)遺構図10
S1906・10006竪穴住居跡、SN10005焼土遺構



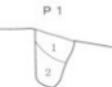
S I 975

NNE



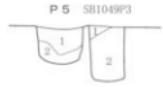
C —— 141.90m D —— 141.90m

E —— 141.90m F —— 141.90m



G —— 141.90m H —— 141.90m

I —— 141.90m J —— 141.90m



S I 975

- 1 黒褐色土 (10YR2/2-2/3) 土性CL 繊密度普通 可能性やや強い
地山粒φ2~5mm微量 硬化物微量
- 1 錆褐色土 (10YR3/2) 土性CL-C 繊密度普通 可能性やや強い
地山粒φ2~5mm微量 硬化物微量
- 2 錆色土 (10YR4/4) 土性CL 繊密度やや弱い 可能性やや強い
地山粒φ1~1.5mm微量 硬化物微量
- 1 錆褐色土 (10YR3/3) 土性CL-C 繊密度普通 可能性やや強い
地山粒φ2~5mm微量 硬化物微量
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 土性CL-C 繊密度普通 可能性やや強い
地山粒φ2~5mm微量 硬化物微量
- 1 錆褐色土 (10YR4/4) 土性CL-C 繊密度普通 可能性やや強い
地山粒φ1~1.5mm微量 硬化物微量
- 2 黒褐色土 (10YR2/1) 土性CL 繊密度普通 可能性やや強い
地山粒φ2~5mm微量 硬化物φ2~5mm微量
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 土性CL 繊密度やや弱い 可能性強い
地山粒φ2~40mm微量 硬化物微量
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 土性CL 繊密度普通 可能性弱い
地山粒φ2~10mm微量 硬化物微量

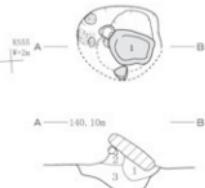
SB1049 P3

- 1 錆褐色土 (10YR3/3) 土性CL-C 繊密度普通 可能性やや強い
地山粒φ2~5mm微量 硬化物微量
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 土性CL 繊密度弱い 可能性強い
地山粒φ2~10mm微量 硬化物微量

0 S=1/50 1m



S I 10013



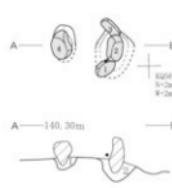
A —— 140.10m B —— 140.10m

S I 10013

- 1 錆褐色土 (10YR3/3) 土性L 繊密度弱 可能性普通
地山ブロックφ5~12mm2% 地山3% 硬化物φ2~3mm1%
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 土性L 繊密度弱 可能性弱
地山ブロックφ5mm1% 地山2% 硬化物φ2mm1%
地山ブロックφ5mm4%混入
- 3 錆褐色土 (10YR3/4) 土性L 繊密度普通 可能性強
地山ブロックφ1~2mm15% 地山1.3% 硬化物φ3~12mm2%



S I 10091



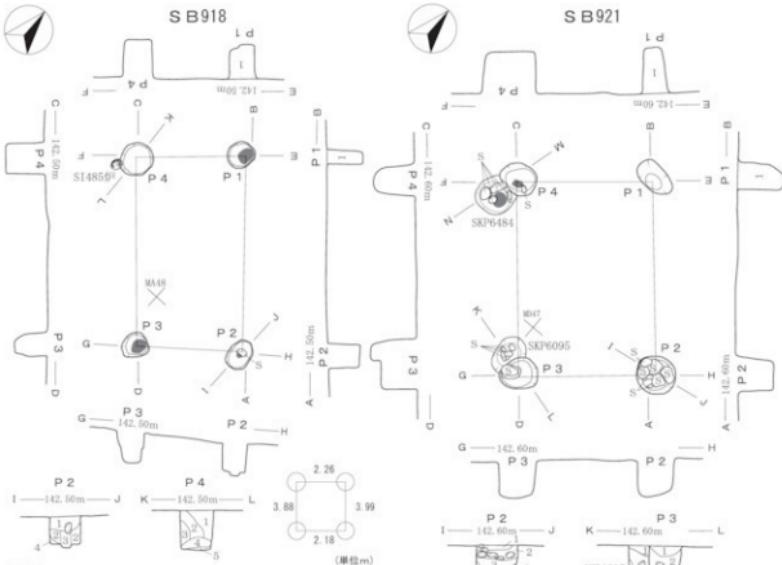
A —— 140.30m B —— 140.30m

S I 10091

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 土性SIL 繊密度強 可能性普通
地山土1%
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 土性SIL 繊密度強 可能性普通
地山ブロックφ5~7mm5%

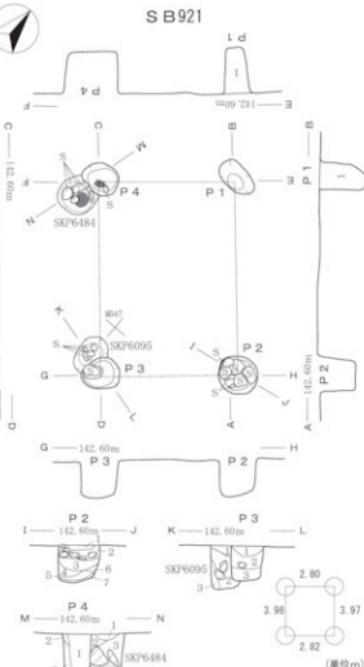
0 S=1/40 1m

第63図 繩文(後期)遺構図11
S I 975-10013-10091堅穴住居跡



S B918

- 1 黄褐色土 (10YR5/6) 地山土50% 中位より後期土1点
- 2 黄褐色土 (10YR2/3) 地山粒 $\phi 3\sim 5\text{mm} 10\%$
- 2 黄褐色土 (10YR5/6)
- 3 黑褐色土 (10YR2/3) 地山粒 $\phi 3\sim 5\text{mm} 10\%$
- 4 黑褐色土 (10YR2/3)
- 1 喀斯特土 (10YR2/4) 岩化物 $\phi 0.5\sim 1\text{mm} 5\%$
- 2 喀斯特土 (10YR4/4) 岩化物 $\phi 0.5\sim 1\text{mm} 1\%$
- 3 喀斯特土 (10YR4/4) 岩化物 $\phi 0.5\sim 1\text{mm} 2\%$
- 4 喀斯特土 (10YR4/4) 地山粒 $\phi 3\sim 10\text{mm} 1\%$
- 5 喀斯特土 (10YR3/3) 地山粒 $\phi 1\sim 3\text{mm} 1\%$



S B921

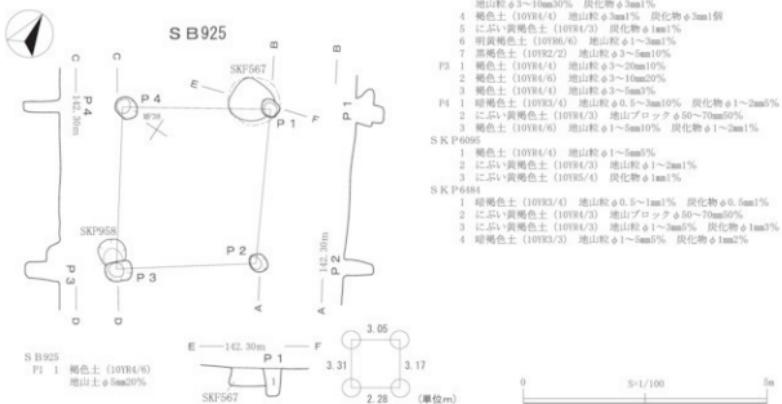
- 1 喀斯特土 (10YR3/4) 地山ブロック $\phi 5\sim 20\text{mm} 5\%$
- 2 喀斯特土 (10YR4/6)
- 2 喀斯特土 (10YR4/4)
- 3 にぶ~黄褐色土 (10YR4/3) 地山粒 $\phi 3\sim 10\text{mm} 30\%$ 岩化物 $\phi 3\text{mm} 1\%$
- 4 喀斯特土 (10YR4/4) 地山粒 $\phi 3\sim 20\text{mm} 10\%$ 岩化物 $\phi 3\text{mm} 1\%$
- 5 喀斯特土 (10YR4/4) 地山粒 $\phi 1\sim 3\text{mm} 1\%$
- 6 明黄褐色土 (10YR6/6) 地山粒 $\phi 1\sim 3\text{mm} 1\%$
- 7 黑褐色土 (10YR2/2) 地山粒 $\phi 3\sim 5\text{mm} 10\%$
- P1 1 喀斯特土 (10YR4/4) 地山粒 $\phi 3\sim 20\text{mm} 10\%$
- 2 喀斯特土 (10YR4/6) 地山粒 $\phi 3\sim 10\text{mm} 20\%$
- 3 喀斯特土 (10YR4/4) 地山粒 $\phi 3\sim 5\text{mm} 3\%$
- P4 1 喀斯特土 (10YR3/4) 地山粒 $\phi 0.5\sim 3\text{mm} 10\%$ 岩化物 $\phi 1\sim 2\text{mm} 5\%$
- 2 にぶ~黄褐色土 (10YR4/3) 地山粒 $\phi 50\sim 70\text{mm} 50\%$
- 3 にぶ~黄褐色土 (10YR4/4) 地山粒 $\phi 1\sim 3\text{mm} 1\%$ 岩化物 $\phi 1\text{mm} 3\%$

S K P6484

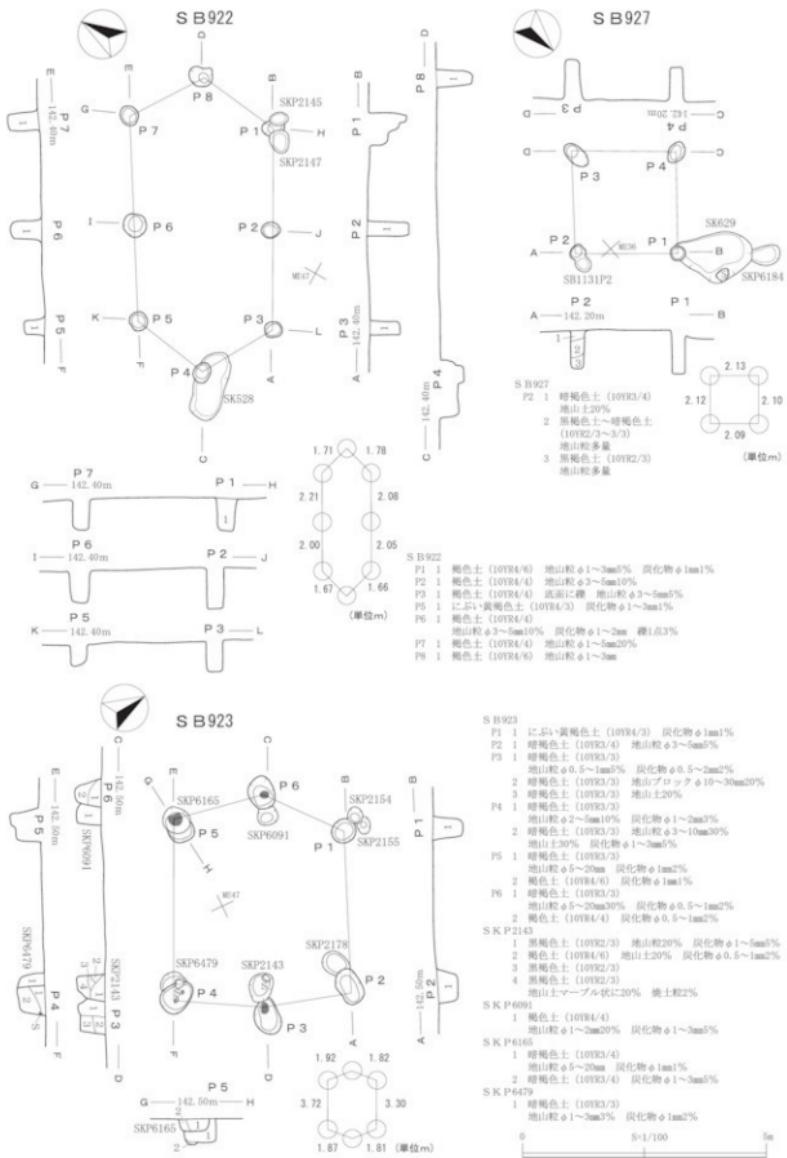
- 1 喀斯特土 (10YR4/4) 地山粒 $\phi 1\sim 5\text{mm} 5\%$
- 2 にぶ~黄褐色土 (10YR4/3) 地山粒 $\phi 1\sim 2\text{mm} 1\%$
- 3 にぶ~黄褐色土 (10YR5/4) 岩化物 $\phi 1\text{mm} 1\%$

S K P6484

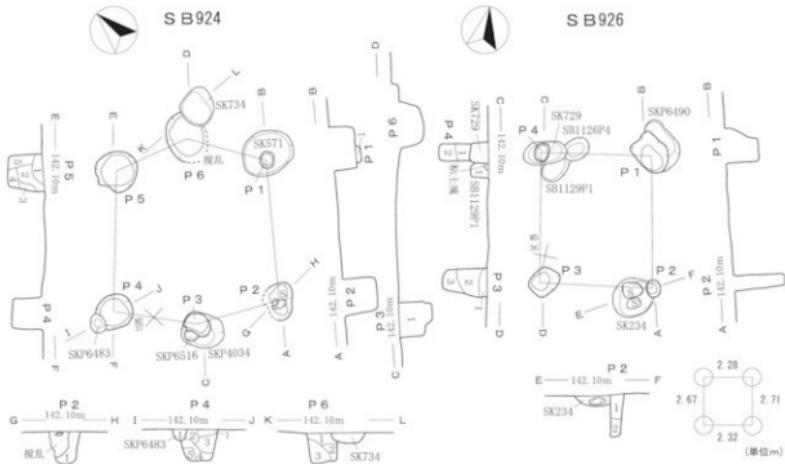
- 1 喀斯特土 (10YR3/4) 地山粒 $\phi 0.5\sim 1\text{mm} 1\%$ 岩化物 $\phi 0.5\text{mm} 1\%$
- 2 にぶ~黄褐色土 (10YR4/3) 地山ブロック $\phi 50\sim 70\text{mm} 50\%$
- 3 にぶ~黄褐色土 (10YR4/3) 地山粒 $\phi 1\sim 3\text{mm} 1\%$ 岩化物 $\phi 1\text{mm} 3\%$
- 4 喀斯特土 (10YR3/3) 地山粒 $\phi 1\sim 5\text{mm} 10\%$ 岩化物 $\phi 1\text{mm} 2\%$



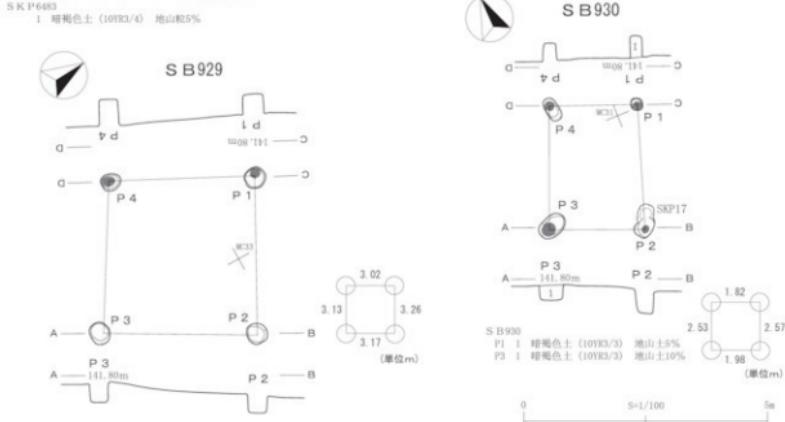
第64図 繩文(後期)遺構図12
SB918・921・925掘立柱建物跡



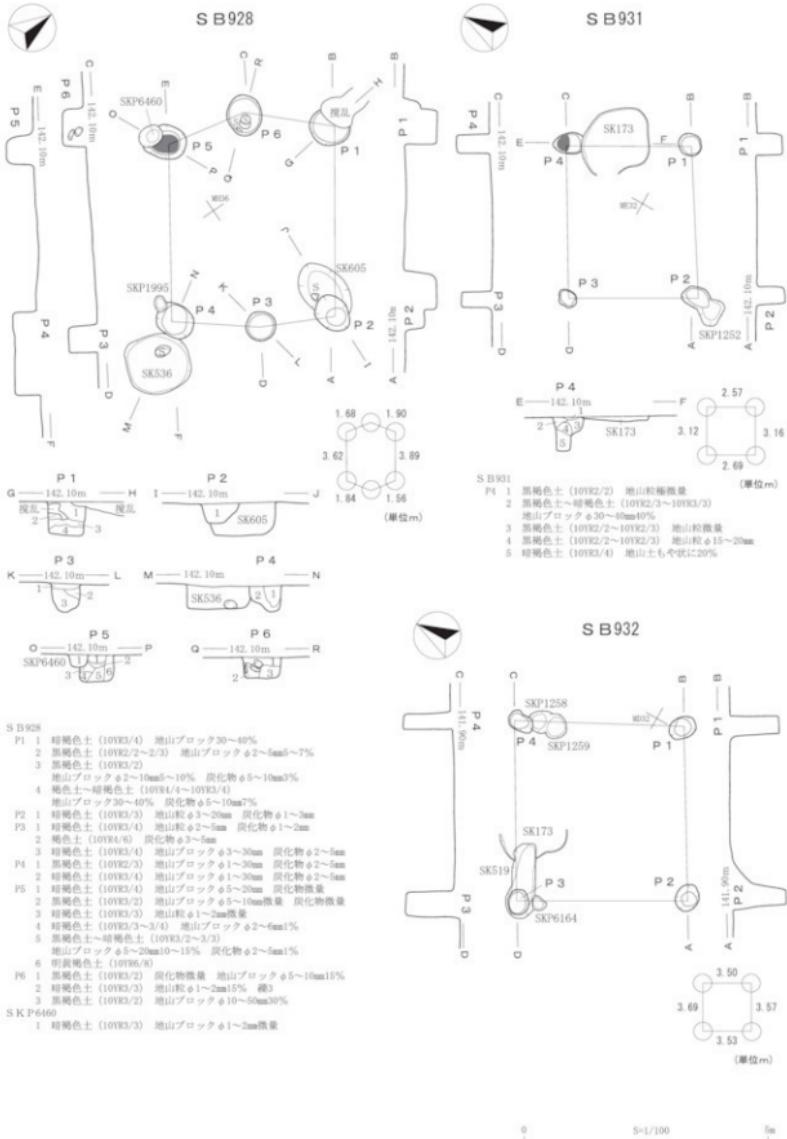
第65図 繩文(後期)遺構図13
S B922・923・927掘立柱建物跡



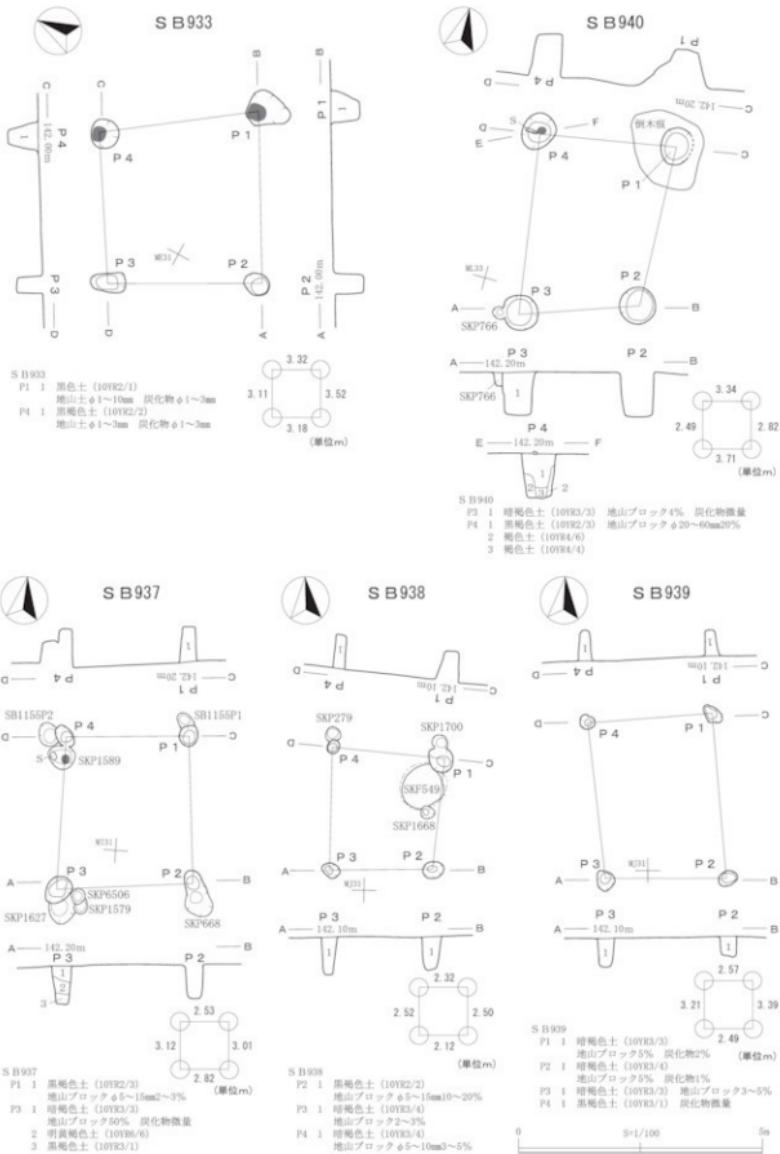
S B924	P1 1 黒褐色土 (10YR2/1) 地山粒 ϕ 2~5mm 15%
	P2 1 帽褐色土色 (10YR3/3) 地山粒 ϕ 5mm 地山ブロック ϕ 30~50mm 15% 炭化物微量
	P3 1 黑褐色土 (10YR2/3) 地山粒 ϕ 5mm
	P4 1 帽褐色土 (10YR3/2) 地山粒 ϕ 5~10mm
	褐色土 (10YR4/4) 地山粒 10~15%
	褐色土 (10YR3/3) 地山粒 ϕ 5~10mm
	褐色土 (10YR4/4) 地山粒 15%
	5 にぶい 黄褐色土 (10YR4/5) 地山粒 5~10% 地山ブロック ϕ 30~60mm 20%
	P5 1 帽褐色土 (10YR3/3) 地山粒 20% 炭化物微量
	褐色土 (10YR4/6) 地山粒 15% 炭化物微量
	褐色土 (10YR4/6) 地山粒 15% 炭化物微量
	褐色土 (10YR4/6) 地山粒 15% 炭化物微量
	褐色土 (10YR3/4) 地山粒 10% 地山土 20% 炭化物微量
	褐色土 (10YR4/4) 地山粒 10% 地山土 20% 炭化物微量
	褐色土 (10YR4/6) 地山粒 5% 地山土 15% 炭化物微量
	褐色土 (10YR3/3) 地山粒 30~100mm 15% 炭化物微量
S K P6483	1 帽褐色土 (10YR3/4) 地山粒 5%



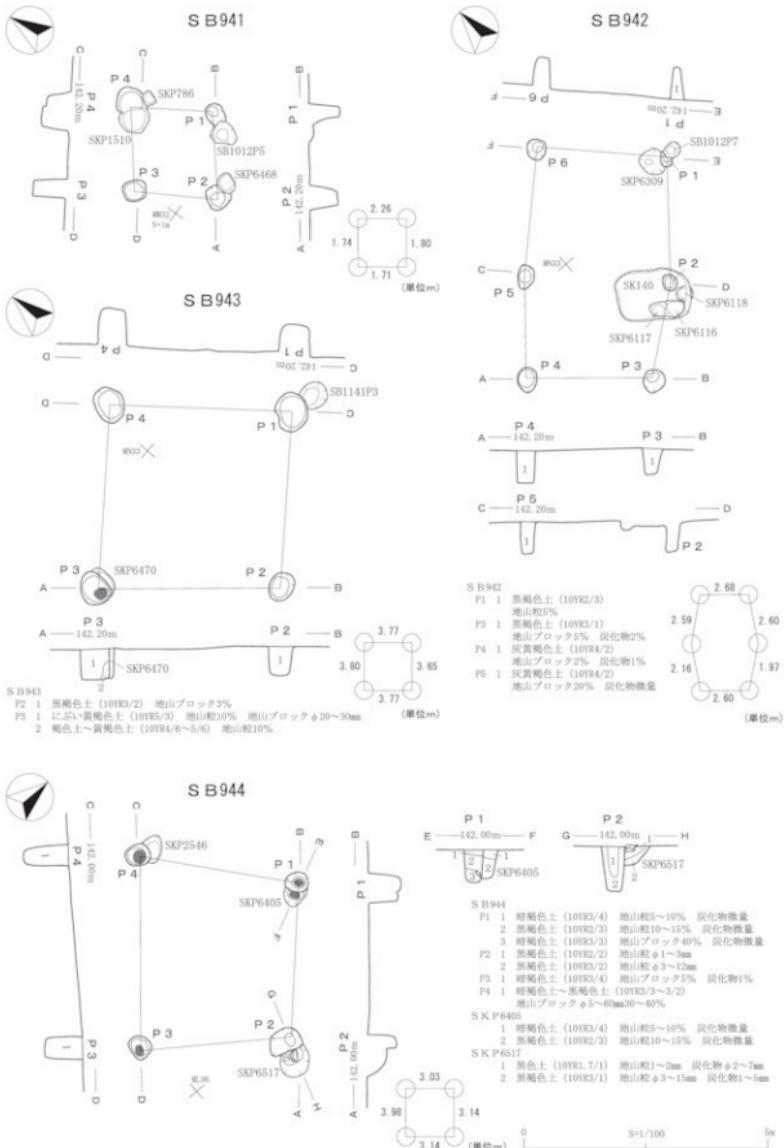
第66図 繩文(後期)遺構図14
SB924・926・929・930掘立柱建物跡



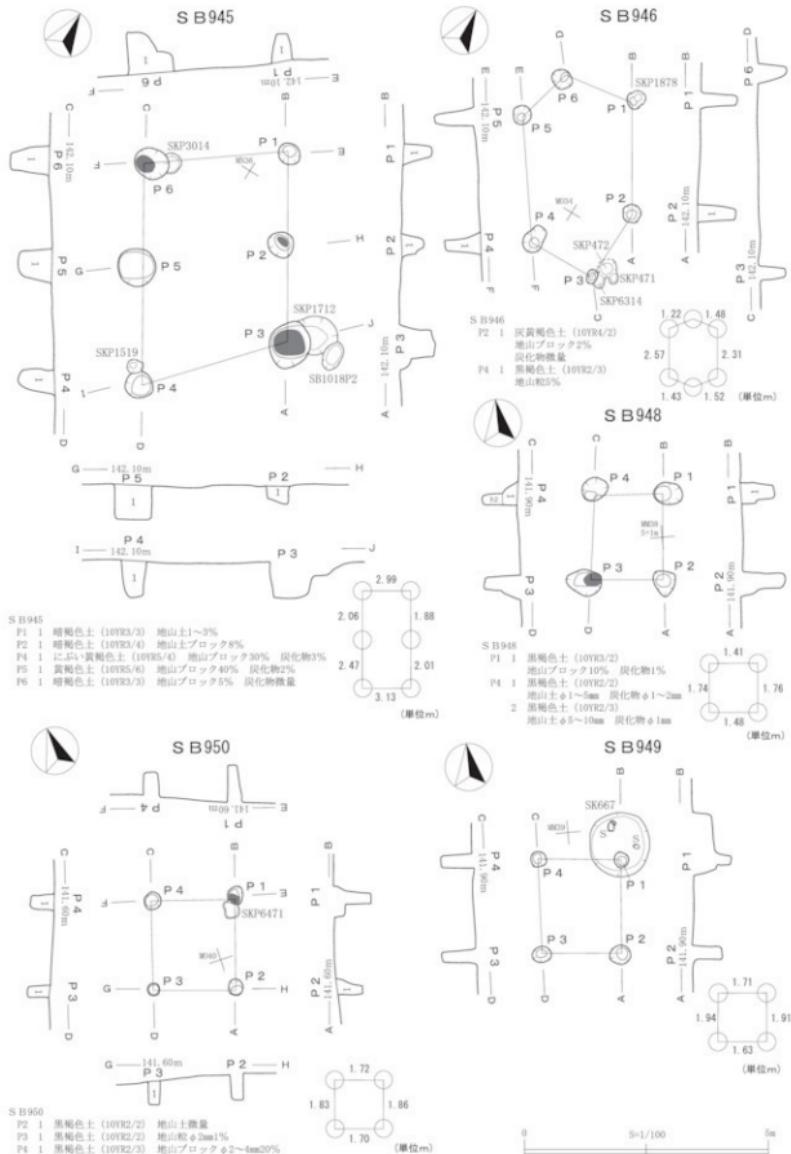
第67図 繩文(後期)遺構図15
SB928・931・932掘立柱建物跡



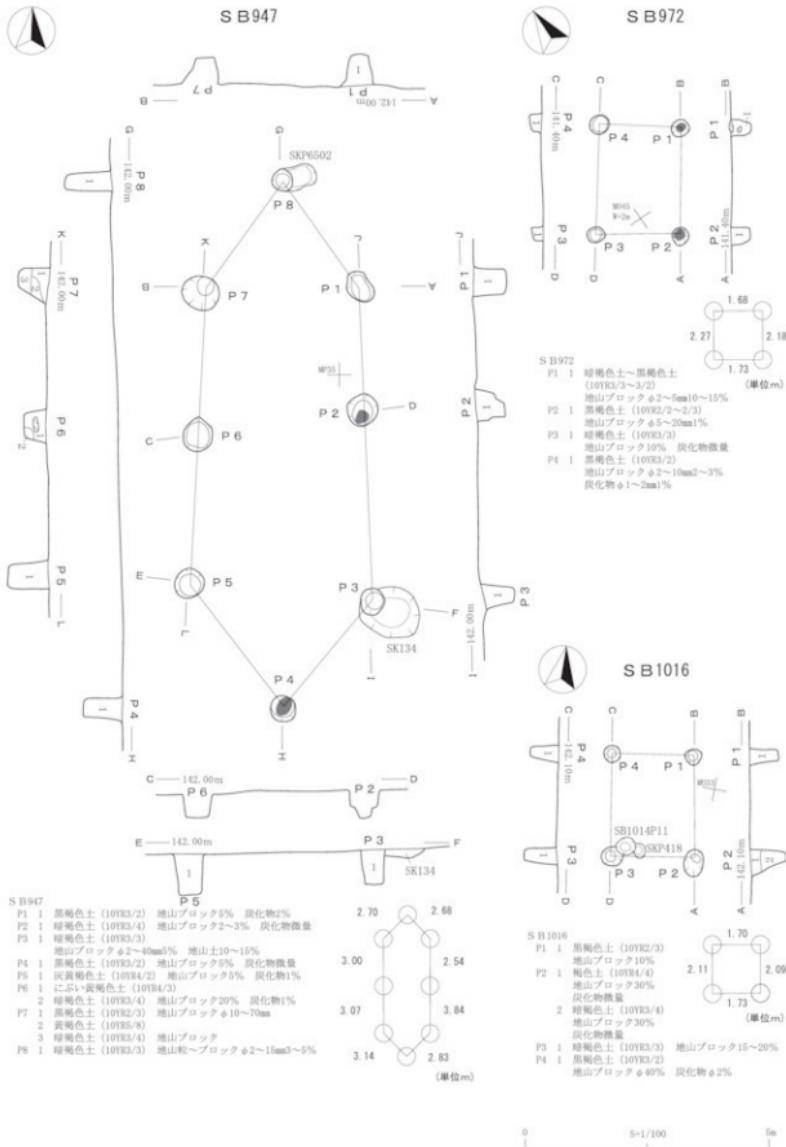
第68図 繩文(後期)遺構図16
SB933-937-938-939-940掘立柱建物跡



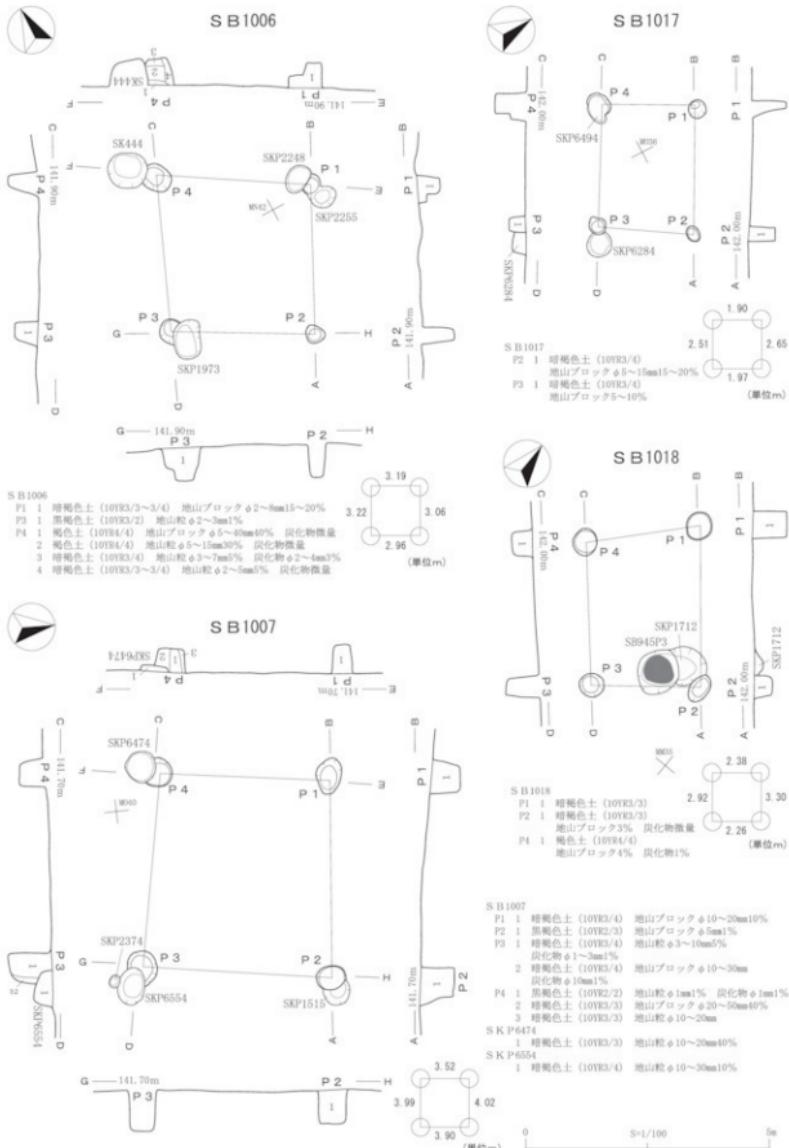
第69図 繩文(後期)遺構図17
SB941・942・943・944振立柱建物跡



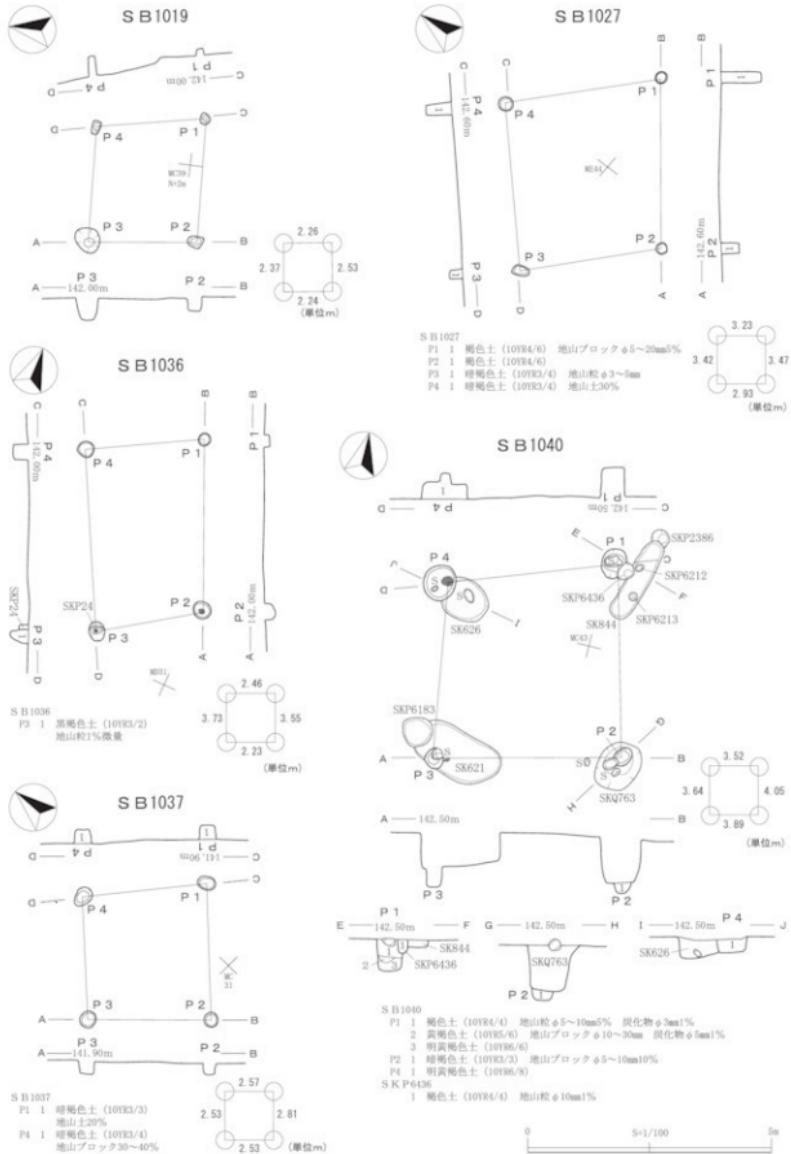
第70図 繩文(後期)遺構図18
 SB945・946・948・949・950掘立柱建物跡



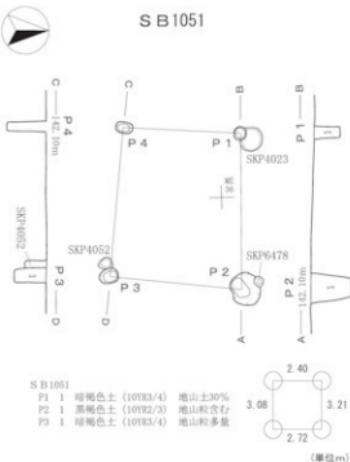
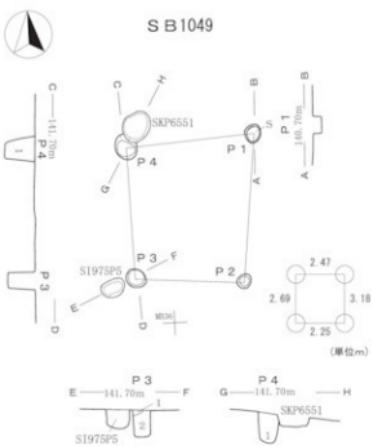
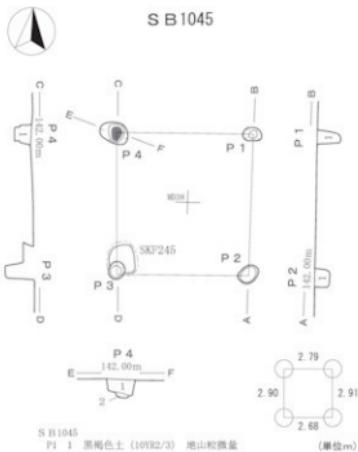
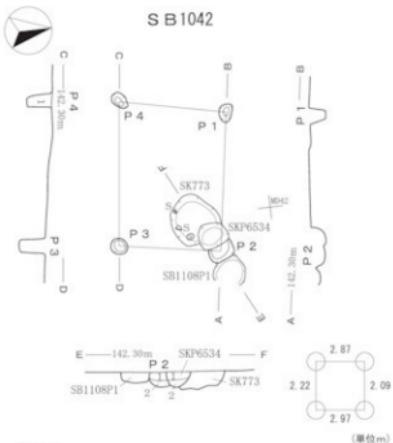
第71図 繩文(後期)遺構図19
SB947・972・1016縄立柱建物跡



第72図 繩文(後期)遺構図20
SB1006・1007・1017・1018掘立柱建物跡



第73図 繩文(後期)遺構図21
SB1019・1027・1036・1037・1040掘立柱建物跡

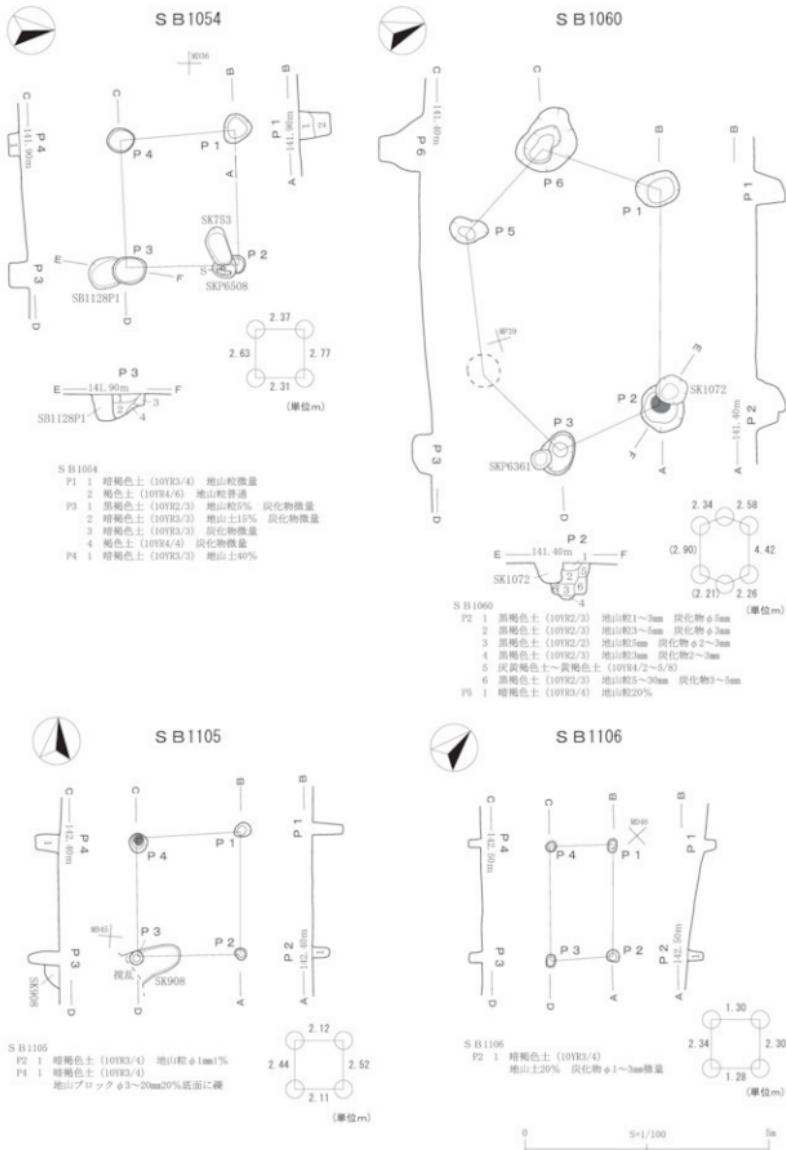


SB1049

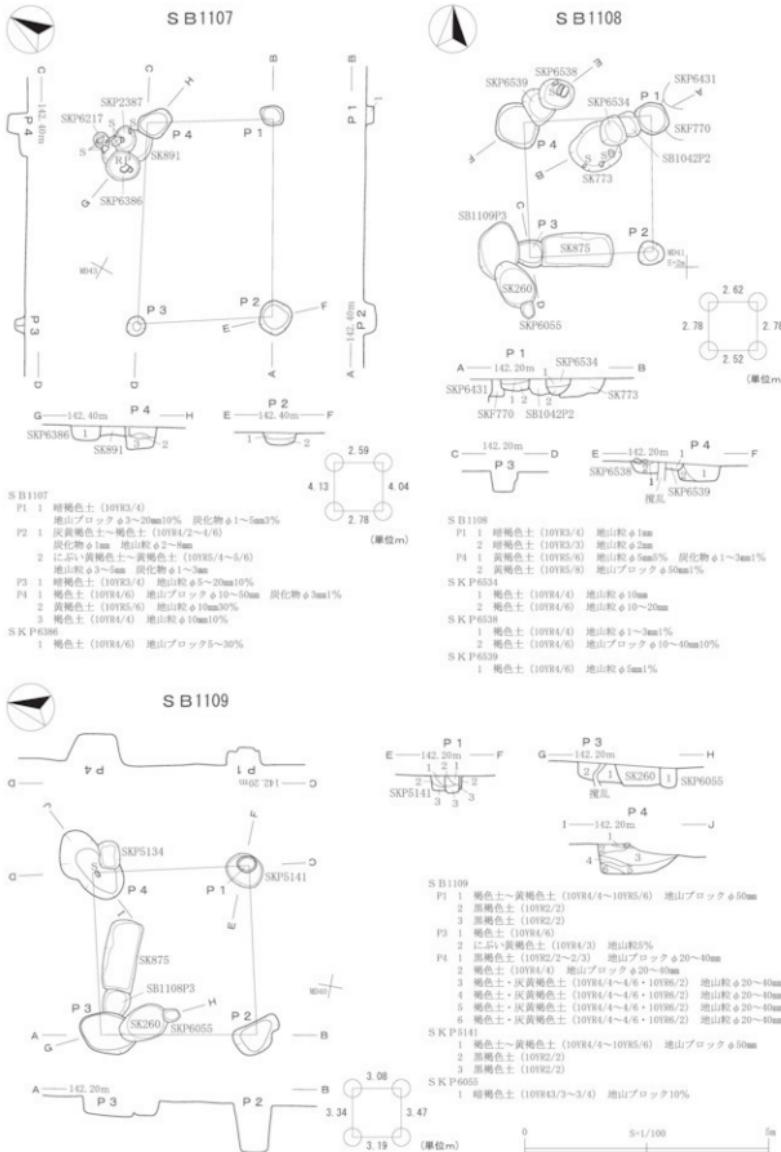
P1 1 緑褐色土 (10YR3/3) 地山粒φ2~5mm10% 灰化物微量
P2 1 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒φ2~10mm微量 灰化物微量
P3 1 黑褐色土～緑褐色土 (10YR2/3-3/3) 灰化物微量



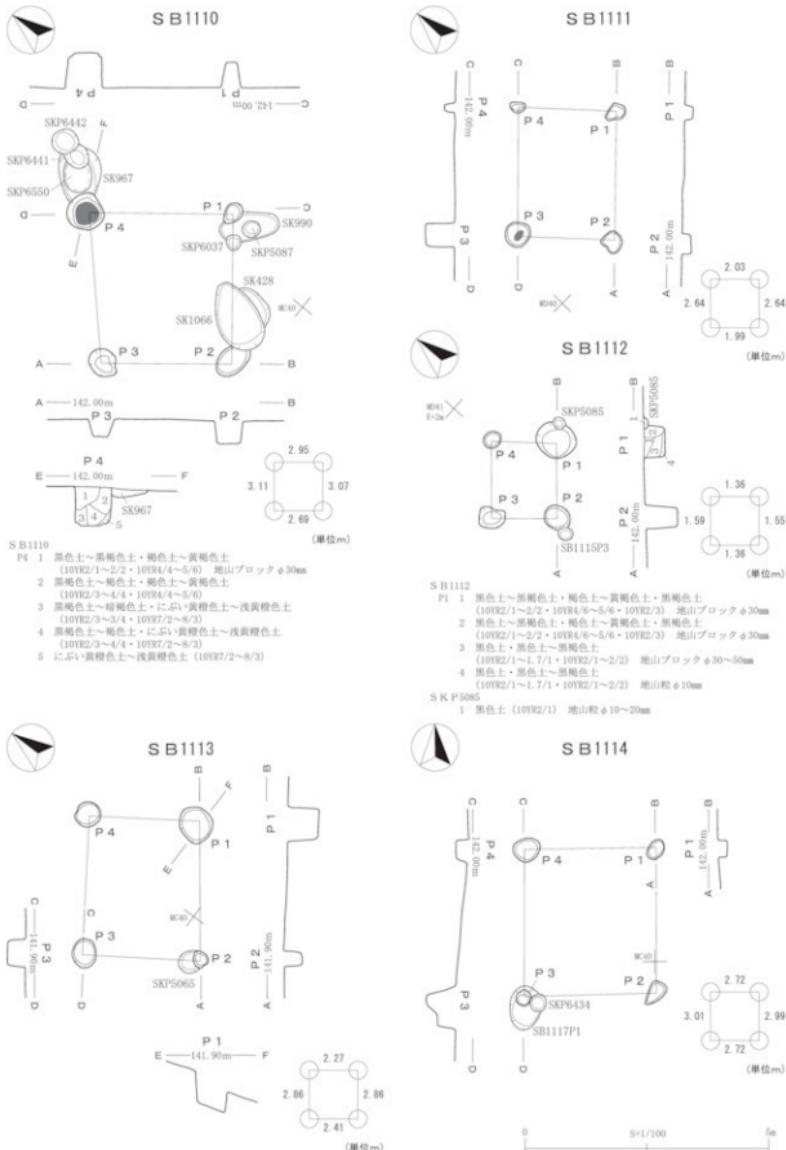
第74図 繩文(後期)遺構図22
SB1042・1045・1049・1051掘立柱建物跡



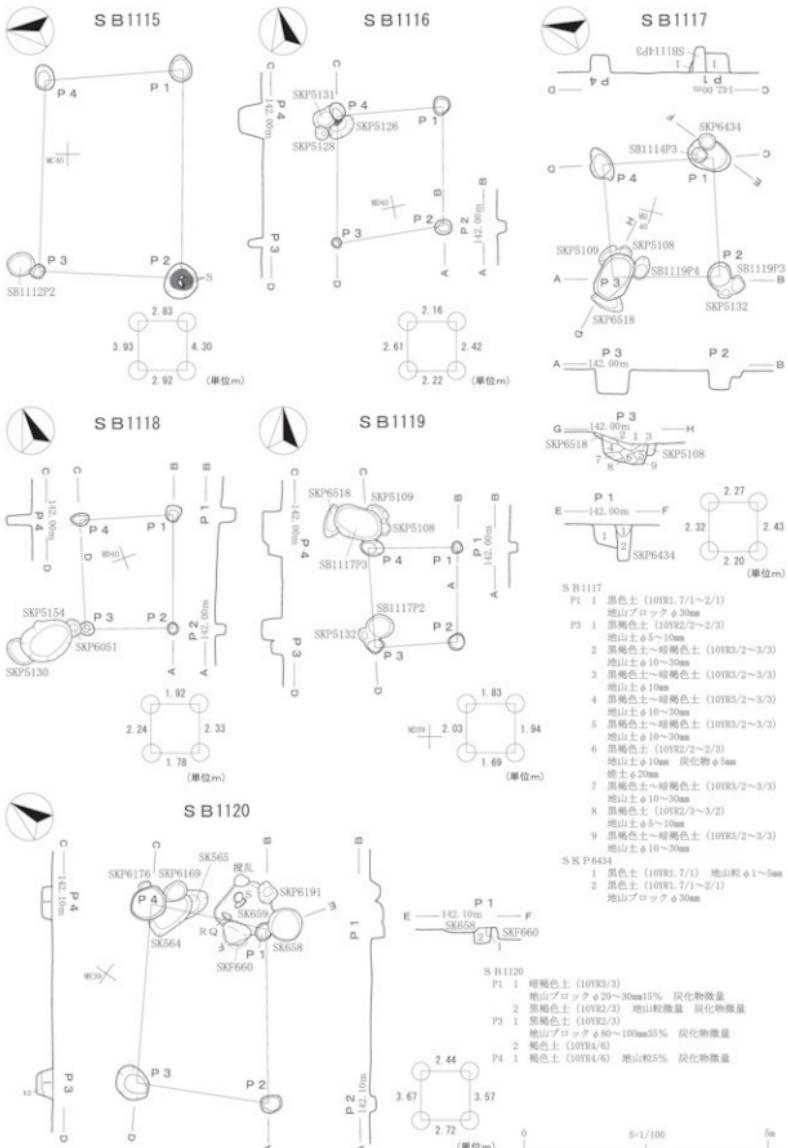
第75図 繩文(後期)遺構図23
SB1054・1060・1105・1106掘立柱建物跡



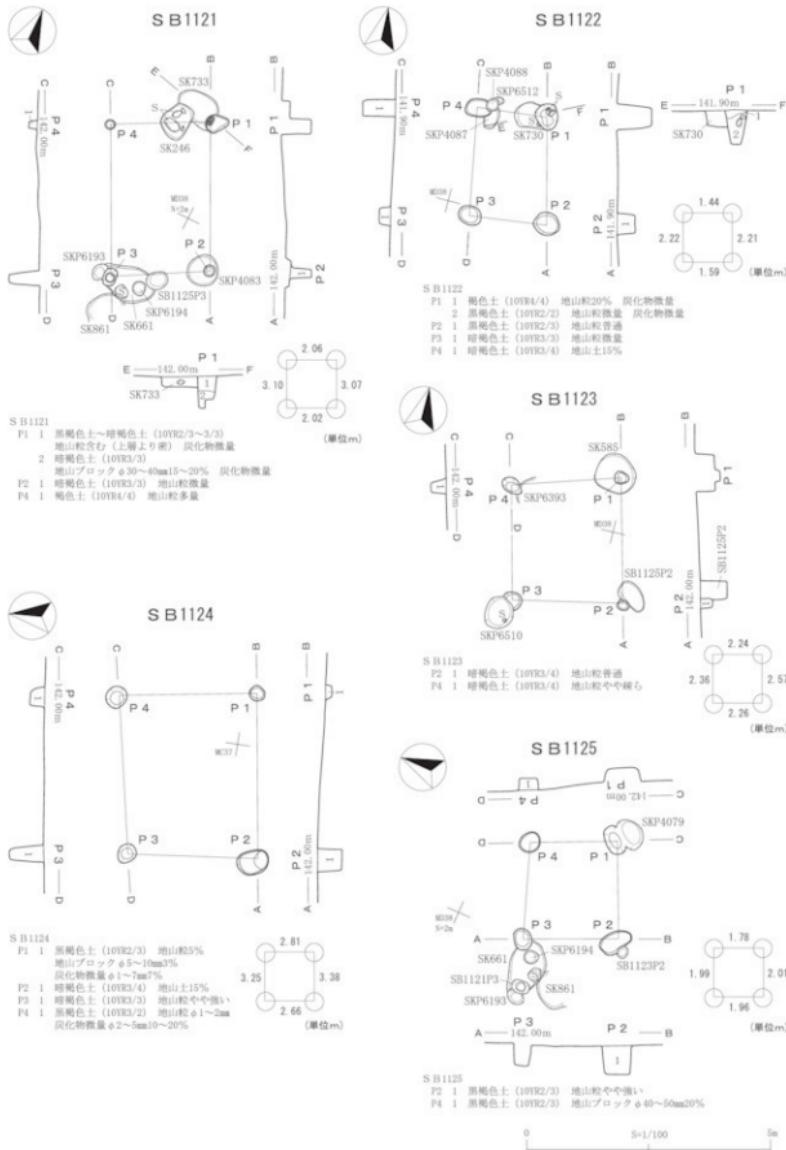
第76図 繩文(後期)遺構図24
SB1107-1108-1109掘立柱建物跡



第77図 繩文(後期)遺構図25
SB1110・1111・1112・1113・1114掘立柱建物跡



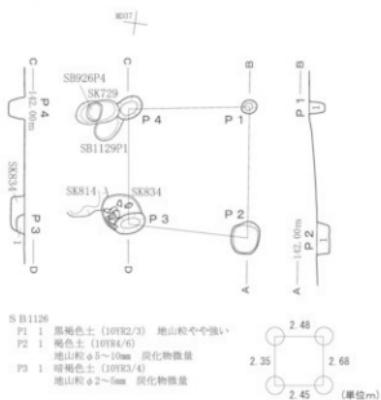
第78図 繩文(後期)遺構図26
SB1115・1116・1117・1118・1119・1120掘立柱建物跡



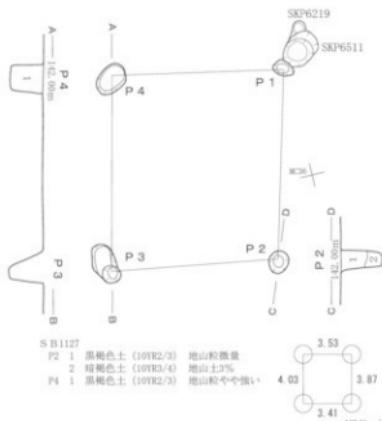
第79図 繩文(後期)遺構図27
SB1121・1122・1123・1124・1125掘立柱建物跡



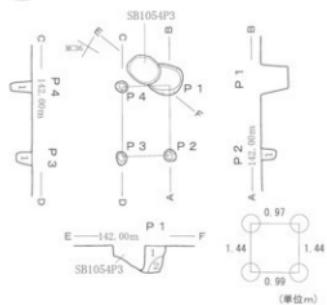
SB 1126



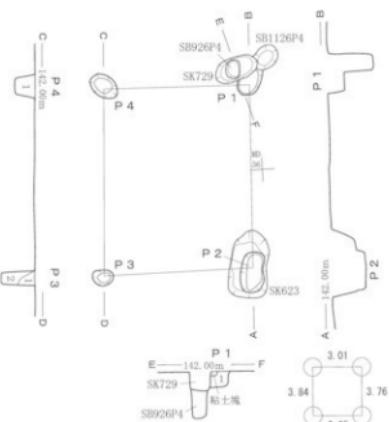
SB 1127



SB 1128

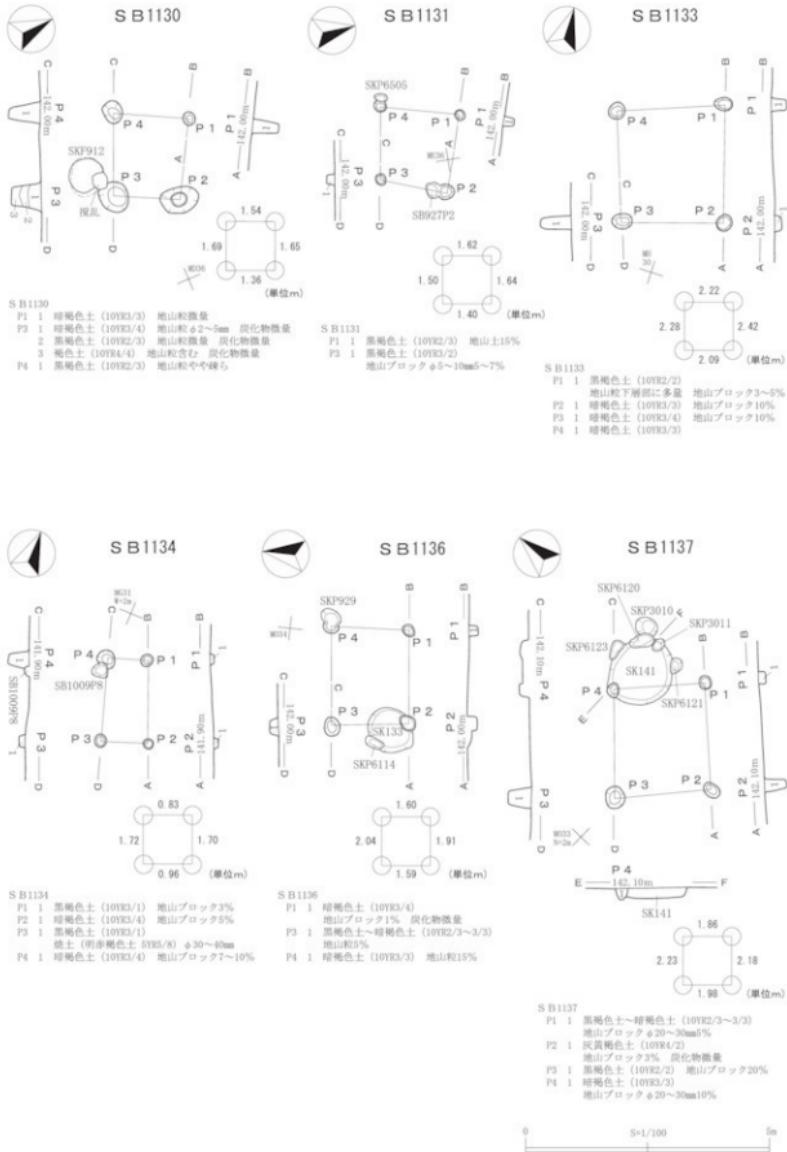


SB 1129



0 5-1/100 5m

第80図 繩文(後期)遺構図28
SB1126・1127・1128・1129掘立柱建物跡



第81図 繩文(後期)遺構図29
SB1130-1131-1133-1134-1136-1137柱立建物跡